

市立横手病院年報

平成 25 年 度

市 立 横 手 病 院

平成25年度年報発刊に当たり

市立横手病院院長 丹 羽 誠

東日本大震災から2年が経過し、大雪が連続した平成25年であった。

平成26年度に向けて診療報酬が改定されることは前提であったが、医療法の改正が現実化し、医療提供体制改革の嵐が吹き始めた年度である。

1) 診療体制について

4月に呼吸器内科常勤医が不在となり、増える呼吸器疾患の患者に対応する急務があった。非常勤医師により呼吸器アレルギー外来を何とか継続できたが、入院の対応については、医局あげでの協力をお願いすることになった。10月より秋田大学呼吸器外科の応援で外来が開設され、腫瘍を中心に多くの患者さんの対応をお願いできたのは幸いであった。

眼科白内障手術が4月から開始され、毎週2-3例の手術が行われるようになった。病棟看護体制の準備施行は万全であった。

麻酔科常勤医師の活躍には、近隣病院における麻酔科医の不在が長期になっての負担がある。応援医師を得られ、また、麻酔科レジデントが幸いにも在籍する1年間であったが、地域医療の危機の象徴ともいえる状態が続いている。

糖尿病専門の常勤医が不在となって5年が経過することとなった。内分泌外来は、週3回の非常勤医師の活躍でまかなわれているが、常勤医獲得が継続的な課題となっている。

2) 病棟体制について

平成21年『DPC対象』、平成23年『7対1看護体制』を採用して、入院日数の短縮化が図られてきた実績は、県内で注目されるものであった。しかし、国の医療提供体制改革；急性期病床削減の方針のもと、7対1病棟の削減目的で示された基準は、当院の実績でも例外にならず、新たな対応への判断を求められた。平成26年10月『地域包括ケア病棟』を導入する前提で、25年度末までに病棟の再編を行った。急なことであったが、各診療科看護科に協力を頂き、慌ただしく25年度を終了した。

3) 病院祭、そして「恋する・・・」

平成23年盛大に行われた病院祭から2年をおき、病院祭を開催することができた。閉会式後に「恋するフォーチュンクッキー横手市ver.」の撮影が行われ、思わぬ反響を呼ぶこととなった。

我々は地域住民に信頼される病院であるために、安心できる良質な医療を提供し、心ふれあう人間味豊かな対応をすることが目標である。その日々の営みは、患者家族に感謝される喜びのある一方で、誠に厳しい。そして、歌や踊りは人を元気づける。

目 次

巻頭言	1	循環器内科	36
目 次	2	呼吸器内科・アレルギー科	37
沿 革	7	心療内科	38
基本理念・基本方針	14	外科	39
倫理綱領	15	整形外科	43
患者様の権利と責務	16	小児科	45
病院の概要	19	産婦人科	49
開設者	19	眼科	51
名 称	19	泌尿器科	52
所在地	19	放射線科	53
開設年月日	19	麻酔科	55
事業管理者	19	リハビリテーション科	56
病床数	19	研修医	61
診療科目	19	救急センター	62
看護師配置基準	19	薬剤科	63
医療機関の指定等	19	診療放射線科	64
病院施設の概要	20	看護科	66
病院統計	23	2 A病棟	69
収支決算	23	3 A病棟	70
診療科別入院患者数	25	3 B病棟	71
診療科別外来患者数	26	3 C病棟	72
新患患者数	27	4 C病棟	73
再診患者数	27	外来部門	74
地域別患者数の状況	28	手術室・中央材料室・洗濯室	75
紹介患者数	29	人工透析室	76
救急患者統計	30	訪問看護センター	78
部門報告	33	ME室	80
診療科	33	臨床検査科	84
内 科	33	食養科	86
脳神経内科	33	健康管理センター	88
消化器内科	35	事務局	90

総務課	90	業務改善委員会	141
医事課	97	地域交流推進委員会	142
医療安全管理室	98	病院機能評価準備委員会	144
医療情報管理室	103	薬事委員会	145
地域医療連携室	104	衛生委員会	147
医師事務支援室	106	患者サービス向上委員会	148
委員会活動	109	病院教育委員会	149
医療安全管理対策委員会	109	広報委員会	150
医療事故対策委員会	110	個人情報保護委員会	151
院内感染対策委員会	111	診療記録開示審査委員会	152
栄養管理委員会	112	年報編集委員会	153
N S T 委員会	113	医療ガス安全管理委員会	154
褥瘡対策委員会	115	医療廃棄物管理委員会	155
緩和ケアチーム委員会	117	防災対策委員会	156
救急センター運営委員会	118	省エネ推進委員会	157
手術室運営委員会	119	看護科の委員会	158
糖尿病委員会	120	教育委員会	158
輸血療法委員会	121	看護研究委員会	160
臨床検査適正化委員会	124	看護記録・計画・固定チーム委員会	161
化学療法委員会	125	師長会	162
倫理委員会	126	師長主任会	163
図書委員会	127	主任会	164
臨床研修管理委員会	129	看護補助者会	165
臨床研修プログラム	131	学術研究業績	169
治験委員会	134	職員等互助会	173
診療材料検討委員会	135	同好会活動	177
病床運営委員会	136	野球部	177
医療情報管理委員会	137	バレーボール部	178
電子カルテ委員会	138	編集後記	179
D P C 委員会	139		
クリニカルパス委員会	140		

沿 革

沿革

- 明治14年 私立横手病院創立。
- 17年 公立平鹿病院と改称。
- 21年 3月 県が公立病院設置規則公布。
- 22年 7月31日 廃院と同時に横手町がこれを譲り受ける。
- 12月15日 公立横手病院として開院。総坪数78坪。初代院長中村良益氏就任。
- 24年11月 大町下丁に新築工事着手。
- 25年 1月30日 竣工開院。
- 33年 4月 1日 平鹿郡の委託をうけ看護婦養成所設置。
- 昭和27年 2月 7日 醜翻診療所開設。初代所長藤田健康氏就任（本院内科兼務）。
- 11月15日 保健婦、助産婦、看護婦法（昭和23年法律第203号）による附属准看護婦養成所設立（定員40名）。
- 28年 9月21日 栄診療所開設。初代所長和賀卓爾氏就任（専任）。
- 9月30日 横手市外21ヶ町村立伝染病隔離病舎組合設立竣工（249.75坪）。
- 34年 7月 3日 厚生年金保険積立金の還元融資を受け昭和33年度より3カ年計画による病院全面改築工事に着手。大町下丁36番地より根岸町5番31号旧北小学校跡へ移設。
- 35年 3月31日 醜翻診療所廃止。
- 7月31日 改築工事竣工（総面積3,116.26㎡、総工費8,500万円）。
- 9月 6日 竣工に伴い指令秋収医第2140号により施設の使用許可（一般病室19室113床）。
- 36年 2月 1日 地方公営企業法（昭和27年法律第292号）に基づき条例全部適用。
- 4月 1日 国民健康保険制度施行。
- 7月 7日 伝染病棟移転改築工事竣工。横手市外7ヶ町村立伝染病隔離病舎組合と改称。
- 7月 7日 結核病棟改築竣工（総工費300万円）。
- 38年10月 1日 健康保険法による基準寝具承認。3病棟160床。
- 39年 6月30日 救急指定病院の許可（優先使用される病床3床）。
- 40年 7月15日 集中豪雨による横手川氾濫。午後1時30分頃より同4時頃まで浸水、最高床上1メートルの被災のため3日間休診。復旧費150万円。
- 41年 1月 1日 地方公営企業法一部改正に伴い条例制定管理者を置く（院長）。
- 43年 3月25日 温泉浴治療棟新築工事及び送湯管布設工事着手。
- 7月30日 同新築工事竣工（面積322.99㎡、引湯管全長1,500m、総工費2,300万円）。
- 8月 1日 リハビリ棟竣工により指令医第1499号、指令環第690号で使用許可。
- 45年12月15日 准看護学院創立20周年記念式典。第20期までの卒業生358名。
- 48年 4月 1日 横手市外7ヶ町村立隔離病舎組合を横手平鹿広域市町村圏隔離病舎組合と改称。
- 5月14日 医第1012号をもって横手平鹿医療圏における地域センター病院に指定（地域医療センター）。

- 56年10月1日 基準看護一般病棟160床特二類承認。承認番号(看)第20号。
- 57年12月15日 看護職員に対する勸奨(希望)退職制度の適用。
- 59年7月31日 第1病棟(47床)、伝染病棟(10床)閉鎖。解体。
- 8月1日 病院開設許可事項変更許可(指令医-299)。
一般病床160→194 伝染病床10→10 計170→204
- 8月30日 病棟改築工事起工式。
- 60年10月20日 新病棟竣工(着工59.8.24)。
- 62年3月31日 附属准看護学院閉校(昭和27年11月開校以来34期592名卒業)。
- 7月7日 CT導入(設置許可指令医-684)。
- 63年4月1日 健康管理センター発足。
- 平成元年1月25日 第1回コメディカル研究会開催。
- 9月16日 開設100周年記念式典。
- 12月1日 基準寝具承認指令保-1531 194床 承認番号(寝第7号)。
- 平成2年7月24日 皆川浄司院長急逝。
- 9月1日 江本彰二院長就任。
- 10月1日 皆川浄司学術振興基金設立。
- 平成3年1月1日 基準看護(特2類看護)辞退。
- 1月9日 病院開設許可事項変更許可(指令医-1801)。
一般病床194→250 伝染病床10→10 計204→260
- 2月1日 第2期診療棟等改築工事着工(250床)。
- 4月1日 基準看護(特2類看護)承認(看第61号)指令保2363。
- 10月28日 大友公一産婦人科科長急逝。
- 平成4年4月1日 標ぼう科目に泌尿器科新設。
- 4月1日 名誉院長に品川信良先生発令。
- 4月4~5日 新しい診療棟移転。
- 4月6日 新しい診療棟に仮出入口をもうけて外来診療開始。
- 7月1日 泌尿器科外来診療開設。
- 7月3日 人工透析開設(10床)。
- 7月20日 新しい診療棟正面玄関オープン。
- 7月31日 第2期改築工事竣工(着工3.2.1、完成4.7.31)。
- 8月1日 看護4単位制に入る(250床 実施開始)。
- 8月29日 公立横手病院第二期改築工事竣工式。
- 10月1日 新カルテ(A4版)に変更。
- 11月7~8日 第1回病院祭。
- 12月1日 特3類看護(2病棟、3B病棟)117床承認される(承認番号(看)第25号)。
重症者の収容基準承認される(承認番号(重収)第18号)。
個室4床 201・218・367・420号室。
2人部屋6床 350・321・422号室。

- 平成5年1月1日 夜間看護等加算承認（承認番号(夜看)第21号）。
- 4月1日 秋田大学医療技術短期大学部理学療法科実習病院の承認。
- 5月9日 経営問題で読売新聞ニュースになる。
- 8月1日 入院時医学管理料承認される。
- 9月24日 健康管理センター棟着工。
- 12月1日 特3類看護（4病棟）承認される。
- 平成6年3月10日 健康管理センター棟竣工（着工5.9.24）。
- 6月1日 完全週休2日制実施。
- 6月8日 秋田大学による地域包括保健・医療・福祉実習開始。
- 9月8日 経営コンサルティングの実施。
- 平成7年6月1日 新看護基準（2.5：1、10：1）承認。
- 6月30日 江本院長退任。
- 7月1日 新事業管理者・院長に長山先生就任、新副院長に丹羽先生就任。
- 8月5日 基本理念策定
「安心できる良質な医療の提供」
「心ふれあう人間味豊かな対応」
基本方針策定
「地域医療への貢献」
「患者サービスの充実」
「健全な病院経営」
運営方針策定
「急性期医療の充実」
「生活習慣病の予防」
「検診業務の拡大」
- 平成8年4月23日 (財)日本医療評価機構による病院機能評価運用調査受審。
- 6月3日 眼科外来診療開設（週1回月曜日午後）。
- 7月1日 院内感染防止対策加算承認。
- 7月5日 更年期外来開設。
- 12月5日 心療科外来診療開設（週1回）。
- 12月11日 MR I棟着工。
- 平成9年3月19日 MR I棟竣工。
- 3月31日 名誉院長品川信良先生退任。
- 4月21日 食堂を開設。
- 4月28日 MR I装置稼働。
- 9月27日 横手病院温故会（OB会）設立。
- 平成10年4月1日 名誉院長正宗研先生就任。
- 4月13日 診療材料管理システム稼働。
- 平成11年4月1日 院外処方実施（7月から全面実施）。

- 4月1日 第2種感染症指定医療機関（4床）。
- 10月1日 オーダリングシステム運用開始。
- 10月30日 横手病院110周年記念式典。
- 平成12年2月1日 無菌製剤処理加算。
- 5月1日 重症者等療養環境特別加算 10床→15床。
検体検査管理加算取得（算定4月1日）。
- 平成13年4月1日 横手病院前バス路線開設。
- 平成14年4月1日 公立横手病院職員等互助会設立。
- 5月16日 全国自治体病院協議会総会 自治体立優良病院両会長表彰受賞。
- 6月10日 病院機能評価受診準備委員会委嘱。
- 7月1日 新財務会計システム稼動。
- 7月26日 新基本理念策定。
地域の人々に信頼される病院を目指します。
安心できる良質な医療の提供
心ふれあう人間味豊かな対応
- 8月23日 新基本方針策定。
患者さん中心の安全な医療の提供に努めます。
地域医療・保健に貢献します。
健全な病院経営に努めます。
- 平成15年2月13日 自動再来受付機稼動開始。
- 3月31日 正宗名誉院長退任。
- 4月1日 三浦傳名誉院長就任、加藤哲郎顧問就任。
- 4月30日 マスタープラン策定部会答申提出。
- 6月20日 「患者様の権利と責務」策定。
- 8月22日 病床区分を一般病床として届出（250床）。
- 9月12日 「公立横手病院の倫理綱領」策定。
- 10月30日 臨床研修病院の指定を受ける。
- 平成16年1月15日 S A R S 模擬訓練（保健所、消防署、当院）。
- 1月16日 病院機能評価模擬サーベイ（練馬総合病院院長、総師長）。
- 3月1日 公立横手病院広報第1号発行。
- 3月25日～27日 病院機能評価受審。
- 5月27日 自治体立優良病院総務大臣表彰。
- 6月16日 管理職・主任者研修 講師：市長。
- 7月1日 最初の臨床研修医研修開始（小林医師）。
- 7月26日 自治体立優良病院総務大臣表彰祝賀会 ラポート。
- 8月27日 病院教育委員会主催公開講座 かまくら館 講師：湊浩一郎先生。
- 11月1日 外来二交代制試行。
- 平成17年2月8日 第1回病院増改築検討委員会開催。

- 2月10日 病院機能評価窓口相談。
- 5月9日 新CT使用開始。
- 5月30日 日本病院機能評価機構の認定を受ける。
- 6月20日～7月8日 秋田大学医学部地域保健福祉医療包括実習。
- 6月23日 長野県東御市議会が当院を視察。
- 7月26日 兵庫県加西市議会が当院を視察。
- 8月4日 福島県須賀川市議会が当院を視察。
- 9月23日 閉市式 市民会館。
- 10月1日 市町村合併により新横手市誕生、病院名を市立横手病院に変更。
- 平成18年4月25日 市議会厚生労働委員会 病院視察。
- 8月30日 福島県公立藤田病院 視察。
- 平成19年3月1日 レントゲンフィルムレス化運用開始。
- 5月15日 福島県桑折町議会 病院視察。
- 6月18日～7月6日 秋大医学部学生地域包括保健・医療・福祉実習。
- 10月1日 電子カルテ稼働。
- 平成20年6月16日～7月14日 秋大医学部学生地域包括保健・医療・福祉実習。
- 11月8日 日本消化器病学会 市民公開講座（かまくら館）。
- 平成21年2月1日 増改築工事開始。
- 3月6日 病院増築安全祈願祭。
- 4月1日 DPC対象病院に認定。
- 5月1日 麻酔科開設。
- 10月5日 新手術室使用開始。
- 11月16日 新産科病棟使用開始。
- 平成22年3月11日～13日 日本病院機能評価機構 病院機能評価受審。
- 3月31日 長山正四郎院長退任。
- 4月1日 丹羽誠院長就任。
- 4月15日 新館増築（C棟）完成。
- 5月1日 3C、4C病棟稼働。
- 5月6日 新館オープンセレモニー、C棟外来診療開始。
- 5月16日 市医師会による日曜休日診療開始（第1・3・5日曜）。
- 8月6日 日本病院機能評価機構の認定（Ver6.0）を受ける。
- 9月1日 2A、3A病棟稼働。
- 12月1日 3B病棟稼働（一般病床225床体制へ）。
- 12月2日 東北厚生局施設基準監査。
- 平成23年3月11日 14：46東日本大震災発生 停電（復旧12日14：16）、断水等
（復旧12日16：10）の状況下での診療対応。
- 4月1日 新感染症病床稼働（4床）。
- 4月7日 23：32大震災余震発生 停電（復旧8日9：40）、断水等

- (復旧 8 日 17 : 30) の状況下で診療対応。
- 5 月 12 日～16 日 釜石市災害医療応援派遣。
(医師・看護師・PT 等 3 人 1 チーム、延 15 人派遣)
- 5 月 31 日 増改築工事竣工。
- 6 月 1 日 一般病棟入院基本料 (7 : 1) 承認。
- 7 月 30 日 増改築工事竣工式。
- 9 月 1 日 クレジットカード払い開始。
- 平成 24 年 3 月 31 日 長山正四郎先生 横手市病院事業管理者を退任。
- 4 月 1 日 丹羽誠院長 横手市病院事業管理者に就任。
長山正四郎先生 顧問に就任。
- 6 月 1 日 感染対策室を設置 (医療安全管理室より分離)。

平成 25 年度の主な出来事

- 平成 25 年 4 月 1 日 辞令交付式。
- 4 月 1 日～3 日 新規採用職員研修。
- 4 月 19 日 病院歓送迎会 (ラ・ポート)。
- 5 月 7 日～6 月 30 日 救急救命士気管挿管病院実習。
- 5 月 28 日～6 月 6 日 県立衛生看護学院在宅看護論実習。
- 6 月 3 日～14 日 救急救命士就業前病院実習。
- 6 月 4 日～6 日・11 日～13 日 助産学実習 (県立衛生看護学院助産科)。
- 6 月 12 日 エマージェンシー訓練。
- 6 月 17 日～26 日 県立衛生看護学院在宅看護論実習。
- 6 月 18 日～20 日 助産学実習 (県立衛生看護学院助産科)。
- 6 月 24 日～7 月 19 日 医療事務実習。
- 7 月 3 日 防災訓練 (上期)。
- 7 月 7 日 臨床研修病院合同説明会 (仙台市)。
- 7 月 8 日～11 日 秋大医学部 3 年次早期臨床研修。
- 7 月 14 日 レジナビフェア 2013 in 東京 (東京ビックサイト)。
- 7 月 16 日～19 日 秋大医学部 3 年次早期臨床研修。
- 7 月 29 日 ふれあい看護体験。
- 8 月 4 日 職員採用試験 (医事事務)。
- 8 月 15 日 盆踊り。
- 8 月 23 日 医療安全研修会 (市役所 南庁舎講堂)。
- 8 月 27 日～9 月 5 日 県立衛生看護学院在宅看護論実習。
- 9 月 1 日 職員採用試験 (看護師)。
- 9 月 7 日 全県病院対抗バレーボール大会 (秋田市)。
- 9 月 7 日・14 日 研修旅行 (仙台市)。

9月17日～27日 県立衛生看護学院在宅看護論実習。
9月17日～27日 秋田大学医学部5年次地域医療実習。
9月18日・28日 研修旅行（気仙沼市）。
10月2日～11月8日 救急救命士再教育病院実習。
10月8日・22日 秋大医学部1年次チーム医療体験実習。
10月11日～24日 県立衛生看護学院在宅看護論実習。
10月13日 病院祭。
10月18日～19日・23日～24日 研修旅行（東京都）。
10月28日～11月7日 県立衛生看護学院在宅看護論実習。
10月27日～28日 研修旅行（箱根、熱海）。
10月30日 防災訓練（下期）。
11月5日 地域医療連携セミナー。
11月5日・12日・19日 秋大医学部1年次チーム医療体験実習。
11月11日・20日 接遇研修会。
11月15日 第15回コメディカル研究発表会。
11月17日 市民と集う看護フォーラム。
11月24日 第21回秋田県医療学術交流会学術大会（秋田市）。
11月25日 メンタルヘルス講習会。
12月2日 救急救命士就業前教育病院実習。
12月8日 職員採用試験（看護師、理学療法士、臨床検査技師）。
12月20日 大忘年会（ラ・ポート）。
12月23日 第20回白衣のクリスマスコンサート。
平成26年1月6日 年始式。
1月24日 医療安全研修会。
2月10日 臨床研修病院合同説明会（秋田大学）。
2月19日 メンタルヘルス管理職研修会。
2月25日 院内感染対策研修会。
3月2日 レジナビフェアin福岡。
3月4日 消防職員病院実習。
3月6日 在宅緩和ケア研修会（平鹿総合病院）。
3月14日 病院送別会（シャイニーパレス）。
3月19日・26日 診療報酬改定説明会。
3月20日・28日・31日 退職者辞令交付式。

基本理念

地域の人々に信頼される病院を目指します。

安心できる良質な医療の提供

心ふれあう人間味豊かな対応

基本方針

1. 患者さん中心の安全な医療の提供につとめます。
2. 地域医療・保健に貢献します。
3. 健全な病院経営につとめます。

市立横手病院の倫理綱領

我々市立横手病院で働く者は、地域の医療機関や行政機関等との連携を図りながら、公平、公正な医療を提供し、地域住民の健康の維持・増進を図り、地域の発展に貢献することを使命とする。

その守るべき行動規範は次の通り定める。

1 医療の質の向上

我々は医療の質の向上につとめ、人格教養を高めることによって、全人的医療を目指す。

2 医療記録の適正管理

我々は医療記録を適正に管理し、その情報を原則として開示する。

3 患者中心の医療の確立

我々は患者様に対し、パートナーとしての認識を持ち、十分な説明と同意のもとに医療を提供し、患者様の権利を擁護し、プライバシーの保護に努める。

4 安全管理の徹底

我々は安心して医療を受けられる環境を整備し、職員の安全教育を推進する。

5 地域社会との連携の推進

我々は地域の人々とは勿論のこと、地域の医療機関や福祉保健施設との緊密な連携に努める。

6 健全経営の確保

我々は公共性を確保すると共に、合理的かつ効率的な病院経営につとめ、健全で自立した経営基盤を確立する。

患者様の権利と責務

1. 患者様には、平等かつ公平に医療を受ける権利があります。
1. 患者様には、診断・治療・経過について説明を受ける権利があります。
1. 患者様には、治療法を選択し、同意の上で医療を受ける権利があります。
1. 患者様には、プライバシーを尊重される権利があります。
1. 患者様には、疾病を克服するために提供される医療に協力し治療に支障がないよう配慮する責務があります。

病院の概要

病院の概要

開設者	横手市長 高 橋 大
名称	公立横手病院（平成17年9月30日まで） 市立横手病院（平成17年10月1日から）
所在地	秋田県横手市根岸町5番31号
開設年月日	明治22年12月15日
事業管理者	丹 羽 誠
病床数	一般病床225床（2 A病棟39床、3 A病棟49床、3 B病棟44床、3 C病棟47床、 4 C病棟46床）、感染症病床4床 計229床
診療科目	内科、心療内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、アレルギー科、外科、 整形外科、小児科、産婦人科、眼科、泌尿器科、リハビリテーション科、放射線科、 麻酔科
看護師配置基準	7 : 1

医療機関の指定等

指 定

救急告示病院
保険医療機関
労災保険指定医療病院
労災保険二次健康診断指定医療機関
指定自立支援医療機関（更正医療）
指定自立支援医療機関（育成医療）
身体障害者福祉法指定医の配置されている医療機関
精神保健指定医の配置されている医療機関
生活保護法指定医療機関
母子保護法による指定養育医療機関
原子爆弾被害者一般疾病医療取扱医療機関
原爆被爆者健康診断委託医療機関
第二種感染症指定医療機関
臨床研修病院指定施設
肝疾患診療専門医療機関
特定疾患治療研究事業委託医療機関
D P C 対象病院
小児慢性特定疾患治療研究事業委託医療機関

認 定

財団法人日本医療機能評価機構認定

日本内科学会認定医制度教育関連病院
 日本消化器内視鏡学会指導施設
 日本消化器病学会専門医制度認定施設
 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設
 日本呼吸器学会関連施設
 日本アレルギー学会教育施設
 日本外科学会外科専門医制度関連施設
 日本整形外科学会専門医制度研修施設
 日本がん治療認定医機構認定研修施設
 日本麻酔科学会認定病院
 日本緩和医療学会認定研修施設
 日本ペインクリニック学会専門医認定指定研修施設
 日本周産期・新生児医学会暫定研修施設
 母体保護法指定医師研修機関（県医師会）
 日本静脈経腸栄養学会N S T稼働施設
 日本栄養療法推進協議会認定N S T稼働施設
 医療被ばく低減認定施設
 日本泌尿器科学会泌尿器科専門医教育施設

病院施設の概要

敷地面積	8,172.16m ²
建築面積	4,793.60m ²

	構造	延面積(m ²)	完成年月日
本館（A棟）	鉄筋コンクリート造、地下1階、地上4階建、塔屋2階	5,130.66	昭和60年8月24日
新館（B棟）	鉄筋コンクリート造、地下1階、地上4階、塔屋1階	6,389.99	平成4年7月31日
本館（C棟）	鉄筋コンクリート造、地上4階、塔屋1階	4,524.95	平成22年4月15日
計		16,045.60	

病院統計

収支決算

貸借対照表

(単位:円)

	平成 25 年度
固定資産	4,768,014,479
有形固定資産	4,766,986,899
土地	387,443,919
建物	3,412,883,401
構築物	25,682,788
器械及び備品	934,328,031
車両	6,648,760
建設仮勘定	0
無形固定資産	1,027,580
電話加入権	1,027,580
流動資産	2,525,987,964
現金預金	1,546,517,783
未収金	930,487,420
貯蔵品	48,982,761
その他流動資産	0
資産合計	7,294,002,443
流動負債	217,854,827
未払金	196,489,684
預り金	21,365,143
預り有価証券	0
負債合計	217,854,827
資本金	6,914,584,306
自己資本金	3,478,628,153
借入資本金	3,435,956,153
企業債	3,435,956,153
剰余金	161,563,310
資本剰余金	60,067,000
受贈財産評価額	0
他会計負担金	57,285,000
他会計補助金	0
国県補助金	2,782,000
利益剰余金	101,496,310
減債積立金	18,400,000
当年度未処分利益剰余金	83,096,310
欠損金	0
当年度未処理欠損金	0
資本合計	7,076,147,616
負債資本合計	7,294,002,443

収益的収支決算（税抜き）

（単位：円）

科目	平成 25 年度
病院事業収益	5,016,334,411
医業収益	4,695,219,177
入院収益	2,934,645,835
外来収益	1,506,230,525
その他医業	254,342,817
医業外収益	320,882,398
受取利息及び配当金	550,010
国県補助金	9,910,265
他会計補助金	5,861,100
他会計負担金	287,814,000
その他医業外収益	16,747,023
特別利益	232,836
病院事業費用	5,094,276,140
医業費用	5,033,148,879
給与費	2,825,003,911
材料費	1,186,248,089
経費	579,041,309
減価償却費	413,432,768
資産減耗費	10,327,802
研究研修費	18,973,600
重量税	121,400
医業外費用	60,984,196
支払利息及び企業債取扱諸費	60,984,196
雑損失	0
特別損失	143,065
当年度純損失	77,941,729
前年度繰越利益剰余金	161,038,039
当年度未処分利益剰余金	83,096,310

資本的収支決算

資本的収入	227,845,000
他会計出資金	99,963,000
企業債	125,100,000
固定資産売却代金	2,782,000
資本的支出	539,589,904
建設改良費	157,302,889
企業債償還金	382,287,015
差引収支不足額	311,744,904
補てん財源	311,744,904
過年度分損益勘定留保資金	311,744,904

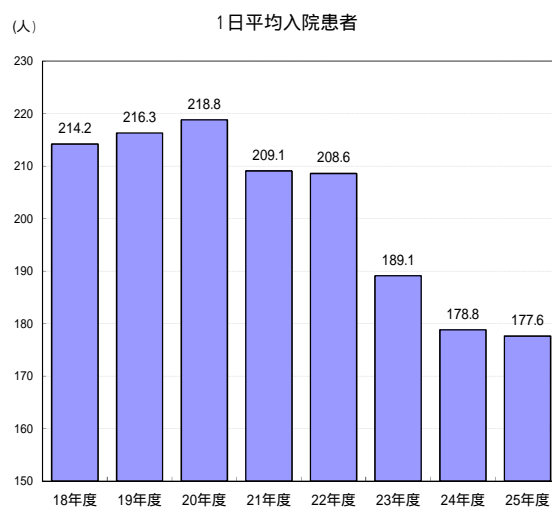
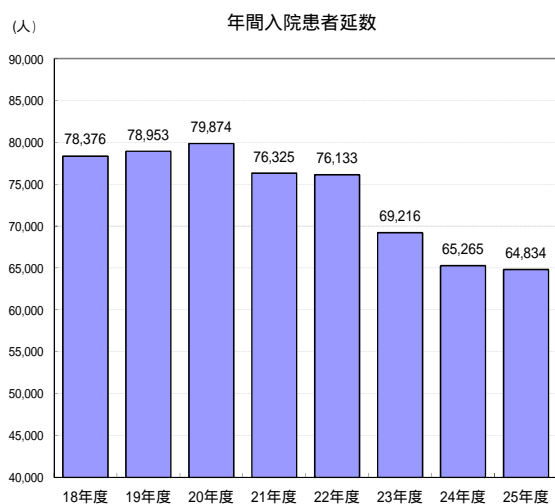
診療科別入院患者数

(単位:人)

科	年間入院患者延数							
	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
内科	7,929	8,256	3,174	2,345	2,331	2,520	2,577	2,754
呼吸器内科	7,034	7,494	7,309	8,280	5,289	4,839	5,609	0
消化器内科	18,122	24,822	27,180	28,561	30,189	25,897	23,316	26,692
循環器内科	7,716	9,540	12,732	6,643	5,724	5,496	6,503	6,196
外科	14,497	13,653	13,981	12,718	12,220	10,849	9,638	10,819
整形外科	9,999	4,895	5,745	9,992	10,978	10,117	9,191	10,093
産婦人科	4,074	3,169	3,446	3,025	4,029	4,506	3,593	3,639
小児科	4,285	3,842	3,562	2,475	2,735	2,533	2,743	1,793
泌尿器科	4,720	3,282	2,745	2,236	2,535	2,350	1,991	2,534
眼科								176
麻酔科				50	103	109	104	138
計	78,376	78,953	79,874	76,325	76,133	69,216	65,265	64,834

(単位:人)

科	1日平均入院患者数							
	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
内科	21.7	22.6	8.7	6.4	6.4	6.9	7.1	7.5
呼吸器内科	19.3	20.5	20	22.7	14.5	13.2	15.4	0.0
消化器内科	49.4	68	74.5	78.2	82.7	70.8	63.9	73.1
循環器内科	21.1	26.1	34.9	18.2	15.7	15.0	17.8	17.0
外科	39.4	37.4	38.3	34.8	33.5	29.6	26.4	29.6
整形外科	27.4	13.4	15.7	27.4	30.1	27.6	25.2	27.7
産婦人科	11.2	8.7	9.4	8.3	11	12.3	9.8	10.0
小児科	11.7	10.5	9.8	6.8	7.5	6.9	7.5	4.9
泌尿器科	12.9	9	7.5	6.1	6.9	6.4	5.5	6.9
眼科								0.5
麻酔科					0.3	0.3	0.3	0.4
計	214.2	216.3	218.8	209.1	208.6	189.1	178.8	177.6



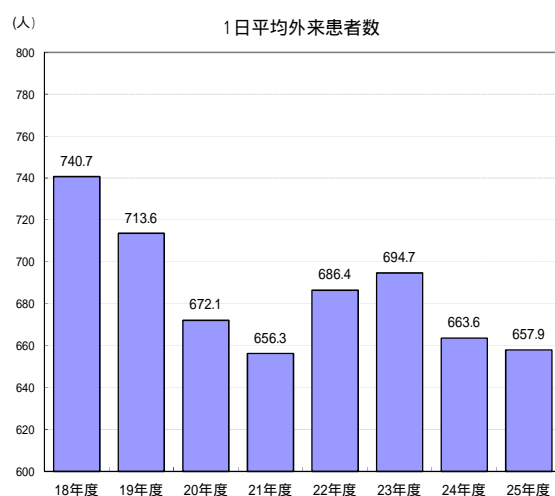
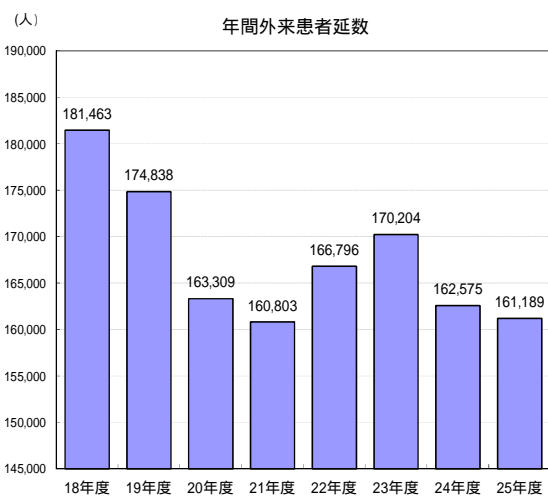
診療科別外来患者数

(単位:人)

科	年間外来患者延数							
	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
内科	41,654	46,973	43,193	43,365	42,841	42,030	39,805	39,731
呼吸器内科	5,265	5,078	5,388	4,740	4,557	4,801	5,082	2,467
消化器内科	16,571	17,060	17,725	18,719	20,588	21,284	20,333	21,982
循環器内科	13,636	14,425	13,288	11,300	11,372	11,199	10,868	11,277
外科	15,565	15,473	15,050	14,432	15,292	16,662	16,008	14,590
整形外科	26,881	20,321	17,968	19,717	22,205	24,977	24,718	25,065
産婦人科	7,959	7,032	6,814	6,432	7,346	8,175	7,444	7,342
小児科	38,025	33,790	30,118	26,896	26,017	23,792	21,458	19,498
泌尿器科	14,640	13,377	12,557	13,330	13,746	14,437	14,030	15,568
眼科	1,267	1,309	1,208	1,571	2,070	2,095	2,125	2,710
麻酔科				301	762	752	704	959
計	181,463	174,838	163,309	160,803	166,796	170,204	162,575	161,189

(単位:人)

科	1日平均外来患者数							
	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
内科	170	191.7	177.7	177	176.3	171.6	162.5	162.2
呼吸器内科	21.5	20.7	22.2	19.3	18.8	19.6	20.7	10.1
消化器内科	67.6	69.6	72.9	76.4	84.7	86.9	83.0	89.7
循環器内科	55.7	58.9	54.7	46.1	46.8	45.7	44.4	46.0
外科	63.5	63.2	61.9	58.9	62.9	68.0	65.3	59.6
整形外科	109.7	82.9	73.9	80.5	91.4	101.9	100.9	102.3
産婦人科	32.5	28.7	28	26.3	30.2	33.4	30.4	30.0
小児科	155.2	137.9	123.9	109.8	107.1	97.1	87.6	79.6
泌尿器科	59.8	54.6	51.7	54.4	56.6	58.9	57.3	63.5
眼科	5.2	5.3	5	6.4	8.5	8.6	8.7	11.1
麻酔科						3.1	2.9	3.9
計	740.7	713.6	672.1	656.3	686.4	694.7	663.6	657.9



新患患者数（外来）

（単位：人）

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
内科	753	916	817	936	881	852	808	803
外科	248	206	156	152	155	180	150	103
整形外科	568	281	239	289	428	379	398	446
婦人科	139	118	102	88	124	108	92	61
小児科	759	563	343	375	327	344	312	270
泌尿器科	76	62	46	42	64	59	60	68
眼科	2	4	0	7	7	7	11	19
心療内科	2	3	1	3	1	3	0	1
アレルギー・呼吸器内科	117	75	68	15	6	6	7	3
消化器内科	164	255	215	185	143	112	102	130
循環器内科	97	85	43	6	16	8	8	4
放射線科	9	4	19	11	62	19	16	14
人工透析	7	3	1	0	0	5	3	9
麻酔科(ペインクリニック)	0	0	0	8	6	5	1	9
合計	2,941	2,575	2,050	2,117	2,220	2,087	1,968	1,940

再診患者数（外来・延べ）

（単位：人）

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
内科	26,403	29,806	27,177	27,669	28,032	25,922	24,541	23,965
外科	12,327	12,296	11,934	11,599	12,184	13,118	12,459	10,965
整形外科	20,390	15,733	14,313	15,691	17,627	20,239	20,044	20,233
婦人科	4,628	4,308	4,220	4,314	4,752	5,564	5,287	5,116
小児科	26,551	21,882	19,795	16,592	16,582	15,020	13,432	12,244
泌尿器科	6,390	5,655	4,773	5,120	5,473	6,054	6,200	7,312
眼科	1,005	1,028	1,009	1,236	1,615	1,723	1,805	2,323
心療内科	803	1,674	1,467	1,518	794	1,300	1,023	777
アレルギー・呼吸器内科	3,945	4,065	4,407	3,987	3,898	4,000	4,322	2,120
消化器内科	13,567	13,764	14,594	15,399	17,003	17,331	16,620	17,586
循環器内科	10,700	11,440	10,961	9,476	9,354	9,024	8,821	8,884
放射線科	74	73	72	100	112	82	109	97
人工透析	1,430	1,877	2,154	1,436	1,035	824	643	914
麻酔科(ペインクリニック)	5,167	5,932	6,312	239	642	637	619	825
合計	133,380	129,533	123,188	120,919	125,424	120,838	115,925	113,361

地域別患者数の状況

【入院】

(単位:人)

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
横手市	36,693	35,090	33,944	34,190	32,871	29,710	26,370	26,175
平鹿町	8,696	8,338	8,707	9,029	8,000	6,828	6,571	7,162
雄物川町	4,701	3,737	3,837	4,140	3,820	3,422	2,353	2,652
大森町	989	709	866	1,161	673	1,067	952	607
大雄	2,240	2,278	2,340	1,939	2,283	2,179	2,454	1,698
十文字町	5,489	6,519	6,782	5,614	6,482	5,759	5,703	5,256
増田町	2,609	3,922	3,964	2,535	3,015	3,090	3,003	2,732
山内	4,903	4,376	3,745	3,803	3,191	2,801	3,335	2,997
美郷町	1,591	1,868	1,513	1,250	323	743	994	724
湯沢・雄勝	6,479	8,651	10,576	8,620	9,009	8,941	8,056	9,809
大仙・仙北	1,930	2,347	2,564	3,057	3,326	3,045	3,584	3,100
湯田町	529	693	463	477	935	666	843	761
その他	1,527	425	573	510	2,205	965	1,047	1,161
合計	78,376	78,953	79,874	76,325	76,133	69,216	65,265	64,834

【外来】

(単位:人)

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
横手市	93,178	88,798	80,959	78,338	79,024	81,530	76,465	73,871
平鹿町	19,055	17,941	16,359	16,239	16,547	16,888	16,087	15,614
雄物川町	10,501	9,809	8,606	8,533	8,878	8,686	7,886	8,150
大森町	3,118	2,809	2,663	2,401	2,315	2,522	2,486	2,487
大雄	6,481	5,792	5,711	5,339	4,782	4,814	4,581	4,142
十文字町	12,012	11,682	11,611	11,951	12,529	13,022	12,281	12,519
増田町	6,775	6,515	6,233	6,045	6,592	6,495	6,301	6,485
山内	7,392	7,001	6,173	6,006	5,903	5,836	5,865	6,165
美郷町	4,182	3,926	3,128	2,957	1,275	2,487	2,680	2,636
湯沢・雄勝	11,609	13,473	14,463	14,884	16,370	17,662	17,731	18,866
大仙・仙北	4,124	4,738	5,176	5,479	7,885	6,519	6,778	6,727
湯田町	764	820	840	773	1,018	1,131	1,210	1,326
その他	2,272	1,534	1,387	1,858	3,678	2,612	2,224	2,201
合計	181,463	174,838	163,309	160,803	166,796	170,204	162,575	161,189

紹介患者数（科別）

（単位：人）

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
内 科	321	316	167	165	175	147	172	177
消化器内科	493	664	746	770	916	893	785	897
循環器内科	149	188	130	124	136	143	188	284
アレルギー・呼吸器内科	123	106	80	95	72	78	88	5
外 科	157	124	132	125	140	173	151	131
整形外科	356	248	246	315	332	421	394	492
婦 人 科	207	169	156	181	199	215	208	197
小 児 科	487	375	310	291	272	270	302	223
泌尿器科	110	69	112	89	99	97	119	126
眼 科	9	4	6	17	45	56	57	88
心療内科	4	20	9	9	12	6	3	1
麻 酔 科				20	15	15	13	18
放射線科	707	590	712	760	712	624	678	690
計	3,123	2,873	2,806	2,961	3,125	3,138	3,158	3,329

救急患者統計

救急患者数	救急車	その他	帰宅		入院		転送		その他		軽症		中等症		重症		死亡	
			数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合
18年度	16,186	647	15,539	94.4%	853	5.3%	21	0.1%	31	0.2%	15,302	94.5%	594	3.7%	259	1.6%	31	0.2%
19年度	14,694	701	13,993	93.5%	896	6.1%	31	0.2%	35	0.2%	13,763	93.7%	584	4.0%	312	2.1%	35	0.2%
20年度	12,070	680	11,390	92.8%	808	6.7%	32	0.3%	29	0.2%	11,232	93.1%	490	4.1%	318	2.6%	29	0.2%
21年度	12,946	706	12,240	93.1%	821	6.3%	33	0.3%	35	0.3%	12,085	93.3%	486	3.8%	335	2.6%	35	0.3%
22年度	11,241	882	10,359	82.8%	892	7.9%	27	0.2%	35	0.3%	10,314	91.8%	556	4.9%	336	3.0%	35	0.3%
23年度	11,507	959	10,548	91.6%	873	7.6%	38	0.3%	50	0.5%	10,582	92.0%	577	5.0%	297	2.6%	50	0.4%
24年度	11,404	893	10,511	90.9%	944	8.3%	37	0.3%	48	0.5%	10,361	91.3%	638	5.6%	307	2.7%	48	0.4%
25年度	10,210	867	9,343	81.3%	905	8.0%	26	0.2%	44	0.5%	9,261	81.6%	620	5.5%	285	2.5%	44	0.4%

	内科	小児科	整形外科	外科	産婦人科	泌尿器科	眼科	計
18年度	5,061	8,204	1,495	1,043	230	153	0	16,186
19年度	5,193	7,286	995	913	160	146	1	14,694
20年度	4,366	5,766	803	893	104	136	2	12,070
21年度	4,769	6,480	810	595	173	114	5	12,946
22年度	4,336	4,733	1,038	808	173	143	10	11,241
23年度	4,576	4,761	994	800	214	156	6	11,507
24年度	4,782	4,349	1,070	844	200	150	9	11,404
25年度	4,113	3,802	1,064	804	236	184	7	10,210

横手市内のみ

	横手市	増田町	平鹿町	雄物川町	大森町	十文字町	山内	大雄	計
18年度	7,176	805	1,702	951	377	1,366	774	673	13,824
19年度	6,702	720	1,564	795	273	1,235	674	535	12,498
20年度	5,288	575	1,342	656	192	1,112	564	447	10,176
21年度	5,791	632	1,392	695	249	1,181	605	438	10,983
22年度	5,165	497	1,201	571	147	1,016	488	369	9,454
23年度	5,213	543	1,212	581	147	990	561	348	9,595
24年度	5,242	536	1,233	460	148	990	505	373	9,487
25年度	4,436	493	1,105	512	154	880	414	319	8,313

部門報告

部 門 報 告

診療科

内 科

脳神経内科

スタッフ：医 師 塩屋 斉
外来診察助手 佐藤陽子（4/1-9/30） 工藤朋子（10/1-）

診療時間：午前は8時45分から、午後は1時30分から

診療内容：月曜日（午後）・・・頭痛外来
火曜日（午後）・・・脳ドック
水曜日（午前・午後）・・・頭痛外来
木曜日（午前）・・・脳神経内科・頭痛外来
金曜日（午前）・・・脳神経内科・頭痛外来

平成25年度頭痛初診患者数：総計709人（男性187人、女性522人）

片頭痛：513人（男性113人、女性400人）
緊張型頭痛：132人（男性35人、女性97人）
群発頭痛：19人（男性14人、女性5人）
神経痛：57人（男性16人、女性41人）
副鼻腔炎：13人（男性5人、女性8人）
その他（くも膜下出血、脳出血、脳腫瘍、他）：17人
上記の頭痛初診患者さんの中で薬物乱用頭痛は65人で全体の9.2%を占めていた

平成25年度疾患別入院患者数：総計72人

脳梗塞：53人
一過性脳虚血発作：2人
脳出血：8人
脳静脈洞血栓症：1人
中心性脊髄損傷：1人
片頭痛発作：4人
めまい発作：1人
誤嚥性肺炎：1人
脱水症：1人

「講演・学会発表」:

平成25年3月8日(金)

横手頭痛治療勉強会

「片頭痛の診断と治療:使用する薬剤とその選択」

ホテルプラザアネックス横手

平成25年4月19日(金)

第一三共株式会社 社内教育講演会

「脳血管障害の病態・診断・治療について:NO梗塞NOリターン」

横手セントラルホテル

平成25年8月30日(金)

サノフィ株式会社 社内勉強会

「脳梗塞患者へのSWIFA(Switch from Aspirin)の有用性について」

横手市交流センターY2(わいわい)ぷらざ

平成25年11月16日(土)

第41回日本頭痛学会総会

「頭痛・神経痛で発症し頭蓋底転移から診断された前立腺癌の一例」

いわて県民情報交流センター「アイーナ」

平成25年12月8日(日)

日本頭痛学会後援「第2回 頭痛の達人養成塾」オーガナイザー

「『羊の皮を被ったオオカミ』頭痛」

東京ステーションコンファレンス

「当院頭痛外来の書籍掲載」

「ドクターズガイド」時事通信出版局健康医療情報班ドクターズガイド編集部

「慢性頭痛」(69-72) 2013年4月12日発行

<文責 塩屋 斉>

消化器内科

消化器内科医師

船岡 正人
藤盛 修成
奥山 厚
武内 郷子
荒田 英
姉崎有美子
中島 裕子 (週2回腹部超音波検査担当)
佐藤美知子 (週1回腹部超音波検査担当)
渡部 昇 (週1回内視鏡検査担当)
鈴木 優響 (週1回内視鏡担当)

ここ数年消化器内科常勤医師数は減る傾向にあるが、平成25年度はさらに1名減となった。しかし、外来の内視鏡検査を姉崎先生が週3回担当してくれるようになり、外来検査はなんとかこなすことができ、内視鏡検査総数はむしろ前年度より若干増加した。治療手技としては胆道系の内視鏡治療の増加が目立った。入院診療は相変わらず忙しく、なんとか1年無事に乗り切ることができたのは研修医の先生方の力が大きい。特に2年目の渡邊、三浦、松澤先生の力が大きい。3年目は当院あるいは秋田大学で研鑽を積むことになるが今後の成長を期待している。当科は消化器疾患のほぼ全てに対応可能であるが、高齢者の誤嚥性肺炎や尿路感染症を含む一般内科疾患にも対応しなければならないため、やはりマンパワー不足の感は否めない。今年度もやはり学会発表がなかったため、次年度こそがんばりたい。

平成25年度の内視鏡検査件数

上部消化管内視鏡検査(総数)	6,263
胃粘膜下層剥離術・粘膜切除術	72
食道粘膜下層剥離術	4
胃瘻造設術	56
食道静脈瘤硬化療法	34
ERCP	12
EST・胆道ステント留置	86
大腸内視鏡検査(総数)	2,307
粘膜切除・ポリープ切除術	595
計	8,570

< 文責 船岡正人 >

循環器内科

スタッフ

常勤医師

循環器科科長

根本 敏史 (平成15年5月1日から 現在在職中)

和泉千香子 (平成8年6月1日から 現在在職中)

高木 遥子 (平成23年4月1日から 現在在職中)

検査技師

平塚多喜雄 (生理検査室)

川越 弦 (臨床工学技士)

柏谷 肇 (臨床工学技士)

外来診察助手(循環器科担当)

金子 洋子

検査 (平成25年4月1日から平成26年3月31日)

心臓カテーテル検査	43件
心臓超音波検査	1,739件 (経食道心臓超音波検査含む)
ホルター心電図	356件
トレッドミル	5件
24時間心電血圧計	13件
ペースメーカー植え込み	11件 (新規 9、交換 2)
体外ペーシング	3件
下大静脈フィルター留置	2件
血圧脈波検査	293件

循環器科の体制は、今年度も根本・和泉・高木の三人体制である。高木も循環器科スタッフとしてほとんどの診療、検査をこなせるようになり、立派な戦力となった。検査数もほぼ例年通りの件数で、大きな変わりはなかった。

緊急の虚血性心疾患に関してはこれまで通り、平鹿病院循環器科との連携ができていたが、複数症例が重なった場合は秋田市の成人病医療センターまで久しぶりに搬送することもあった。大動脈解離に関しては、平鹿病院心臓血管外科での対応が困難であることが多く、秋田大学まで搬送することが多い。状態の悪い重症例の搬送にはいつも神経を使う。3月には、心筋梗塞からの心破裂例があり、秋田大学への搬送を準備していたが、状態が悪く、長距離の搬送は困難となった。幸い、平鹿病院への受け入れがかなったため、事なきを得た。(途中、心停止を来したが、緊急手術の後、独歩退院できたとのことである)心臓外科の重症例の受け入れは、秋田県全体の課題と思われる。

<文責 和泉千香子>

呼吸器内科・アレルギー科

呼吸器内科・アレルギー科は、火曜日午前中は玉木真実が、金曜日午前中は鈴木朋美が担当している。平成25年度は二人とも出産の時期にあたり、鈴木朋美が9 - 12月、玉木真実が1月から翌年度8月の間産前産後休暇を頂いた。その間常勤の先生方に外来患者の診察を分担して受け持ってもらい、非常事態を乗り切ることができた。普段の診察の上にご負担をおかけしたことを詫言るとともに、この場をお借りして感謝を申し上げたい。

また平成25年度、4月からは呼吸器内科・アレルギー科の常勤医であった斎藤紀先が弘前大学病院に異動となるとともに、入院患者は受けず、外来のみの診察となった。斎藤医師外来の患者は平鹿総合病院や、周辺の開業医にも依頼し、一部玉木と鈴木が引き継いでいる。肺腫瘍や一部の間質性肺炎の患者など、増悪時の対応ができない患者に関しては、平鹿総合病院呼吸器内科に依頼された。そのため疾患の内訳は、気管支喘息、咳喘息、アトピー咳嗽、COPD、慢性気管支炎が主となっている。入院患者の紹介では、薬疹、肺気腫増悪、間質性肺炎増悪、などが主である。

鈴木の外来では食物アレルギーも診察しており、適宜プリックテストやパッチテストも行っている。金曜日午後は小児科外来にて小児の食物アレルギー、小児喘息の診察を行っている。食物アレルギーに対しては、入院や外来にて食物負荷試験を行っている。

< 文責 鈴木朋美 >

心療内科

心療内科は毎週火曜日、金曜日と診療を行っている。完全予約制で、スタッフは医師一名（榊田理恵）、看護師一名（赤平綾子）の体制で行っている。

平成24年度は4月1日から、外部からの新規の外来患者受付は停止している。ただし、入院病棟および外来担当医を介しての新規外来患者の受け付けは、相談により受けるようにしている。

火曜日・金曜日とも、榊田理恵が外来を担当している。外来のほか依頼を受けて入院でも診療している。子どもの心療内科であるため、15歳以下の子どもの受診は多い。状態・疾患では、抑うつ神経症が最も多く、他に発達障害（自閉症など）である。「子どもの心療内科」ではあるが、地域医療における心療内科部門のプライマリ・ケア友考えうる側面があるため、診療は年齢及び疾患においても多岐に渡り、ターミナルケア、老年期のうつ、などに及んでいる。受診人数は約10～20人/日である。一人につき30分を目安としている。初診の場合も同様の時間となる場合も多い。問診および生活状況を確認し、鑑別疾患を挙げるものの、誤診に至りがちな先入観を防ぐためでもある。また、看護師との役割分担においても、看護サイドの受容的かわりにより、受診している患者さんたちの自己治癒力が引き出されている。隣接する精神科病院の興生病院の協力も得て臨床心理士によるカウンセリングの導入されており、子供の場合著効がみられており、今後も継続する方針である。火曜日、金曜日に臨床心理士によるカウンセリング、箱庭療法、プレイセラピーなどを定期的に行っている。

< 文責 榊田理恵 >

外科

総括

消化器を中心に乳腺内分泌疾患、呼吸器疾患を担当した。伊勢医師の当院への移動により内視鏡外科手術症例の増加が期待された。

秋田大学呼吸器外科のご配慮で10月から隔週の呼吸器外科外来が開設された。

スタッフ

常勤

- ・丹羽 誠 (S55秋田卒) 院長
- ・吉岡 浩 (S59自治卒)
- ・粕谷 孝光 (S63秋田卒) 平成25年3月退職
- ・伊勢 憲人 (H9秋田卒) 平成24年8月に秋田大学消化器外科学講座から移動
- ・本郷麻依子 (H20秋田卒)

非常勤

- ・岩崎 渉 (H14秋田卒) 秋田赤十字病院から毎週火曜日、鏡視下手術のため

専門医修練認定施設関係

- ・日本外科学会専門医制度関連施設
- ・日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設
- ・日本消化器病学会専門医制度認定施設
- ・日本緩和医療学会認定研修施設

人事動向

- ・丹羽院長には乳腺の大部分の手術に携わっていただいた。専門外来開設後、乳腺外来数・乳腺手術数が増加した。また、多忙にもかかわらず外科診療については引き続き御指導いただいた。
- ・伊勢医師が赴任後内視鏡外科手術症例が増加した。それに伴い岩崎医師が鏡視下手術の研鑽のため、毎週火曜日に秋田赤十字病院から派遣をいただいた。
- ・本郷医師は、3年間の外科専門研修が終了し、平成25年秋に外科専門医試験をうけ、平成26年1月から外科専門医資格を取得予定である。

診療関係

- ・リンパ浮腫外来を月2回秋田大学医学部看護学科高貝先生が担当して下さった。ストマ外来は当院WOC高橋美夏子看護師が月2回担当した。リンパ浮腫外来は秋田市以外では唯一である。
- ・専門外来の乳腺外来は、週2回完全予約制で、丹羽院長が担当した。前述したように確実に患者さんの増加もあり手術症例の増加につながったと思われる。センチネルリンパ節生検も標準術式となった。
- ・平成21年に待望していた麻酔科常勤医寺田先生(麻酔学会指導医)を得て、手術日程の余裕が大きく広がった。横手市梅の木クリニック松元茂先生には月間6~7日の午後からの麻酔にご協力をお願いした。また、岩手医科大学、柴田繁哲先生には毎週(木)+手術繁忙期の麻酔を担当

当いただいた。平成24年9月から本郷修平医師が麻酔科・専門研修に従事となった。寺田先生・松元先生・柴田先生・本郷先生の御協力によって、手術症例が増えるなかでもスムーズに手術が行える体制をしいていただいた。

- ・秋田大学呼吸器外科のご配慮で、平成25年10月から隔週の呼吸器外科外来が開設になった。
- ・DPC診療体制にあわせたパスの整備、退院調整に努めた。
- ・小川感染管理認定看護師と協力し、昨年に引き続きSSIサーベイランスを日常業務とした。
- ・病棟での連携（医師同士、看護師、薬剤師、リハビリ、事務）を心がけ、週1回金曜日午後のカンファランスを丁寧に行うように努めた。

<文責 吉岡 浩>

2013年 手術件数

		件数	備考
食道悪性疾患		1	
胃十二指腸悪性疾患	胃全摘	10	鏡視下手術 8 を含む
	幽門側胃切除	28	鏡視下手術 24 を含む
	幽門保存胃切除		
	噴門側胃切除		
	その他	4	鏡視下手術 3 を含む
胃十二指腸良性疾患		2	鏡視下手術 1 を含む
小腸悪性疾患		1	
大腸悪性疾患	結腸切除	40	鏡視下手術 27 を含む
	直腸切除	10	鏡視下手術 4 を含む
	直腸切断	8	鏡視下手術 8 を含む
	その他	4	
腸良性疾患		30	鏡視下手術 1 を含む
肝悪性疾患	2 区域切除以上	2	
	区域切除		
	部分切除	1	
	マイクロ波凝固		
	その他		
肝良性疾患		1	
胆嚢悪性疾患	肝切除		
	胆管切除		
	膵頭十二指腸切除		
	その他	1	
胆管悪性疾患	肝切除		
	胆管切除		
	膵頭十二指腸切除	3	
	その他		

胆道良性疾患		1	
胆石症		21	鏡視下手術 21 を含む
膵悪性疾患	膵頭十二指腸切除		
	膵体尾部切除		
	膵全摘		
	その他		
膵良性疾患	膵炎手術		
	その他		
虫垂炎手術		32	鏡視下手術 32、小児 9 を含む
ヘルニア手術	鼠径ヘルニア	74	鏡視下手術 9、小児 6 を含む
	大腿ヘルニア	1	
	閉鎖孔ヘルニア	2	
	臍ヘルニア	1	
	腹壁癒痕ヘルニア		
肛門良性疾患		20	
その他		7	
計		305	

呼吸器疾患	肺	2	鏡視下手術 2 を含む
	縦隔		
	横隔膜		
乳腺疾患		22	
甲状腺疾患		4	

その他		74	
-----	--	----	--

2013年 小児手術数

2013年

呼吸器	先天性
	後天性
消化器	先天性
	後天性
肝・胆・膵・脾臓	先天性
	後天性
泌尿生殖器	先天性
	後天性

胸壁	先天性	
	後天性	
腹壁	先天性	
(ソケイヘルニア、臍ヘルニアを含む)	後天性	15
頭頸部	先天性	
	後天性	
悪性腫瘍		
良性腫瘍		
その他(CVC)		
<hr/>		
総手術数		
<hr/>		

新生児手術数

学会発表

2013年

全国学会

- 第26回日本内視鏡外科学会総会，11月，福岡
伊勢憲人，吉岡麻依子，吉岡 浩，宮嶋和宏，丹羽 誠
Adachi 型の総肝動脈走行異常症例に対する腹腔鏡下No.8a, 12aリンパ節郭清
- 第68回日本消化器外科学会総会，7月，宮崎
伊勢憲人，吉岡麻依子，吉岡 浩，粕谷孝光，丹羽 誠
腹腔鏡下幽門側胃切除におけるNo11pリンパ節郭清の手技
- 第75回日本臨床外科学会総会，11月，名古屋
宮嶋和宏，本郷麻依子，伊勢憲人，吉岡 浩，丹羽 誠
若年発症した虫垂杯細胞カルチノイドの一例

地方会

日本超音波医学会東北地方会第45回学術集会，3月，仙台
本郷麻依子，長沼裕子，藤盛修生，石岡充彬，吉岡 浩，伊勢憲人，粕谷孝光，丹羽 誠，
石田秀明
USで術前診断できた黄色肉下腫性胆嚢炎(XGC)の一例

整形外科

スタッフ

平成25年4月1日現在のスタッフ氏名

医師：江畑公仁男

富岡 立

菊池 一馬

看護師：小野ゆう子

遠藤亜希子

清水まゆ美

事務：藤原真喜子

概要、平成25年度特記事項、業務内容

【外来】

H.25年4月より鈴木真純医師と交代で菊池一馬医師が大学医局より派遣され、常勤医3名体制で業務が行われることとなった。菊池医師は中堅であり、手術も一人でこなせる状態であったため、非常にスムーズな業務ができる1年となった。

外来患者数 2,089人/月、紹介率 26.8%であった。

【入院】

入院患者総数 10,002人/年、27.5人/日、平均在院日数は23.1日であった。前年より入院患者数も増加、手術件数も増加した。

手術件数

総数	438
----	-----

脊椎	133
----	-----

腰椎 ヘルニア切除術 50

開窓術 24

PLIF 37

胸椎 2

頸椎 19

その他 7

上肢帯	31
-----	----

骨接合術 20

肘部管開放術 2

その他 9

手	102
骨接合術	58
ばね指	21
手根管開放術	9
その他	10
股関節	86
THA	13
人工骨頭置換術	10
骨接合術	60
その他	0
膝関節	34
TKA	9
その他	25
下腿、足部	39
骨接合術	22
アキレス腱縫合	7
その他	10

4月より赴任した菊池医師は経験年数もあり、脊椎疾患をライフワークとしていることもありあつて脊椎疾患の手術件数が飛躍的に増加した。特に脊椎固定術などは県内でも限られた施設でしかできないため、県南地域からは多くの患者さんが紹介されるようになった。

外傷については前年までは若手医師と富岡医師の2人で行っていたものも多いが、25年度は富岡医師1人または菊池医師1人で短時間の内に終えてしまう場合が多く、中堅医師の働きには改めて敬意を表する。

地域の人口や有病率も限られており、医師数が増加しても患者数は頭打ちになることがよくあるが、整形外科に関しては医師数に比例して患者数が増えるようである。特にトレーニングされ技量を兼ね備えた整形外科医は、通常の2倍以上の手術をこなすようである。

<文責 江畑公仁男>

小児科

stuff 医師：常勤 小松 明
 非常勤 岡崎三枝子（毎週水曜、H24.9月～）
 看護師：石田亜希子、渋谷 美紀
 事務：高橋 香里、鈴木亜季子

外来

診療時間：午前 8 時30分～、午後14時～ 内容：表 - ~ を参照。

表 - : 外来診療内容

	午 前	午 後
月	一般診療	検査、予防接種（冬季インフルエンザワクチン）
火		乳児健診
水		予防接種
木		1、3週 乳児健診
金		慢性外来

表 - : 各外来患者数

	外来総計	乳児 健診				予防接種	慢性外来
		1ヶ月	7ヶ月	10ヶ月	その他		
H25/4月	1,818	22	9	10	0	269	125
5月	1,869	27	5	11	0	255	135
6月	1,386	17	7	8	0	253	133
7月	1,403	25	11	17	1	267	114
8月	1,616	23	7	10	1	235	131
9月	1,603	27	2	8	0	197	117
10月	1,797	29	2	17	0	364	89
11月	1,779	17	6	8	1	518	176
12月	1,696	23	4	6	0	507	134
H26/1月	1,400	10	3	3	0	342	138
2月	1,405	19	6	10	0	218	134
3月	1,726	21	3	9	0	222	124
合計	19,498	260	68	117	3	3,647	1,550

表 - : 予防接種内訳

DPT	127	おたふく	90
DPT-IPV	366	水痘	76
不活化ポリオ	179	B型肝炎	52
MR	219	インフルエンザ	998
BCG	97	ロタ	59
日本脳炎	379	肺炎球菌	467
DT	55	ヒブ	483
		合計	3,647

- * 一日平均患者数 約 53.4人(土、日、祝日も含む)。前年比 - 5.4人。
- * 外来患者総数 19,498人。前年比 - 1,960人。
- * 乳児健診受診総数 445人。前年比 - 157人。
- * 予防接種総数 3,647回。前年比 - 448回。
- * 慢性外来患者総数 1,550人。前年比 + 89人。

表 - 医療機関別紹介件数

他医療機関から紹介		当院から紹介	
朝日ヶ丘レディースクリニック	108	高橋耳鼻咽喉科眼科クリニック	89
高橋耳鼻咽喉科眼科クリニック	35	条里プラタナス耳鼻科	20
岡田小児科医院	14	平鹿総合病院 小児科	15
条里プラタナス耳鼻科	13	耳鼻咽喉科	1
しおたこどもクリニック	11	秋田大学附属病院 小児科	9
醍醐クリニック	11	すずき皮膚科医院	6
伊藤小児科・内科医院	9	雄勝中央病院 耳鼻咽喉科	5
千葉小児科医院	3	小児科	2
平鹿総合病院	2	阿部耳鼻咽喉科医院	5
石橋小児科医院	2	秋田組合総合病院小児科	3
		岡田小児科医院	3
		守口耳鼻咽喉科医院	2
		秋田県立医療療育センター 小児科	2
		整形外科	1
		仙北組合病院 小児科	2
他 医療機関	15	他 医療機関	8
合計	223	合計	186

昨年度に比し、他院からの紹介は79件減、当院からの紹介は39件減。

病棟（入院）

4 C病棟（整形外科との混合病棟、定床14床）。新生児入院は2 F新生児室にて管理。

表 - : 疾患別入院数

		患者数	
感染症	気管支炎・肺炎等1)	120	324
	上気道炎2)	32	
	喉頭炎	33	
	腸炎3)	76	
	歯肉・口内炎4)	14	
	中耳炎5)	20	
	髄膜炎・脳炎	0	
	インフルエンザ6)	14	
	その他7)	15	
気管支喘息		28	
精神・神経系	熱性けいれん	0	5
	無熱性けいれん	4	
	その他	1	
周産期	新生児一過性多呼吸 など8)	9	
川崎病		2	
代謝・内分泌系9)		4	
その他10)		13	
合計		385	

総入院数は 385人、前年比 - 217人。

- 1) RSV感染症 36例、マイコプラズマ感染症 6例、百日咳 2例を含む。
上咽頭培養で起因菌が検出されたものは、インフルエンザ桿菌 15例、肺炎球菌 9例、モラキセラ・カタラーリス 5例、黄色ブドウ球菌 2例。
- 2) 溶連菌感染症 4例、アデノウイルス扁桃炎 280例を含む。
- 3) ロタウイルス感染症 13例、ノロウイルス感染症 6例、アデノウイルス腸炎7例、O-157感染症～HUS 1例（秋田大学へ搬送、死亡例）、O-26感染症1例、カンピロバクター感染症 4例、サルモネラ感染症 1例を含む。
- 4) 手足口病 8例、ヘルパンギーナ 4例、ヘルペスウイルス感染症 2例。
- 5) 起因菌は、インフルエンザ桿菌9例、肺炎球菌8例を含む。
- 6) インフルエンザA 4例、B 10例。
- 7) 乳様突起炎 1例、乳腺炎 1例、流行性耳下腺炎 5例、尿路感染症 3例、腎盂腎炎 1例、伝染性単核症 3例、SSSS 1例を含む。
- 8) 哺乳不良 3例（2例は胃軸捻転）仮死 1例、LBWI 2例、黄疸2例、MAS 1例。
- 9) GH 分泌負荷試験 4例8。
- 10) 食物アレルギー（負荷試験） 2例、多形滲出性紅斑 1例、発作性上室性頻拍 1例、腸重積 1例、回腸末端炎 4例、ネフローゼ症候群 1例、蕁麻疹 1例、予防接種後副反応 1例、熱中症 1例。

表 - : 年齢別入院患者数

	男児	女児	合計
0 - 1才	53	24	77
1 - 2才	50	64	114
2 - 3才	26	20	46
3 - 4才	16	22	38
4 - 5才	8	9	17
5 - 6才	13	5	18
6 - 8才	14	6	20
8 - 10才	11	10	21
10 - 12才	6	9	15
12 - 14才	2	13	15
14才～	1	3	4
合計	200	185	385

院外活動

明照保育園（園医）

県南愛児園（園医）

横手市 4ヶ月、1才6ヶ月、3才児健診

ももの家講話

最後に

年を追うごとに外来、入院患者数ともに減少傾向が続いている。少子化に加え、感染症の大きな流行がないことが主因と思われる。新しいワクチン、特に、Hibと肺炎球菌ワクチンの効果てきめんということか？

ワクチン後進国である日本もやっとワクチン行政が前進し始めた。水痘、おたふくかぜ、B型肝炎やロタなどの受けて当たり前、というワクチンも一刻も早く公費の適応となることを願っている。

<文責 小松 明>

産婦人科

平成25年度の産婦人科は、外来は育休明けの佐藤志穂さんが復帰され、入れ替わるように産休に入った吉田紗希子さんの代わりに病棟から助産師の吉川ちあきさん、10月より池田弘恵さんが勤務されました。

病棟では助産師の伊藤望さんが新人として私たちの仲間に入ってくれました。

全体を通して、育児休暇を取るスタッフが多く、慢性人手不足の印象でした。

分娩数は前年度より30件くらい減少してしまいました。少子化の影響も大きいですが、周囲の分娩施設がリニューアルしている影響もありそうで当院は県南では最も少ない方の施設に入っているようです。このまま減少を続けると他院と集約化されてしまう可能性が高く、何とか分娩数を減らさないように日々頭を悩ませています。

特徴的なこととしては、胎児の心臓のスクリーニング検査を小児科とタイアップして始めました。幸いまだ大きな奇形等は発見されていませんが、今後成果が期待されます。

婦人科では手術数は前年並みと思いますが、いわゆる婦人科癌の症例（特に卵巣癌）は少なかったように思います。代わりに内視鏡手術が例年になく多かったです。特に子宮外妊娠の腹腔鏡手術が（症例が集まることもあり）5例もありました。

また、これまでの蓄積の裏返しなのですが、癌の再発症例が増加しつつあります。当科でも緩和医療の重要性が増していることを感じます。

最後に、長い間助産師として当院に勤務され、2A病棟の師長として私たちをリードしてくれた木下文子さんが、平成26年3月いっぱいで退職されました。どうもお疲れ様でした。

<文責 畑澤淳一>

臨床統計

平成25年度 手術件数	146件
全身麻酔	83件
硬膜外麻酔	6件
腰椎麻酔	19件
局所麻酔・静脈麻酔他	38件

婦人科手術

腹式子宮全摘術	15例
筋腫	10例
肉腫	1例
子宮体癌	3例
子宮内膜症	1例

腔式子宮全摘術	14例
子宮頸部上皮内癌	1例
子宮頸部高度異形成	4例
子宮筋腫	2例

子宮脱	7例
子宮筋腫核出術	2例
子宮筋腫分娩切除	1例
膣壁形成	1例
広汎子宮全摘術	2例
準広汎子宮全摘術	4例
卵巣癌手術	2例
子宮頸癌再発	1例
膣壁腫瘍切除（子宮体癌再発）	1例
円錐切除	8例（上皮内癌2例 高度異形成6例）
コンジローマ手術	1例
バルトリン腺嚢胞造袋術	1例
外陰腫瘍手術	2例
腹腔鏡手術	31例
子宮内膜症	7例
付属器炎	1例
子宮外妊娠	5例
子宮筋腫核出	1例
卵管留血腫	1例
卵巣嚢腫	16例
腹腔鏡検査	2例
腹腔鏡 膣式子宮全摘（異形成）	1例
子宮鏡下手術（筋腫・ポリープ切除）	6例
子宮鏡検査	13例
産科手術	
帝王切開	19例
流産手術	10例
中絶手術	6例
胞状奇胎手術	1例
レストアウス	1例
平成25年度分娩数	149件（うち死産3）
自然分娩	107例
吸引分娩	11例
鉗子分娩	9例
圧出分娩	2例
帝王切開	19例（双胎1例あり20分娩）

眼 科

<スタッフ>

医 師： 岩川雅哉（月曜） 阿部早苗（木曜） 早川真弘（水・木曜） 太田悠介（金曜）

視能訓練士： 高橋千佳子（月・水・木・金曜） 山上 薫（木曜）

看 護 師： 千田真理子、伊藤志生子、畠山 裕子

事 務： 堀川 恵

平成25年度より眼科の診察は外来診療日が増え、月・水・木・金曜日の週4日となりました。診療日が増えたことでより多くの患者さんを診察できる態勢になっております。

患者さんには原則として予約をお願いしておりますが、急患に関しましては即日診察・治療をこころがけております。

また平成25年4月より新たに白内障手術が始まりました。現在は水曜日の午前中に入院し午後に手術を行い木曜日の午前中に退院、の1泊2日の日程で行っております。

手術開始後は大きなトラブルもなく順調に進んでおります。今後の課題はさらに手術件数を増やしていくことと考えております。

診察・手術以外には今年度も引き続き検診の眼底写真判定を行いました。検診を受けられることで自覚症状がなくても眼疾患のある患者さんの早期発見・診断に役に立っております。

「情報の80%は視覚から」と言われております。秋田県は高齢化が進んでおり、今後さらなる患者数の増加が見込まれます。患者さんのQOV（Quality Of Vision）のさらなる向上のためスタッフ一同頑張っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

<文責 早川真弘>

泌尿器科

<スタッフ>

医 師： 千葉 修治
外来看護師： 藤坂マリ子
外 来 事 務： 三浦 君子
入 院： 主に3 B病棟

<平成25年度特記事項>

4月に医師交替、前任の伊藤卓夫医師が転出し、千葉が着任した。
平成25年4月からは千葉の医師一人体制で泌尿器科診療・透析診療を担当した。
医療機器の新規導入・更新はなかった。

<日常業務>

外来診療は月曜から金曜までの毎日午前。
検査・手術等は不定期で午後に施行。
透析は月曜から土曜日まで午前・午後・夜間（月水金のみ）の3部制、祝祭日関係なく稼働。

<概要>

外来： 例年通り、排尿障害、尿路結石、尿路悪性腫瘍、末期腎不全、等々の尿路一般疾患を広く診療した。
入院： 手術例や前立腺生検例が主であった。入院日数が短期になるのは前述のような患者の特性であると思われる。
手術： 経尿道手術（TUR）、透析シャント手術を主に施行した。前立腺全摘や鏡視下手術も秋田大学泌尿器科教室医師に応援いただき施行した。尿管結石をはじめとする尿管鏡手術適応例は他院に紹介した。

<総括>

医師一人体制での診療のため様々な制限が避けられない中、外科をはじめとした他科の先生方やスタッフの皆さんに支えていただきながらなんとかやっているのが実情です。当面はマンパワーの改善はなさそうですが、現状なりに、それでも向上心を忘れずに、より良い泌尿器科医療が提供できるように努めて参ります。

<文責 千葉修治>

放射線科

スタッフ

常勤医師 : 泉 純一
非常勤医師 : 平野 弘子
応援医師 : 秋田大学放射線科より随時

特記事項

MRI 機種は平成23年2月14日より GE 社製1.5T 機種 (HDxt 1.5T ver. 16) を、CT 機種は平成17年5月より Brilliance CT 40 (Philips 社) を、また血管造影システムは平成20年10月より Bransist Safire (SHIMADZU 社) を継続使用している。

業務内容

平成25年度に放射線科で行われた画像読影件数は、CT 6436件、MRI 2051件、単純写真 7229件であった。

造影 CT 検査のうち CT angiography (CTA) が142症例に行われ、さらに CTA のうち冠動脈 CT が56件であった。また CT colonography は37人に施行されている。

病診連携室を介しての他施設依頼の撮影・読影件数は、CT 302件、MRI 384件で、CT は昨年度より13件減、MRI は35件増加していた。また単純写真件数は16件であった。他施設依頼 CT、MRI は、各々読影件数全体の4.9%、18.7%を占めていた(表1)。

CT/MRI には画像診断管理加算2が、単純写真には画像診断管理加算1が算定されている。

血管造影検査は33件で、ほとんどが IVR 目的であった。内訳は、

- ・ 肝腫瘍に対する TACE が 28件
- ・ 胃静脈瘤に対する BRTO が 1件
- ・ 十二指腸動脈瘤に対する塞栓が 1件
- ・ 上腸間膜動脈閉塞に対する血栓溶解術が 1件
- ・ 肝血管仮生瘤に対する塞栓が 1件
- ・ 結果的に撮影のみで終了が 1件

であった。

肝腫瘍に対する TACE として、H25年11月よりバルーン閉塞下における塞栓術を開始した(いわゆる balloon-TACE, B-TACE)。H25年度中には、のべ10人に同治療を施行した。

検診業務としては、脳ドックが192件(うち3人はCTで実施)、胸部単純写真読影が6,652件、CTによる内臓脂肪量測定が53件、肺がん検診が22件であった(表1)。

表2に過去6年間の検査・読影件数の推移を示す。

<文責 泉 純一>

表1：平成25年度 検査・読影件数

検査		件数	%
CT	総計	6,436	100.0
	病診	315	4.9
	CT angiography	142	2.2
	CT coronary angiography	56	0.9
	CT colonography	37	0.6
	健診内臓脂肪	53	0.8
	健診肺CT	22	0.3
MRI	総計	2,051	100.0
	病診	384	18.7
	健診脳ドック	189	9.2
単純写真	総計	7,229	100.0
	健診	6,652	92.0
	病診	16	0.2
血管造影	総計	33	100.0
	TACE	28	84.8
	その他の塞栓	2	6.0
	BRTO	1	3.0
	上腸間膜動脈血栓溶解	1	3.0
	撮影のみ	1	3.0

表2：放射線科で施行された年度別読影件数

年度	CT	MRI	単純写真	血管造影
平成20年度	6,592	1,538	5,851	23
平成21年度	6,469	1,546	6,401	28
平成22年度	6,994	1,815	6,904	34
平成23年度	6,765	1,800	7,210	33
平成24年度	6,526	1,982	7,424	42
平成25年度	6,436	2,051	7,229	28

麻 醉 科

スタッフ

常勤：寺田宏達（平成21年5月～）

非常勤：松元 茂（梅の木ペインクリニック）

柴田繁啓（秋田大学生理学講座）ほか

業務内容

1. 手術での麻酔または検査での麻酔
全身麻酔、硬膜外麻酔、脊椎麻酔、伝達麻酔、局所麻酔
件数等の実績に関しては、手術室の項を参照のこと。
2. ペインクリニック（外来および入院）
平成21年6月から開設。月・水・金曜日午前

治療対象

帯状疱疹の治療（特に急性期痛、帯状疱疹後神経痛の強い症例）

顔の神経痛（三叉神経痛、非定形顔面痛）に対して、薬物治療・神経ブロック治療（高周波熱凝固法）

腰痛、背部痛、肩、腕、足の痛み（椎間板ヘルニア、脊椎症、椎間関節症、腰部脊柱管狭窄症、圧迫骨折、頸肩腕症候群、肩関節周囲炎、肋間神経痛、四肢の末梢循環障害、坐骨神経痛、会陰部痛、尾骨神経痛、幻肢痛、カウザルギー、反射性交感神経性委縮症などのうち手術の対象にならないもの）

けがや手術後の創部痛、種々の神経損傷後の神経因性疼痛など。

まぶたや顔の筋肉がぴくぴくと痙攣したり（眼瞼痙攣、顔面痙攣）、顔が急に変な方向を向いてしまう状態（痙性斜頸）に対するボツリヌス毒素治療

実績

新規患者数44名、延べ患者数959名。延入院患者数138人。主な疾患別内訳は、筋骨格系疼痛が頸部10例・腰部27例、帯状疱疹痛が29例、顔面の激しい痛みを生じる三叉神経痛は21例、末梢神経系の障害21例や顔面痙攣のボツリヌス毒素などによる治療2例であった。治療内容の内訳は、硬膜外ブロックが161件、星状神経節ブロックが27件、三叉神経ブロックが17件（ガッセル神経節高周波熱凝固治療4例その他の三叉神経の熱凝固治療9例）、神経根ブロック28例、末梢神経ブロック63件、腰部交感神経節ブロック2例、上下腹神経叢ブロック2例などであった。

< 文責 寺田宏達 >

リハビリテーション科

・リハビリテーション科・組織

江畑公仁男	(副院長兼整形外科科長兼リハビリテーション科科長)
小田嶋尚人	(技師長) 理学療法士
高橋 貞広	(室長) 理学療法士
高橋 洋	(主任) 作業療法士
高橋 茂実	(主任) 理学療法士
鈴木 務	(副主任) 理学療法士
古関 佳人	(副主任) 言語聴覚士
山谷 加奈	(副主任) 理学療法士
加賀 直之	(副主任) 作業療法士
石川 順基	(副主任) 理学療法士
後藤沙央里	作業療法士
渋谷 美紀	助手

・目標

1. 安全安心なリハビリテーションを提供する。
2. 効果があり、効率的で患者様に貢献できるリハビリテーションを目指す。
3. 地域住民のニーズを把握し、在宅リハの検討を進める。
4. 業務改善を進める。

・定例スケジュール

毎週月曜日	： リハビリテーション科ミーティング
第1月曜日	： 4 C病棟カンファレンス
第1火曜日	： 3 A病棟カンファレンス
第1金曜日	： 3 C病棟カンファレンス
第2水曜日	： 2 A病棟カンファレンス
第2金曜日	： 3 B病棟カンファレンス

-1. 院外活動

横手市デイサービスセンター 康寿館

5月27日(月)～5月31日(金)

出前健康講座

平成25年6月17日	「誤嚥ってなあに」	古関 佳人
7月16日	「誤嚥ってなあに」	高橋 洋
9月17日	「脳卒中のリハビリテーション」	高橋 貞広
10月28日	「生活習慣病予防と運動」	小田嶋尚人
平成26年3月12日	「生活習慣病予防と運動」	小田嶋尚人

-2. 研修活動

月日	用務	場所	氏名
4月20日	第22回秋田県作業療法学会	能代市	高橋洋・加賀・後藤
5月19日	県作業療法士会現職者共通研修会	秋田市	後藤
5月25～26日	県作業療法士会発達部門研修会	秋田市	加賀・後藤
6月8日	県理学療法士会中央ブロック講習会	秋田市	高橋貞
6月8～9日	県作業療法士会現職者共通研修会	秋田市	後藤
6月23日	県理学療法士会研修会	秋田市	小田嶋
6月27～30日	第47回日本作業療法学会	大阪府	加賀
8月24～25日	3学会合同呼吸療法認定講習会	東京都	鈴木・山谷
	日本ハンドセラピー学会基礎研究入門セミナー	仙台市	加賀・後藤
9月4日	平成25年度リハスタッフ育成事業	大仙市	後藤
9月21～22日	平成25年度リハスタッフ育成事業	大仙市	加賀・後藤
9月28～29日	東北作業療法学会	郡山市	高橋洋・加賀・後藤
10月4～5日	日本理学療法士協会全国学術研修大会	浜松市	石川
10月5～6日	東北摂食・嚥下リハビリテーション第10回研修会	仙台市	古関
10月18～20日	手の評価セミナー	横浜市	加賀
10月25日	秋田大学保健学会指導者会議	秋田市	小田嶋・加賀
10月26～27日	日本理学療法士協会講習会	秋田市	小田嶋
11月10日	県作業療法士会身障部門研修会	秋田市	高橋洋・加賀・後藤
11月23～24日	呼吸療法認定試験	東京都	鈴木・山谷
12月8日	県作業療法士会現職者選択研修会	秋田市	加賀・後藤
3月15日	県理学療法士会南部ブロック研修会	平鹿病院	高橋貞

-3. 臨床実習受け入れ

秋田大学	総合臨床実習	2名	小田嶋尚人	担当
	基礎臨床実習	1名	山谷 加奈	担当
秋田大学	総合臨床実習	1名	高橋 洋	担当
弘前大学	臨床実習	1名	高橋 貞広	担当
青森県立保健大学	総合臨床実習	1名	鈴木 務	担当

. 総括

今年度は、新たに秋田大学医学部保健学科を新卒の後藤沙央里が作業療法士として加わった。また高橋茂実が7月12日から産休から続けて育児休業に入ることに伴い6月3日から煙山智子が嘱託職員として産休補助で採用した。

鈴木が研修を経て3学会合同呼吸療法士認定試験に合格した。今後の活躍を期待する。

平成25年度秋田県リハビリテーション研究会主催「がん患者リハビリテーションの講習会」にリハ科から鈴木務、石川順基。医局から丹羽院長、江畑公仁男先生。看護科から高橋麻理子さんの5名がチームで参加し「がん患者リハビリテーション料」の施設基準取得に至った。

5月～6月の間に大森病院に入職した小松先生の研修を当院で1回/週の割合で合計8回行った。5月は小松先生が当院での研修を行い、6月は小田嶋が大森病院で指導した。当院での研

修は主に脳血管疾患の症例を主体に研修していただいた。また大森病院では整形外科疾患や外科術後の理学療法についても指導した。

今年度も10月13日の病院祭が開催された。リハ科では、高橋貞広をリーダーとして理学療法士が「らくらく健康体操」、高橋洋をリーダーとして作業療法士と古関が「レザークラフト」を開催した。らくらく健康体操はメイン会場でのデモンストレーションで多くに市民と一緒に体を動かした。レザークラフトも多くの市民に参加していただいて待ち時間が出るほどの盛況ぶりだった。

実施患者数・単位数について患者数は理学療法・作業療法・言語聴覚療法ともほぼ横ばいとなった(図1)。細かく見ると患者数の上昇に単位数が伴っていないよう見見える。最近のリハビリテーションの傾向は一人の患者へのリハの提供時間を長くかけて早期に改善をはかる傾向になっているため今後検討しなければならないと考える。今年度のみの月別の集計では9月に減少しているが休日が月初めと月末に重なった結果と考える。全体としては例年通り9月から12月に患者数が減少して年度末に向けて増加していくカーブになっている(図2～4)。その他の傾向については図5～7を参考にさせていただきたい。

臨床実習は理学療法士養成校・作業療法士養成校から例年通りの受け入れを行った。臨床実習指導について理学療法学科は弘前大学・高橋貞広、秋田大学・小田嶋、青森県立保健大学・鈴木務。作業療法学科では秋田大学は高橋洋が指導者となった。

医療機器では嚥下造影用の車椅子「コンバーVFX」、作業療法室に昇降式作業テーブル、ペグボードセット、上肢機能評価セット(握力計・感覚検査機器)、ポータブルスプリングバランサーを購入した。

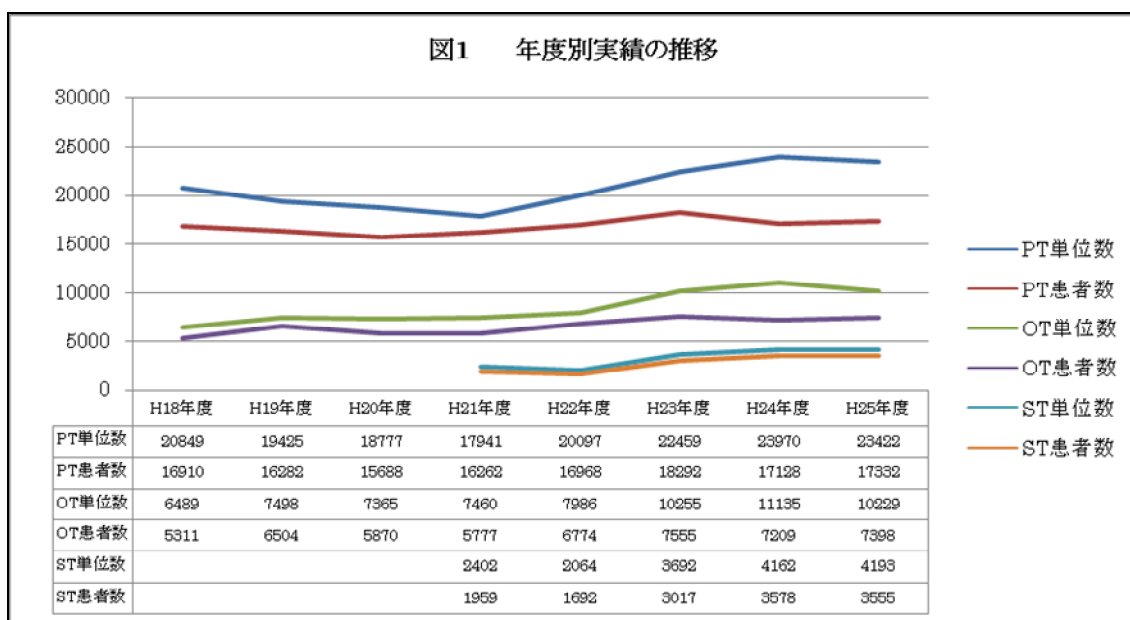


図2 理学療法患者数・単位数

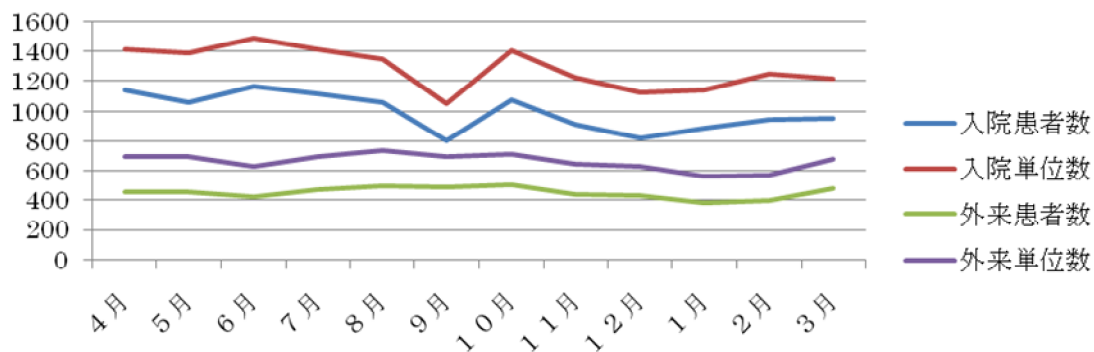


図3 作業療法患者数・単位数

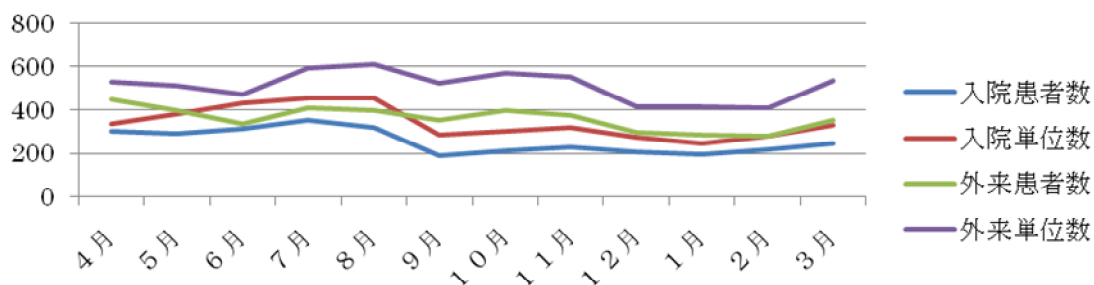


図4 言語聴覚療法患者数・単位数

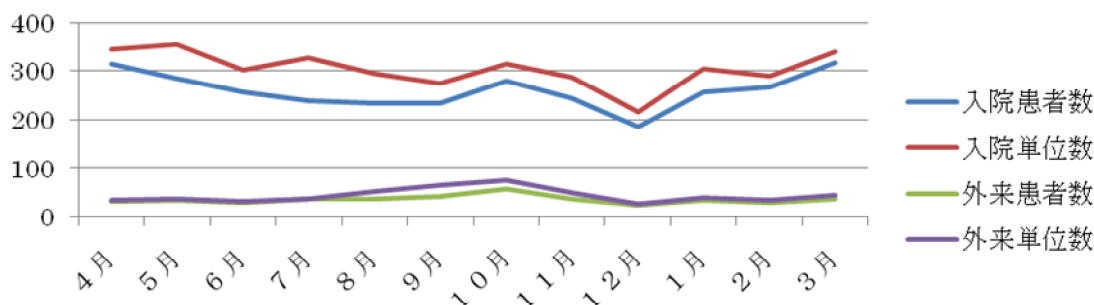


図5 診療科別割合

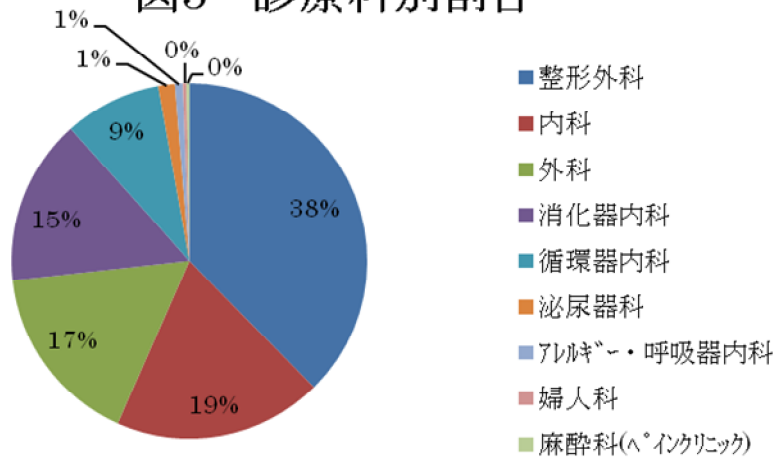


図6 療法別割合

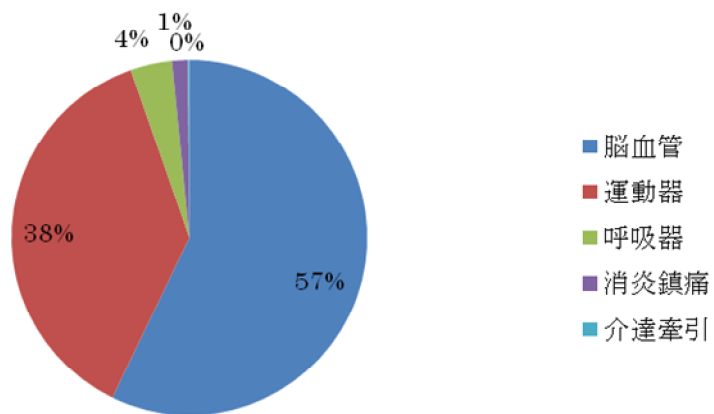
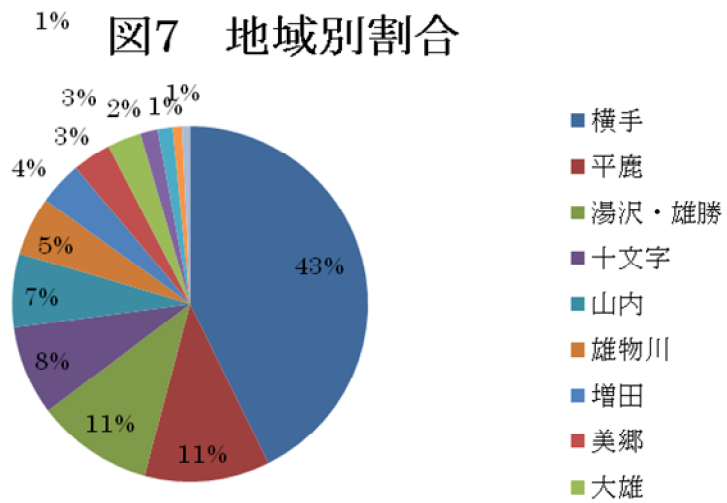


図7 地域別割合



< 文責 小田嶋尚人 >

研修医

初期研修医（1年次）

高橋 晋（内科コース）
伊藤 周一（内科コース）
宮嶋 和宏（外科・整形外科コース）

初期研修医（2年次）

渡邊 健太（内科コース）
三浦 孝也（秋田大学医学部附属病院より）
戸沢 智樹（秋田大学医学部附属病院より）
松澤 尚徳（秋田大学医学部附属病院より）

年 月	イベント
平成 25 年 4 月	
5 月	
6 月	
7 月	レジナビ in 東京
8 月	市民盆踊り
9 月	
10 月	病院祭
11 月	
12 月	X'mas コンサート
平成 26 年 1 月	
2 月	
3 月	レジナビ in 福岡

平成25年4月より市立横手病院初期研修医として担当した、病院内外での出来事及びその役割について記載した。以下、活動内容について簡潔に記載する。

平成25年7月、平成26年3月のレジナビでは県外の医学生に当院を広く知らしめ、研修先として選択されるべく広報活動を行った。Power Pointを交えて説明するものであるが、昨今の医学生の鋭い観点からの質問に、何とか対応しつつ、プレゼンテーションの能力を養っていくものであった。

翌月の市民盆踊りは、横手市で毎年行われている送り盆まつりの一環として行われている。享保の大飢饉における供養が始まりとされており、280年以上の歴史を持つらしい。日頃、能動的には祭りに身を置くことはなかったが、参加してみると非常に楽しく、一体感があった。平成26年も是非参加し、その際は他の職員の方よろしく、流水の如き踊りを興ずる次第である。

平成25年12月のX'mas コンサートではサンタクロースの衣装を身に纏い、病棟の方々に歌を、小物をお届けした。病院という場において些か非日常的な衣装ではあるが、それ故に普段表に出ない笑顔や驚いた顔を見させていただいた。

かつて広報にも「地域医療」という言葉を強調した記憶が若干残っているが、こういった、病院のイベントにおいても体現していると感じる1年であった。

<文責 高橋 晋>

救急センター

< 救急センターの理念 >

当院は救急告示医療機関である。

病院の基本理念：地域の人々に信頼される病院を目指します。

安心できる良質な医療の提供

心ふれあう人間味豊かな対応

に鑑みて、全職員（非常勤職員も含めて）の協力の下に、24時間体制で良質な救急医療を実践する。

< スタッフ >

救急センター責任者 江畑公仁男

専任看護師 佐藤 鋼子

< 救急患者取扱状況 > H25年4月1日～H26年3月31日分

1. 取扱患者数 10,210人

2. 来院時間と来院方法

患者数

区分	標ぼう時間内	標ぼう時間外	深夜（再掲）	計
救急車	282人	585人	153人	867人
その他	0人	9,343人	781人	9,343人
計	292人	9,928人	934人	10,210人

3. 患者取扱診療科

診療科目	患者数	診療科目	患者数	診療科目	患者数
内科	4,113人	脳外科	0人	精神科	0人
小児科	3,802人	循環器科	0人	その他	184人
整形外科	1,064人	産婦人科	236人		
外科	804人	眼科	7人	計	10,210人

4. 患者の症状など

区分	疾病程度（患者数（人））				受付後の扱い（患者数（人））			
	軽症	中等症	重傷	死亡	帰宅	入院	転送	その他
交通事故	113	5	3	0	111	8	2	0
急病	8,270	579	225	44	8,246	803	24	44
その他	878	36	57	0	878	94	0	0
計	9,261	620	285	44	9,235	905	26	44

< H25年度総括 >

高齢化に伴い全体的に高齢者の救急搬送が多く、中には搬送手段がなくて依頼される場合も少なくない。そのほかにも年齢や症状、救急依頼の状況などは多様であり、初期対応においているるな判断の責任は大きい。

救急運営委員会での症例検討会や、BLS研修などスタッフ教育とともに、より迅速で効果的な質の高い救急医療をチームで行うために更に全体で質の向上をめざしたい。

< 文責 佐藤鋼子 >

薬 剤 科

薬剤師

科 長 石田 良樹
主 任 佐々木洋子 渡邊 圭子 小宅 英樹
副主任 谷川 裕子 (H25.7～産休、育児休暇)
科 員 武石 知希
薬剤助手 大山 丹子 (～H25.9) 北小路由紀 柿崎 幸
高橋 紀子 近江真梨子 藤井 香織
小柳 聡子 石塚 夏音 (～H25.10)
新山由香子 (H25.6～) 眞田 誉久 (H25.10～H26.3)

平成25年度目標

1) 薬剤管理指導の質向上

過去、薬剤管理指導については経営的視点から実施件数を目標としてきたが医政局長通知に表現されているように昨今質的な向上が求められている。今年度は質的な向上を目標とする。

2) 業務の視覚化による効率化の推進

業務プロセスを視覚化し俯瞰的に効率性の向上、業務担当の効果的委譲等を実施し全体最適な業務プロセスの構築を目標とする。

3) 医療費削減への貢献

国策であるGeneric薬品の普及に則り、病院の資源効率および患者負担の軽減のためにGeneric薬品を積極的に採用していく。

院外発表等

第9回秋田県薬剤師感染制御研究会

「当院のICT活動」武石知希

第4回横手市病院薬剤師業務研究会

「当院のICT活動」武石知希

認定等

石田 良樹 感染制御認定薬剤師 日本病院薬剤師会

佐々木洋子 秋田県糖尿病療養指導士 秋田県糖尿病対策推進協議会

平成25年度実績

院外処方せん件数	88,841件
院内処方せん件数	15,021件
院外処方せん発行率	85.5%
入院処方せん件数	29,902件
外来注射件数	24,052件
入院注射件数	147,773件

< 文責 石田良樹 >

診療放射線科

スタッフ

診療放射線技師	技師長	藤原 理吉			
	室長	郡山 邦夫	法花堂 学		
	主任	細谷 謙	根岸 裕介	齊藤 千尋	佐藤 裕基
	副主任	村上 千恵			
	看護師	佐藤由美子	平成25年 4月 1日から		
	看護補助	織田美和子			
	受付	三浦 真理			

平成25年度目標と評価

目標： 被ばく低減の啓発（正当化の判断となる当院の標準的な検査の被ばく線量をイントラネットで見覧できるように構築することや放射線被ばく低減を目的とした研修会の開催）

取り組み、行動内容：

「医療スタッフが知っておきたい放射線被ばくについて」と題して、平成24年9月7日と平成25年3月4日に研修を行った。また、ネットワーク上に放射線診療行為の正当化における判断の基礎となる当院の検査項目別被ばく線量（組織・臓器線量、実効線量）を掲示した。さらに、放射線のQ & Aを掲示した。

結果： 安全研修の一環である被ばく低減の啓蒙研修会では、対象者286名に対して参加者127名、参加率44%の結果となった。次年度は50%以上を目的に継続して実施していきたい。

研修を通して放射線の基礎知識の普及が図られたと考える。また、エビデンスのある放射線診療の一環として放射線検査における検査項目別被ばく線量を掲示したので正当化の判断やQ & Aについて利用を促進していきたい。

関連資格取得状況

放射線管理士	藤原 理吉、郡山 邦夫、法花堂 学、細谷 謙
放射線機器管理士	藤原 理吉、郡山 邦夫、法花堂 学
医用画像情報管理士	藤原 理吉、根岸 裕介
肺がんCT検診認定技師	法花堂 学、細谷 謙
検診マンモグラフィ精度管理・撮影技術認定	藤原 理吉、郡山 邦夫、法花堂 学、細谷 謙、齊藤 千尋
臨床実習指導教員	郡山 邦夫、法花堂 学、細谷 謙

院内・院外の発表

平成25年度 放射線科カンファランスと担当者（演題）

4月11日	両側乳癌	村上 千恵
5月16日	線量分布図作成	根岸 裕介
6月13日	頭部拡散強調像とADCmapの検討	郡山 邦夫
7月11日	ネット環境四方山話	細谷 謙
8月8日	医療被ばく低減施設の取り組み	藤原 理吉
9月12日	肺がん検診CT認定技師の現状と取り組みについて	法花堂 学
10月10日	乳腺MRIプロトコルの検証	柿崎 千尋
11月15日	CTにおける腱靭帯3D画像作成の試み（兼コ・メディカル）	佐藤 裕基
12月12日	乳管造影のアーチファクト・肺胞出血・脂肪織炎	村上 千恵
1月9日	ポータブル撮影時の患者誤認の改善について	根岸 裕介
2月13日	院外の放射線技師（平鹿総合病院）による発表	
3月13日	院外の放射線技師（角館総合病院）による発表	

21年度を100とした時の推移

一般撮影	年度(平成)	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
	総撮影件数	100	124	126	127	125
出張撮影件数	100	99	103	97	107	
乳房撮影件数	100	99	116	116	120	
健診	胸部撮影人数	100	104	110	118	116
	胃透視検査人数	100	93	86	98	90
造影・透視検査	消化管	100	108	104	71	62
	肝・胆・膵	100	113	74	84	44
	泌尿器・産科領域	100	82	66	37	67
	整形領域	100	113	114	118	138
	心カテ・血管造影	100	93	87	108	102
C T人数		100	108	104	100	99
M R I人数		100	124	116	127	131

件数・人数の推移

一般撮影	年度(平成)		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
	一般撮影	総撮影件数	外来	22,932	27,431	28,609	29,465
入院			9,663	10,117	9,580	8,880	8,849
合計			30,234	37,548	38,189	38,345	37,771
総曝射回数		外来	38,733	42,960	45,966	47,583	47,125
		入院	11,852	12,594	12,083	11,394	10,725
		合計	50,585	55,554	58,049	58,977	57,850
出張撮影件数			5,834	5,757	6,024	5,681	6,216
乳房撮影件数		2,253	2,227	2,603	2,618	2,702	
フィルム枚数		185	167	213	192	230	
健診	健診胸部撮影人数		5,753	6,005	6,351	6787	6656
	胃透視検査人数		926	857	796	906	838
造影・透視検査	消化管		575	619	599	411	356
	肝・胆・膵		128	145	95	107	56
	泌尿器・産科領域		204	167	135	75	136
	整形領域		266	300	302	313	368
	心カテ・血管造影		60	56	52	65	61
C T	人数	外来	5,154	5,552	5,410	5,204	5027
		入院	1,286	1,395	1,304	1,249	1,356
		合計	6,440	6,947	6,714	6,453	6,383
フィルム枚数		1,337	1,229	1,342	982	668	
M R I	人数	外来	1,439	1,676	1,593	1,763	1,889
		入院	153	234	200	201	139
		合計	1,545	1,910	1,793	1,964	2,028
	フィルム枚数		1,296	1,026	941	691	945

< 文責 藤原理吉 >

看護科

毎年同じことを繰り返しているのが、人員確保であった。4月には、新規採用者が11名入職し、今年度は大丈夫であろうと思われたが、中途退職者が7名おり、産休・育休者が毎月平均10名で多いときには、15名にもなった。そのため、人手不足で大変な時期もあった。しかし、職員の随時募集で、3名が採用となりよかった。また、平成25年度3月末には、正職員8名が退職され、看護現場には大きな痛手であった。

看護科にとって良いことといえば、看護師1名が緩和ケア認定看護師養成課程に入学が決まり、無事に卒業できたことが挙げられる。あとは、26年の認定看護師試験合格を待つのみである。病院目標に「認定看護師育成」を掲げており、今後も病院で必要とされる認定看護師を育成していく予定である。

「看護の質」を高める目的で、本格的に固定チームナーシングに着手して、満3年が経過した。この看護方式のおかげで、横手病院の看護科を立て直すきっかけになったと思っている。

これからはこの方式を使いこなせるように、さらに深く勉強を重ね、より良い横手病院看護科をつくっていききたい。

看護科理念・方針

- 理念 1、人間愛に基づいた患者様中心の看護を提供します。
2、地域の人々と信頼関係を築ける看護を提供します。
- 方針 1、専門性を高め、質の高い看護の提供とやりがいの感じられる看護を目指します。
2、病院の健全経営に積極的に参加します。

平成25年度看護科目標と結果評価

看護の質を高め、患者さんと共に喜びを感じあえる看護を提供する

平成24年度と同じ看護科目標を立て、固定チームナーシングの定着・充実を目的とした。

昨年度は病棟のみの固定チームナーシングであったが、全看護科で導入できるように何回かに分けて研修をおこない、各科で試行錯誤をくりかえし1年間で一応の形は作られた。

研究発表会・小集団活動報告会では、すべてパワーポイントを使用しての発表を義務づけた。作成前にパワーポイントの研修会を同じ内容で3回行い、全員が出席できるようにした結果、すべてパワーポイントでの発表となり、今回の目標は達成された。

看護の質を高める目的で、副主任より経験年数が下のスタッフにリーダー・サブリーダーを任命し、育成に力を入れてきたが、副主任のかかわりが薄くなっていることに師長達は感じていた。

そこで、副主任の役割として、「教育」をあげ、「自分の看護観」を新人、副主任、師長主任の前で、発表してもらおう計画をたて、実際に「看護を語る会」として、今年度10名の副主任が発表した。

これについては、副主任にとっては自分の看護の振り返りになり、聞く側の新人にとっては、これからの看護を考えるきっかけとなり、副主任以上の者にとっても、自分の看護の振り返りにつながりとても好評であった。今後も続けていく予定である。

また、副主任の数名が、新人研修の「輸血」「フィジカルアセスメント」「看取り」「看護技術」などにも指導者として参加した。自ら資料を作り、さらにパワーポイントを作成し発表した。これは本人にとって大きな自信となり、教育委員会からは来年度の活躍も期待された。今後はさらに副主任にかかわってもらおう研修を増やし、看護の質を高めていきたい。

看護要員関連

平成25年度産休・育児休業・長期病欠・退職状況

	25年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	26年 1月	2月	3月	延	平均
産休	4	3	2 (1)	4	2	1	3	3	4	2	1	2	31	2.5
育児休業	9	9	9	9	11	12	11	11	11	13	14	9	128	10.6
合計	13	12	11	13	13	13	14	14	15	15	15	11	159	13.3
長期病欠 休職		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	
介護休暇	1	1											1	
長期休暇		1	1	1	1	1	1	1	1	1				
採用	11 (1)		(1)				2		1 (1)	1				15 (2)
退職			2		2	1 (2)	1	(1)	(1)		(1)	8		14 (2)

10/1付正職員へ

1/1付正職員へ

() 嘱託

・ H25年 4月 現在

看護師正職員 平均年齢 35.5歳

看護師勤続年数 平均 11.3年

・ H25年度 産休育休取得者 (H25年3月現在) 9人 初産 3人 経産 6人

育児休暇日数 平均 285日 (最短217日・最長279日)

離職率 8.1%

平成25年度看護科職員総数 (平成26年3月末 249人)

保健師 7名
助産師 10名
看護師 150名 (嘱託・パート17名含)
准看護師 5名 (嘱託)
看護補助者 55名 (嘱託52名含)

研修会参加状況

院外研修

研修会名	日時	場所	参加者数
看護研究の基本を学ぶ - 看護研究計画書の作成について -	5/21	秋田市	2名
第34回日本手術看護学会東北地区学会及び総会	5/25	仙台市	4名
2013年度緩和ケア認定看護師教育課程	6/3~1/31	盛岡市	1名
フィジカルアセスメント(基礎編)	6/13~14	秋田市	2名
H25年度秋田県病院協会看護管理部会研修会	6/20	秋田市	1名
第10回日本褥瘡学会東北地方学術集会	6/29	秋田市	2名
看護師のためのステップアップ輸血研修会	6/29~30	秋田市	3名
看護必要度評価者院内指導者研修	7/7	秋田市	2名
H25年度看護管理者連絡会議・研修会	7/9	秋田市	1名
災害医療と看護(基礎編)	7/12~13	秋田市	2名
終末期がん看護における看護師のコミュニケーションスキル	7/17	秋田市	2名
平成25年度透析療法従事職員研修	7/18~20	さいたま市	1名
J感染制御ネットワーク東北ベストプラクティス部会	7/20	秋田市	2名
秋田県看護教育研究会研修会	8/6	秋田市	1名
赤ちゃん学	8/7	秋田市	1名

脳卒中急性期の最新知識と看護 プレカンファレンスセミナー	8/16	秋田市	2名
第24回東北ストーマリハビリテーション講習会	8/21	秋田市	7名
入院から始まる退院支援	8/21～24	仙台市	1名
第9回SSユーザー会・第7回SSユーザー看護部会	8/23	秋田市	2名
東日本大震災の実体験から学ぶ	8/23～25	大阪市	2名
固定チームナーシング学習会	9/19	秋田市	1名
固定チームナーシング学習会	9/21	東京都	7名
「J」感染制御ネットワーク東北ベストプラクティス部会第2回	9/21	秋田市	2名
人間ドック健診情報管理指導士 ブラッシュアップ研修会	10/5	東京都	1名
がん化学療法の最新トピックスと患者のセルフケア支援	10/12	秋田市	1名
第24回秋田県病院大会	10/12	秋田市	2名
労働者として知っておきたい労働条件法の基礎知識	10/22	秋田市	1名
災害支援ナース育成講習会	10/23	秋田市	2名
看護職の夜勤・交代制勤務ガイドラインの勤務編成の基準	11/12	秋田市	2名
H25年度秋田県病院協会看護管理研究部会第2回研修会	11/13	秋田市	3名
生活をつなぐ退院支援（基礎編）	11/14～15	秋田市	2名
第30回秋田県消火器内視鏡技師研究会	11/17	秋田市	4名
H25年度人間ドック健診施設機能評価公式講習会	11/29	東京都	2名
第24回秋田県臨床輸血研究会	11/30	秋田市	3名
H25年度秋田県プリセプター養成研修	12/5～6	秋田市	2名
医療分野の「雇用の質」の向上に向けた研修	12/6	大仙市	1名
「J」感染制御ネットワーク東北ベストプラクティス部会第3回	12/7	秋田市	1名
2014年診療報酬改定と看護管理者の役割	1/28	東京都	1名
看護必要度ステップアップ研修～記録と監査を中心に～	2/16	秋田市	2名
妊娠中から産後のメンタルヘルスケア講習会・ワークショップ	2/22	秋田市	2名
第4回病院機能評価改善支援セミナー	3/5	東京都	1名
H26年度社会保険診療報酬改定説明会	3/20	秋田市	2名

学会参加

研修会名	日時	場所	参加者数
第52回全国自治体病院学会	10/16～18	京都市	4名
第44回日本看護学会（成人看護）学術集会	10/3～4	秋田市	8名
第40回秋田県看護学会	11/27	秋田市	4名

院外発表

研修会名	日時	場所	発表者
第34回日本手術看護学会東北地区学会 術前術後訪問定着にむけて - 術前術後訪問用紙の改善 -	5/25	仙台市	小西千穂子 小田嶋ひとみ
第10回日本褥瘡学会東北地方学術集会 右腸骨稜部から仙骨部に褥瘡を保有する症例にVAC， ATS®治療システムを使用した経験	6/29	秋田市	遠藤ちづる 佐藤美夏子
第54回人間ドック学術大会 経鼻内視鏡検査における前処置方法と苦痛度の関連性	8/29	東京都	鈴木久美子 松浦 嘉美
第52回全国自治体病院学会 SMA閉塞症患者の栄養吸収への援助	10/17	京都市	佐々木まき子 加賀谷優紀
第52回全国自治体病院学会 在宅における褥瘡ケア	10/17	京都市	佐藤 友紀 佐藤美夏子

< 文責 佐藤セツ子 >

2 A病棟

【病棟数】

39床（重症加算病床 3床・LDR室 2床）

【担当科】

産婦人科・内科・消化器内科・循環器内科

【看護方式】

固定チームナーシング

【H25年度 病棟の概要】

産婦人科と主に消化器内科との混合で当院、唯一の女性病棟である。

産科は、LDR室が設置、運用され、快適なシャワー・トイレ付、御家族の付添可、昼食・夕食はレストラン食の提供などで好評、夫の立ち合い分娩も増加している。担当助産師は、個別に外来保健指導および産後指導に熱心で、特に母乳保育を中心とした指導に力を入れ取り組んでいる。助産師学生の実習も受け入れており、後輩の就職にも役立っている。

婦人科は、化学療法治療やターミナル期緩和ケアの対象が増加傾向にあり、薬剤の取り扱いなど他部署との連携を密にした看護、管理をしている。

内科に関しては、患者様の高齢化・一人暮らしなど複雑な背景が多く、施設との関わり、介護サービスの検討、在宅介護の家族指導などMSW・ケアマネージャー・施設相談員との連携は更に重要になってきている。また、社会的背景などで病院の入院生活に頼る傾向も見受けられるが、退院調整で早期より対応策を講じているため、特殊なケースを除いては長期化する入院は稀になってきている。

褥瘡回診、NST回診、ICT回診から情報提供・交換をして、指導を有効に取り入れた看護に努め、看護研究も家族指導に関するテーマで業務に役立てている。

年間分娩数 148名（中期分娩含む）

年間手術数 146件（内 全麻100件）

【平成25年度 病棟目標】

1. 受け持ち看護師の自覚を持ち、家族退院支援に取り組む
 - ・入院時から退院まで、受け持ち看護師が関わる
 - ・介護力評価表を用いて、10ケースで評価・検証する
 - ・退院連絡表などの修正
2. 新人が育ちやすい環境の中で、患者さんに寄り添える看護師の育成
 - ・新人の成長状況をスタッフ間で共有する
 - ・誉める指導を心がける
 - ・勤務時間内での有効な指導
3. 妊産婦・新生児への安全な分娩ケアを提供する
 - ・災害時マニュアルを作成する（停電、断水時対応）
 - ・マニュアルを用いて、実践練習ができる
 - ・新人助産師が安全な分娩ケアが一人でできるよう育成

【目標の反省】

1. 入院時より退院支援介入に、受け持ち看護師を中心として関わり、家族指導も含め良い体制ができた。試行錯誤の中で作成した「ワードパレット」は電子カルテ委員会の承認を得ていなかったため、今後活用できるように取り組んでいきたい。
2. スタッフ全員で新人教育にあたり、新人も指導者も焦らず育成できた。精神面でも声掛け、相談しやすい環境を心がけ、夜勤調整など自立状況に応じて、不安軽減に努めることができた。また、できるだけ時間内での有効な指導ができた。
3. 今までなかった災害時マニュアル（停電・断水時の対応）を作成し、災害時に備える心構えに繋がった。今後はマニュアルの周知徹底に努め、見直しや改善点などの対応をする。

<文責 藤井洋子>

3 A病棟

【病床数】

49床（重症加算室3床 亜急性期病床10床含）

【担当科】

循環器科 脳神経内科 消化器内科

【看護方式】

固定チームナーシング

【H25年度 病棟の概要】

要介助者が年々増加する中、胃瘻や中心静脈栄養（cv）での栄養管理を行う患者が増えている。また、トロミ食や嚥下食を始め、食事の全介助を必要とする患者も多くなり、夜勤勤務者の大きな負担になっている。夜間看護補助者の共働業務の見直しも定期的に行い、夜間の共同業務の軽減化がはかられている。また要介護者の入院比率が高いことで、看護補助者の要員を増やしてもらい、日勤での業務負担も軽減している。

全介助者は通常40名程度までに至っている。また重症患者の入院割合も高くスタッフの業務負担も多くなっている。しかし、毎日の厳しい業務にも関わらず、スタッフの専門職としての職業意識の高さに本当に助けられ、看護ステーションの中ではいつも笑いの絶えない雰囲気でも過ごせたと思う。

固定チームナーシング開始から2年が経ち、リーダーやメンバーの役割はほぼ定着している。チームでのカンファレンスも増え、チーム全員での色々な問題への取り組みや新人教育に向けた活動が良い方向に向かっている。リーダーへの負担が多いことや申し送りの時間配分など問題はまだあるが、実りのある一年だった。

【H25年度 病棟目標】

- 1．他職種との連携を密にし、退院困難者の退院へむけての取り組みをする。
- 2．急性期においても個別性を重視した看護を提供する。

【目標の反省】

- 1．スクリーニングシートを使用することで退院調整への意識づけにはなったが研究期間の終了に伴いカンファレンス回数が減ってしまった。またカンファレンスを看護計画に反映することができず、個別性のある看護計画の立案が今後も課題となる。
他職種とは今まで以上に連携し、継続して退院支援に取り組んでいく必要がある。
- 2．清潔援助の充実に向けて、現状の把握を行ったが、ケアが不足していることを実感する結果となり次年度は具体的に活動していく予定となった。目標設定、達成目標の焦点があつておらずケアを充実させるところまで達成できなかった。ガントチャートを利用し、毎月のチーム会で確認し合うことで活動内容の共有が出来るようになる。次年度の課題となった。

< 文責 高橋礼子 >

3 B 病棟

【病床数】

44床（重症加算病床 3床含）【担当科】

消化器外科 泌尿器科 眼科

【看護方式】

固定チームナーシング

【H25年度 病棟の概要】

外科、泌尿器科に加え、平成25年5月より眼科も加わった混合病棟となった。

しかし、緊急な内科の重症患者入院や、救急外来からの緊急手術や他病棟からの手術目的・重症化した患者の転入も多い。患者の高齢化に伴い、認知症など合併症を抱えての手術となり、手術前後の管理も高度化してきた。5月からの眼科パス入院は毎週水曜日に2～3人であり、外科の化学療法患者も多いため、病棟担当薬剤師との連携を充分にとり副作用の出現の減少に努めている。またスタッフや、患者の被曝軽減のための啓蒙も積極的に行っている。

当病棟の特徴としては呼吸器装着、CHDFによる高次医療や、人工肛門造設患者の管理、透析導入前後の管理などより専門性のあるケアが求められる。退院調整で早期より対応をとり、退院後の生活に支障がないように、患者及び家族指導を行い、MSWや担当ケアマネージャーとの連携をとりながら患者様の立場に立って看護するよう努力している。

年間外科手術件数 411件

泌尿器科手術件数 80件

眼科手術件数 88件

【H25年度 病棟目標】

1. 記録時間の短縮を図り、夜間緊急や急変に対応できる体制の構築
2. 確認マニュアル手順を遵守し、確認不足事由によるヒヤリハットの減少をめざす

【目標の反省】

1. 各チームで記録時間の短縮に向け、定期的な記録監査を輪番制にしたことで、情報整理され時間短縮に繋がった。また、カンファレンス記録を重視することで、個別性のある看護計画と実践ができた。
2. 確認不足事由によるヒヤリハット件数は、37件であり前年度を下回った。また各チームでKYTをした症例は11件であった。

< 文責 藤井洋子 >

3 C 病棟

【病床数】

47床...重症加算室 2 床 含む

【診療科】

消化器内科を中心に 脳神経内科 循環器内科 他

【看護方式】

固定チームナーシング

【H25年度 病棟概要】

4月から新人看護師3名が配属され、新人教育をしながら急性期看護に取り組みました。病棟の特徴として、治療・検査・指示出しなど準夜帯に集中して忙しく、新人の夜勤は一緒に組むスタッフ・曜日を配慮して独り立ちに向けました。

患者さんの層としてはESD・EST・EIS・RFA・TEAなどクリティカルパスでの運用。また、化学療法・術前検査入院で手術に繋げる急性期看護の一方、高齢者や一人暮らしの方の退院調整に苦慮する場面も多くありました。

今後も地域住民の高齢化を考えると、益々、治療の一方で療養環境を整える退院支援に重点を置く必要性があり、多職種との連携をはかりながらチーム医療を目指して行きたいと思います。

年間治療数 ESD ; 64件 EST ; 38件 EIS ; 34件 RFA ; 件 TEA ; 31件

【H25年度 病棟目標】

1. チーム全体で情報を共有し、多職種との連携をとりながら継続した看護実践ができる
2. 新人教育計画を可視化しチーム全体で新人を育成する

【目標の反省】

1. ウォーキングカンファレンスの定着で深夜 日勤の申し送りの短縮、あいさつ、患者把握はできました。今後、夜勤の送りが長いのが課題です。また共同意思決定型ウォーキングカンファレンスを目指したいと思います。

ADL低下に伴う介護度の変化に応じ介護申請の働きかけができ多職種と連携をとり退院準備をすすめていくことができましたが早期支援が必要です。嚙下り八は連携がとれ順調にすすめられました。

2. 新人教育はプリセプターが主になるガントチャートを活用し評価(3か月毎)を記録に残し新人の成長過程を全員が把握できるようにしました。またプリセプによる指導で負担が大きいときはメンバーに依頼、チームで支えました。年度末には看護技術は成長し、自らの声掛けができるようになり生き生きした行動が見られてきました。

重症者の受持ちは次年度に持ち越しとします。

<文責 下夕村優子>

4 C 病棟

< 病床数 >

46床（重症加算病床 2床、 亜急性病床 4床含む）

< 担当科 >

整形外科 小児科

< 看護方式 >

固定チームナーシング

< H25年度 病棟の概要 >

整形外科医師が3名となってから年々手術件数、入院患者ともに増加してきている。特に今年度は頸部、腰椎の椎体手術件数が増加した。更に雪害による外傷や高齢者の大腿骨頸部骨折、橈骨遠位端骨折が多かった。地域性によるものか予定手術の高齢化もすすんできている。相変わらず患者背景は独居や老人世帯、息子との二人暮らしなどが多い。DPCによる在院日数の短期化でコメディカルとの連携は必須であった。今後もカンファレンスを密にし、スムーズに在宅での生活に移行できるよう援助していきたい。

小児科は相変わらず季節的なRSや喘息、マイコプラズマ肺炎が多かった。今年はインフルエンザや胃腸炎の流行時期が延長してきている。少子化の波は徐々に押し寄せてきており入院患児数は減少してきている。

< H25年度 病棟目標 >

コメディカル、地域連携との連携をはかり、継続した看護を提供する

- ・患者さんを知ることからはじめよう
- ・入院前のADLを目標にしよう

< 目標の反省 >

病棟の概要でも述べたように患者や介助者の高齢化が進んでいる。さらに介助力不足に悩む家族も増加している。コメディカル、地域福祉と連携しながら患者家族の不安や負担をできるだけ軽減し、いかにスムーズに在宅へ移行できるかを模索していた1年だった。固定チームナーシングを学びながら自分たちにあったケアを心がけた。しかしカンファレンスは定期的に行っているが介入すべき受け持ち看護師の自覚不足がみられた。今後は受け持ち看護師の役割と意識づけが課題である。

< 文責 木村真貴子 >

外来部門

【外来診療科】

内科 消化器内科 循環器内科 アレルギー・呼吸器内科 外科 整形外科
婦人科 小児科 泌尿器科 眼科 心療内科 麻酔科 放射線科

【特殊外来】

頭痛外来 ペインクリニック 更年期外来 予防接種外来 禁煙外来

【外来患者数】

1日平均患者数：666.1名
救急外来患者数：10,210名/年
紹介患者数：3,329名/年
新患患者数：1,940名/年
救急搬送患者数：867名/年

【検査数・処置件数】

内視鏡検査：上部内視鏡検査：6,266（うち健診3,179）件/年
下部内視鏡検査：2,307（うち健診260）件/年
放射線検査：CT造影検査：3,089件/年 MRI造影検査：288件/年
血管造影検査（心臓カテーテル検査：43件/年 TAE：28件/年）
自己血採血：264件/年（泌尿器科：4件 整形外科：146件 婦人科：114件）

【外来目標】

外来治療が安心して継続できるような看護を提供する。

- 1) コメディカルと連携し患者の情報共有を図り、継続した看護を提供する。
- 2) 外来での治療・処置を標準化し応援体制を整える。

内科系チーム

外来通院患者の情報共有を図り、継続した看護を提供する。

Aチーム（内科）

糖尿病患者の問題点に早期にきつき、情報共有し看護介入ができる。

Bチーム（消化器）

化学療法中の患者の情報共有を図り、統一した看護介入ができる。

【目標の反省】

今回、目標達成のため、毎朝カンファレンスを行い、患者の情報を各職種の立場から出し合い、治療方針や、患者が抱える問題点の情報共有を行った、それに加え、内科チームは、前日受診患者の経過や、看護介入の結果報告、退院後初受診患者の確認など行った。消化器チームは、外来化学療法室とのカンファレンスを行い、情報交換も行った。これらのことで、患者への対応が、統一化され、また、診療・治療がスムーズに進み目標である継続した看護の提供ができたと思います。また、カンファレンスを行うことで、スタッフに一体感が生まれ、疾患や看護に対する知識の共有にもつながりました。

その他、外来では、放射線科技術士の協力を受け、放射線画像の見方（頭部偏・胸部偏・血管偏）の勉強会を開催しました。この勉強会は、とても好評で、今後も続けていければと思っています。薬剤（ワクチン・抗がん剤）や診療材料（留置針）等についても随時説明会やサンプル使用等を行いました。

固定チームナーシングの導入で、各チームの目標を達成するためにスタッフが前向きに取り組むことが出来ました。また、それぞれのスタッフの知識・技術の向上・やりがい観につながったと思います。

<文責 佐々木佳子>

手術室・中央材料室・洗濯室

< 手術室構成 >

4室稼働（A / B / C / D）

A：主に人工物挿入（バイオクリールーム）

B：一般手術

C：一般手術

D：眼科手術

< H25年度手術件数 >

外科	411件
整形外科	431件
産婦人科	146件
泌尿器科	80件
眼科	88件
合計	1,156件
全身麻酔件数	・ ・ 698件
緊急手術件数	・ ・ 144件

< H25年度部署目標 >

「安全な手術室看護の提供」

- 1．術前・術後訪問の更なる充実
- 2．固定チームナーシングの取り組み

< 評価・まとめ >

術前・術後訪問に関しては、前年度よりも90%と訪問率を上げることができた。今後は、休日の退院患者さんの術後訪問に対してどう取り組むかがポイントとなる。固定チームの導入に関しては、今年度は学習することで終わったが、次年度は1年間を通してチームを固定し目標設定・カンファランスができるように試験的に導入し、取り組んでいきたい。

< 文責 佐藤昌悦 >

人工透析室

H25年4月1日現在

<構成スタッフ> 8名

看護主任 高橋 佳子

看護副主任 小田嶋明子、小田嶋ゆう子、中村勇美子

看護師 嶋田麻由子、小野 真美、渡辺 僚太、佐々木智美

<ベッド数> 15床

<患者数> 平均患者数 44名

月間平均患者件数 約557件

	述べ件数	新規	依頼	臨時	転入	転院	死亡
H25年度	6,778	15	36	31	5	7	5

<特徴>

透析療法は、移植しなければ生涯継続する必要があり、患者自身の自己管理が不可欠である。そのためには、患者自身が透析を取り入れた生活スタイルを確立できるように、身体的・精神的・社会的でのアセスメントを行い、援助を行っていくのが透析看護の目標である。

現在、人口の高齢化に伴って、慢性維持透析患者ならびに新規導入患者も高齢化が進み、また、糖尿病が4割以上占めるなど重症合併症が増加してきている。そのため、現場では、以前より種々の難題を抱える患者に対応していかなければならず、援助していくのが大変になってきている。このような精神的、肉体的負担の多い患者さんに対処していくには、透析医療にかかわる医療スタッフの連携が必須である。

<勤務体制>

日勤4～6名・準夜2名

月・水・金 3クール（午前の部・午後の部・夜間の部）

火・木・土 2クール

<部署目標>

安全で質の高い透析を提供する

固定チームナーシングを導入し、患者さんへ個別的な看護が提供できる

【チーム目標】

患者さんへ統一した指導ができる

*小集団目標

A、透析導入期のパンフレットを作成し活用する

B、透析標準看護計画を作成する

< 目標の反省 >

1 つめの A チームは、今まで使用していた初回病棟訪問用紙を見直し完成した。また、実際に、それを活用し、評価を行った。この用紙の活用により、経験年数問わず、どのスタッフが訪問しても、統一した指導できるようになった。

課題として残ったのは、「導入期から退院まで」と「外来通院に向けての」パンフレットである。現在、見直している段階で完成には至らず、今後も引き続き検討、作成していきたいと思っている。

2 つめの B チームは、紙ベースからシステムを使用し標準看護計画を作成することにした。病棟と同じように作成できるかと思っていたが、システム上無理があり、どのような形で使用できるのか、なかなか決まらず時間がかかった。試行錯誤の結果、テンプレートを利用することになり、現在その方向で進めている。

透析標準看護計画の内容については、16項目作成はできているため、5月上旬には完成、活用予定である。

透析室では固定チームナーシングを導入し1年が経とうとしている。最初は、試行錯誤しながらも現在、軌道に乗って進めている。今後もスタッフ一人一人がそれぞれの役割を果たし、更に2年目に向け頑張っていこうと思う。

< 1年間のまとめ >

H25年度は、H24年度に比較して、延べ件数が95件増加した。その理由として、新規導入者、依頼者数、臨時透析が軒並み増加したことが挙げられる。新規導入者は7名から15名に増加し、そのうち5名は当院のベッド事情から他院へ転院となっている。また諸事情にて近医からの臨時の依頼件数が多い時期があり、対応に追われた。まだまだ透析待機の患者が控えていることから、今後益々患者数は増加することが予想される。また、高齢化及び重症合併症の患者が増えてきている。これに対し、目標である安全で質の高い看護を提供するためには看護スタッフの確保は重要と考える。

4月から透析室でも固定チームナーシングを開始した。スタッフ一人一人が受け持ち患者を持つことで今まで以上に自覚と責任が生まれより良い看護に繋がっている。これから更に業務改善や業務整理を行いながら安全で質の高い看護を提供していきたいと思う。

< 文責 小田嶋明子 >

訪問看護センター

<平成25年度4月1日現在のスタッフ>

看護師	師長	高橋千鶴子
看護師	副主任	安藤 宏子
看護師		佐藤 友紀
事務		三浦由紀子

<機能・概要>

訪問看護の看護師は、要介護者等の心身の特性を踏まえて、全体的な日常生活動作の維持、回復を図ると共に、生活の質の確保を重視した在宅療養が維持できるよう支援している。実践にあたっては、関係市町村、地域の保健・医療・福祉サービスとの密接な連携を図り、総合的なサービスの提供に努めるものとする。

現在、訪問看護の対象者は、終末期看護、中心静脈栄養・胃瘻・腸瘻・尿道カテーテル・気管カニューレ挿入、人工呼吸器装着、在宅酸素等、医療依存度の高い方の利用がほとんどである。

<特記事項>

秋田県立衛生看護学院、衛生看護科3年の在宅実習が今年で6年目を迎え、今年も実習生6名を受け入れ、実習指導にあたった。

また、今年で8年目となる介護保険サービス事業所の情報公表に関しては、訪問調査が行われた。

<H25年度目標と反省>

1. 院内外その他職種と連携をとり、質の高い看護ケアの提供をする。

訪問開始前の在宅療養への不安や病状の変化、介護方法への不安等を軽減するためにMSWと担当介護支援専門員等その他職種と連携を密にし、快適な療養環境を提供できるようにしていく。

目標達成のために、退院翌日の初回訪問の実施。ケアマネと同行訪問し、家族を交えてカンファレンスを実施。また、担当者会議への参加や頻回の連絡。訪問前の状態確認のための電話連絡を行った。

その結果、心配事や不安に思っていることが早い段階でキャッチでき、他職種とうまく連携を取ることができた。そのことにより、不安の除去に努められ、スムーズに在宅療養ができ、質の高い看護ケアができたと思われる。

2. 在宅での看取り、急変時に対応がスムーズにできるように指導する。

在宅での看取り希望があっても家族に不安があり、急変時に救急要請してしまうことがあるため、看取りの段階の説明を行い、不安の軽減に努め、急変時の精神的支援を行うようにしていく。

家族に事前に急変時にどうするか意志確認しておいた。在宅での看取り希望の場合は、パンフレット使用にて説明を実施。主治医に家族の意向を伝え、PC上に入力してもらい、外来当直看護師へ伝達した。

その結果、在宅看取り希望の方は、急変時の対応が理解でき、患者家族の希望に寄り添った在宅での看取りができたと思われる。

< 平成25年度訪問看護件数 >

・ 訪問看護総件数	1,530件
・ 訪問診察総件数	323件
・ 臨時訪問件数	79件
・ 訪問看護利用総人数	57人
・ 新規対象者数	28人
・ 死亡者数	23人 (自宅9人、病院14人)

H25年度

訪問地区別利用者数

訪問地区	利用者数
横手	47
平鹿	7
大雄	1
山内	2
雄物川	0
増田	0
十文字	0
合計	57

介護認定内訳

要支援	0
要介護1	0
要介護2	3
要介護3	4
要介護4	5
要介護5	30
医療保険	15

疾患別利用者数

疾患別	人数
脳血管疾患 (脳梗塞・脳出血)	12
心疾患 (心不全等)	2
悪性疾患	16
特定疾患・難病 (パーキンソン病等)	1
精神疾患 (老人性痴呆等)	6
筋骨格疾患 (骨折・関節症・骨粗鬆症等)	0
脳性麻痺	1
脳症 (低酸素・インフルエンザ)	0
先天性疾患	0
呼吸不全	0
その他	18
合計	57

年齢・性別利用者数

年齢	利用者数	男	女
1～29	1	0	1
30～49	2	1	1
50～54	1	1	0
55～59	0	0	0
60～64	0	0	0
65～69	1	1	0
70～74	3	2	1
75～79	4	4	0
80～84	15	8	7
85～89	17	4	13
90～94	13	4	9
95～99	1	0	1
100	0	0	0
合計	57	24	33

利用者の医療処置状況 (重複あり)

医療処置	人数
膀胱留置カテーテル	15
胃瘻	14
褥瘡	3
中心静脈栄養カテーテル	11
在宅酸素	5
気管カニューレ	2
ネーゼル	1
人工肛門	4
人工呼吸器	1
PTBD	1
腸瘻	1
処置なし	16
膀胱瘻	0
食道瘻	0
ペースメーカー	1

< 文責 高橋佳子 >

M E 室

【体制】

室 長 吉岡 浩
 スタッフ 川越 弦 柏谷 肇

【主な業務】

医療機器中央管理および院内各所における医療機器管理 在宅医療機器管理
 各種血液浄化 胸・腹水処理 回収式自己血輸血 ラジオ波焼却装置操作
 心臓カテ - テル検査 植込型および体外式ペースメーカー管理 教育・啓蒙

【委員会・諸会議】

医療安全管理委員会 医療安全管理対策委員会 医療安全カンファランス
 医療機器安全管理部会（透析機器管理委員会含む）
 手術室運営委員会 救急センター運営委員会 診療材料検討委員会
 防災対策委員会 会医療ガス安全管理委員会 業務連絡会議
 手術室月例会議 透析室月例会議

【各施行件数】

	症例数	備考
持続緩徐式血液濾過透析（CHDF）	2	総施行回数 37回
エンドトキシン吸着（PMX-DHP）	2	総施行回数 3回
白血球除去療法（LCAP）	2	総施行回数 17回
腹水処理	31	総施行回数 97回
人工呼吸器	15	
マスク型人工呼吸器（NIPPV）	2	
在宅人工呼吸管理者	2	
心臓カテ - テル検査	43	
体外ペーシング	3	
ペースメーカー植込み	11	新規 9件 交換 2件
ペースメーカー外来	117	ケアリンクによるフォロー 62件
下大静脈フィルター留置術	2	
回収式自己血輸血	44	整形 43件 婦人科 1件
ラジオ波焼却装置	5	

）MRI対応のペースメーカーが多く使用されるようになってきた

【中央管理室一般貸出機器】

機種	メーカー	モデル	備考
輸液ポンプ	テルモ	TE-161	26台

シリンジポンプ	テルモ	TE-331	11台
微量用シリンジポンプ	テルモ	TE-361	3台
ベッドサイドモニター	日本光電	BSM-6701	2台
		BSM-3201	1台
		BSM-2401	1台
人工呼吸器	IMI	VELA CP	1台
		VELA ST	1台
		AVEA	1台

【主な機器の異動】

『新規導入・更新機器』) 各部署管理の機器等を除く

機種	メーカー	モデル	設置部署	備考
ベッドサイドモニター	日本光電	PVM-2701	消化器	1
ベッドサイドモニター	日本光電	PVM-2701	HD室	1
ベッドサイドモニター	日本光電	PVM-2703	救急	1
ベッドサイドモニター	日本光電	BSM-2401	ME室	1
心電図送信機	日本光電	ZS-940P	ME室	1
心電図送信機	日本光電	ZS-920P	BB室	1
心電図送信機	日本光電	ZS-630P	ME室	2
心電図送信機	日本光電	ZS-910P	ME室	7
心電図送信機	日本光電	ZS-940P	ME室	1
携帯型受信端末	日本光電	ZT-200	ME室	5
高解像LCDモニタ	オリンパス	OEV-261H	手術室	2
高速気腹装置	オリンパス	UHI-4	手術室	2
ルビジョン画像記録装置	オリンパス	IMH-10	手術室	3
ビブルクステーション	オリンパス	WM-NP2	手術室	2
先端湾曲ビデオスコープ	オリンパス	LTF-S190-10	手術室	1
カラコントロールユニット	オリンパス	OTV-S190	手術室	1
内視鏡光源	オリンパス	CLV-S190	手術室	1
深部静脈血栓予防装置	COVIDIEN	Kendall SCD 700	手術室	5
電解質測定装置	常光	EX-Ds	HD室	1

『廃棄機器』) 各部署管理の機器等を除く

機種	メーカー	モデル	設置部署	備考
浸透圧測定装置	日機装	OSA-21	透析室	1
深部静脈血栓装置	シグマックス	プレキシパルス	手術室	2
深部静脈血栓装置	村中	加トロンEXCEL	手術室	6
モニター送信機	日本光電	ZB-831	ME室	2
モニター送信機	日本光電	ZB-821	ME室	2

モニター送信機	日本光電	ZB-824	ME室	1
モニター送信機	日本光電	ZB-811	ME室	6
麻酔器	アコマ	KMA-1300F	手術室	2
胎児診断装置	トーイツ	FD-4000	手術室	1
気腹装置	WISAP	THERMO PNEW	手術室	1
気腹装置	アコマ	私ニル-77400	手術室	1
内視鏡モニタ	SONY	PVM-25005M	手術室	2
内視鏡モニタ	SONY	PVM-2045MD	手術室	1
心電図送信機	日本光電	ZS-940P	ME室	1

【点検・故障修理等の状況】) 定期点検を除き、且つ記録に残っているもの

機種	メーカー	モデル	件数	メーカー修理
電子血圧計	テルモ	エレマーノ	8	7
電子血圧計	テルモ	T3	2	廃棄
麻酔器	GE	Aestiva7900	2	2
パルスオキシメータ	GE	タフサット	9	2
送信機	日本光電	ZS-940	8	7
パルスオキシメータ	フクダ	U-bix	2	廃棄
人工呼吸器点検機器	IMI	70-アライヴ	1	1
ビデオスコープ	オリンパス	LTF-S190-10	1	1

【機器におけるインシデント報告】

輸液・シリンジポンプについて	7
機器貸借やレンタルについて	2
低圧持続吸引装置について	1

) 件数はもとよりヒューマンエラーが少なくなった。

今後は手順の整備と徹底を図らなければならない・・・

【院内報の発行】

- 4 / 5 シリンジポンプ使用手順の見直しについて、他
- 7 / 7 ベッドサイドモニター、送信機の更新について、他
- 11 / 2 メラサキューム中央管理化、血液浄化装置更新、他
- 2 / 13 モニターの警報について(重要)
- 3 / 18 メラサキュームについて、機器の返却について、他

【学会・研修会への参加】) 今年度は学術発表ができなかったのが残念

- 5 / 11.12 日本臨床工学会(川越・柏谷)
- 6 / 22 ペースメーカー関連専門臨床工学技士「認定のための指定講習会」(柏谷)
- 7 / 6 日本医療機器学会「機器と感染カンファレンス」(川越)
- 7 / 28 秋田県臨床工学技士会「ECGセミナー」(柏谷)

- 9 / 8 秋田県臨床工学技士会「HDセミナー」(川越)
- 11 / 30.12 / 1 日本臨床工学技士会「医療機器安全管理責任研修会」(川越)
- 12 / 5 オンライン治療における諸問題(川越)
- 3 / 2 秋田県臨床工学技士会「人工呼吸器セミナー」(川越・柏谷)

【院内研修の実施】

- 4 / 4 新採用者オリエンテーション「医療機器の取り扱いについて」(新採用者)
- 4 / 12 ポンプ研修「TE-161およびTE-331」の基本操作について(新採用者)
- 4 / 12 モニター研修「医用テレメータの基本操作」(新採用者)
- 4 / 25 透析機器研修「DCG、アシスタント、機械室機器の研修」(異動スタッフ)
- 5 / 16 AED BLS研修「AEDの使用方法」(新採用者・未受講者)
- 5 / 29 除細動器研修「基本操作・注意事項」(新採用者・未受講者)
- 7 / 19 人工呼吸器研修「人工呼吸の基礎・基本操作」(新採用者・未受講者)
- 7 / 26 血液浄化装置「TR-55Xの取り扱い」(MEスタッフ)
- 9 / 17.20 閉鎖式吸引「吸引操作時の人工呼吸器の操作」(新採用者・希望者)
- 10 / 28 搬送型保育器「V-707他、導入時研修V-707およびInqu-i」(2Aスタッフ)
- 11 / 1.5.8 在宅用人工呼吸器「トリロジー200基本操作」
(MEスタッフ・3Bスタッフ・訪問看護スタッフ・患者家族)
- 11 / 13 在宅人工呼吸器周辺機器「酸素濃縮装置について」(MEスタッフ・患者家族)
- 11 / 26 手術室周辺機器「電気メスと内視鏡手術装置について」(異動者)
- 12 / 10 ペースメーカー勉強会「中級編」(希望者)
- 2 / 7 ペースメーカー勉強会「初級編」(希望者)
- 3 / 25 低圧持続吸引装置「基本操作」(希望者)

【業務改善・質改善等】

機器の使用にあたり施設係、医療情報室と共に院内電源パトロール?が始まった。これにより不要なテーブルタップやプラグの使用が規制され、タコ足配線なども解消されつつある。

平成25年度は在宅人呼吸例が増えた。NIPやHOT、人工呼吸器など在宅医療機器のレンタルは機器によってメーカーや業者、さらには対応する窓口、管理部署が異なる。これまで指導や管理について対応がバラバラであったことから、今後はこれらの窓口を一本化し管理していかなければならない。まずは機種の確認、患者さんの確認から始まった。来年度以降は具体的な対応について検討していきたい。

【総括】

インシデントにおいてヒューマンエラーが減ったのは嬉しい。教育や研修、自己研鑽、機器の統一、更新など時間をかけて地道に質改善を継続してきた結果であると思える。

以前から言われていることだが、医療安全が当たり前となった昨今、医療機器の安全管理者としての社会的役割と責任は大きい。今後も研鑽と資質の向上に努め職務を充実させていきたい。

<文責 川越 弦>

臨床検査科

スタッフ	佐藤恵美子	(技師長)
	平塚多喜雄	(室長)
	小丹まゆみ	(室長)
	佐々木絹子	(室長)
	工藤真希子	(主査)
	長瀬 智子	(主査)
	佐々木美奈子	(主任)
	和賀 幸子	(主任)
	大嶋 聡子	(主任)(~ 8月23日)
	柴田 一美	(主任)
	石田 拓耶	(副主任)
	加賀谷美智子	(検査技師)
	長谷川真理子	(検査技師)(8月1日 ~)
	相澤 ゆか	(検査技師)(平成26年1月6日 ~
	松井富美子	(業務員)

目標 正確かつ迅速な結果報告で安心できる良質な医療へ寄与する

検体検査

4月から検査科にとっては久々の新卒スタッフが増えた。皆で気持ちを若くし頑張った。

生理検査

超音波検査では、突然の中退職者があり、外来健診とも迷惑をお掛けした。日常業務におけるバックアップ体制を構築するためには一致協力が必要である。思いを同じにするのは難しい。

病理検査

術中迅速診断の標本作成を院内で実施する事となり、4月から準備とトレーニングのハードな4か月を要したが、開始してからは順調で何よりであった。診療科から必要とされる検査科であらねば！

検査科全体としては、「途中退職」が数年続いておりバックアップ体制を取る為、一部業務は担当者が日替わりとなるなど何とも厳しい年であった。

グルコース・グリコヘモグロビン分析装置 アークレイGA1171・HA8181を導入して

平成25年9月より、グルコース及びグリコヘモグロビン分析装置アークレイADAMS GlucoseGA-1171とADAMSA1cHA-8181が導入された。両機共に検体処理時間が向上しており、結果報告までの時間が大幅に短縮された。(処理能力は10検体処理において従来機器で約23分、導入機では約12分である)

また、手作業で行っていたグリコヘモグロビン測定前の攪拌が自動攪拌機能の搭載により必要なくなり作業効率が向上した。メンテナンス面では作業が簡便化しており、交換部品も減少したことでコスト削減にもつながった。

分析能力もアップし、高精度な測定結果を迅速に報告できるようになった。今後も安心できる良質な医療の提供に貢献できるよう努めていきたい。

< 文責 工藤真希子 >

術中迅速標本作成を実施して

平成25年8月より標本薄切と染色を練習し、9月12日に院内で初めての術中迅速検査を行った。他院へ迅速依頼を行うと標本搬送に時間がかかったが、院内で行うことで、標本提出から術中の医師への結果報告まで1時間以内に時間短縮できた。現在までに毎月1件は術中迅速の検査があり、多い月では3件の迅速検査を行っている。開腹中の術材を扱う切迫感はとても強く緊張する時間であるが、術中迅速標本作成に関わることで、診臨床・診療により貢献していると感じる。

< 文責 佐々木美奈子 >

年間検査実績(件)

検体検査 総件数 871,648件

尿一般	45,020	生化学	581,588	赤沈	3,774
尿定性	15,645	血糖	28,049	血が入	2,098
尿沈渣	11,504	HbA1c	15,791	免疫関連	8,297
便潜血反応	4,698	血液一般	72,654	輸血関連	2,965
インフルエンザ	2,693	凝固線溶	10,608	乳幼児	1,817
一般細菌	2,378	感染症	15,918	外注	24,272
結核菌関連	655	腫瘍マーカー	7,947	外注率(%)	2.8

生理検査

心電図	11,879	簡易聴力検査	7,068	腹部EKG(検診)	1,575
ホルター心電図	356	スパイログラフィー(VC・FVC)	2,040	甲状腺EKG	51
マスターダブル	260	眼底カメラ	1,745	頸動脈EKG	355
マスタートリプル	1	脳波	62	心EKG(UCG)	1,739
トレッドミル	5	MCV	120	指尖容積脈波	3
24時間心電血圧計	13	新生児聴力検査	145	血圧脈波	292

病理細胞診

生検	937	術材	1,029	細胞診	880	婦人科細胞診	4,179
----	-----	----	-------	-----	-----	--------	-------

< 文責 佐藤恵美子 >

食 養 科

夏場にかぎらず一年中が、食中毒要注意の季節となってしまいました。特に冬に発生する食中毒の中では、9割がノロウイルス感染によるものと言われています。

われわれは、今年度もノロ対策に頭を悩ませました。腹痛・嘔気・嘔吐・下痢などの症状出現時には出勤せず電話連絡にて申告する事を義務化し、少しでも疑いがある場合には受診してもらい（陽性と判断つかないグレーゾーンの場合にも）就業制限をかけました。ぎりぎり体制の中で1週間休ませるという事は非常に大変でしたが、こういったことで対処しました。

また、給食従事者だけでなく業者の健康チェック、そして物資取り扱い管理の強化や、手洗いの励行、冷蔵庫の取っ手の消毒、トイレには消毒液を備え頻回のドアノブの消毒、中心温度85以上までの加熱処理、生野菜や果物は「ビーコロン」を用いての洗浄、等々徹底させました。

なお、本当に衛生的な状態とは微生物も食品残渣も洗浄された状態のことで、食品残渣があると微生物が短時間で増殖してしまう為、盛り付け台・配膳車の清拭は特に念入りに行ないました。そして、調理や配膳時には神経質くらい注意を払いました。更には、衛生管理がマンネリ化したりおざなりにならないよう定期的にミーティングや勉強会も行なって参りました。

残念なことに、ノロウイルスに対するワクチンはまだ開発されておりません。

今後も、食養科の基本理念にのっとり、食中毒を絶対起こさないよう「持ち込まない」「不活化する」「持ち出さない」といった原則を厳守しながらスタッフ一同、力を合わせ頑張って参りたいと思います。

食養科基本理念

- * 新鮮な材料の購入に心がける。
- * 給食従事者の衛生管理と給食施設および器具の衛生に心がける。
- * 食中毒の防止に心がける。
- * うす味の味付けを基本とする。
- * 適時・適温に心がける。

食養科スタッフ

技師長	原田 優子				
主任	川越 真美				
主席調理技能士	天羽 勝義				
調理主任	小松 信宏				
嘱託事務員	幕沢 美紀	藤原 由香			
嘱託調理員	松井世津子・佐藤 殉子・高橋 麗・石川 勝美・百合川智賀子				
	高橋 広美・高橋加奈子・二坂由紀子・高橋 陽香・小貫由美子				
	渡辺 絹子・川崎紗央里				
パート職員	田中 澄子・小山 訪子・鈴木 千紘				計 21名

活動状況

- * 院内活動実績
平成25年11月15日 コメディカル研修発表会
「NST活動報告 ～8年間の軌跡～」 原田 優子
- * 出前健康講座実績
平成25年4月8日 持田会館にて 原田 優子
平成25年9月19日 荒町会館にて 原田 優子
平成25年12月11日 寺村会館にて 川越 真美
平成26年2月25日 大沢公民館にて 川越 真美
- * その他
平成26年3月1日 横手市報（にこにこレシピ）に掲載
「つぼみ菜のあっさりパスタ」 原田 優子

実習生の受け入れ状況

平成25年 8月22日～8月23日
 平成25年 9月 9日～9月13日
 平成25年10月21日～11月 1日

阿崎 善行（秋田県立平成高等学校）
 吉川 美輝（秋田栄養短期大学）
 澤田 彩加（聖霊女子短期大学）

平成25年度食数及び給食材料費

区分	食 数				1人1日当たり単価			
	常食	軟食	特別食	合計	常食	軟食	特別食	平均単価
4月	4,546	3,363	3,006	10,915	674	622	599	637
5月	4,884	3,599	2,860	11,343	694	692	676	689
6月	4,301	3,731	3,775	11,807	730	612	487	615
7月	4,904	3,131	3,443	11,478	714	770	602	696
8月	4,661	3,268	3,138	11,067	727	683	581	672
9月	4,644	2,637	2,579	9,860	761	768	711	750
10月	4,301	3,257	3,397	10,955	702	588	564	625
11月	4,365	2,953	3,119	10,437	657	678	625	653
12月	4,445	2,896	3,318	10,659	780	793	699	758
1月	4,046	3,141	3,334	10,521	793	624	585	677
2月	4,399	2,807	4,515	11,721	711	793	490	645
3月	5,215	2,910	3,829	11,954	725	695	645	692
合計	54,711	37,693	40,313	132,717	8,868	8,318	7,264	8,109
平均	4,559	3,141	3,359	11,060	722	693	605	676

平成25年度 栄養指導（外来、入院、集団）状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
外来	肥満症				1	1			1				
	糖尿病	3	3	1	1	3	3	3	5	3	3	5	
	脂質異常症					2		1				1	1
	慢性腎不全		2		1	1		3					
入院	手術後食		2	1					2			1	
	糖尿病	4	2	3	3	2	1	4	1	2	1		1
	高血圧			1			1						
	慢性腎不全		4		1	1			3	1			
	脳梗塞								1			1	
	肝硬変							1					
	その他										1	1	
集団	糖尿病			16	5	5	3	6	5	4	4	4	4
合計人数		7	13	22	12	15	8	18	18	10	9	13	6

< 文責 原田優子 >

健康管理センター

スタッフ

所 長	船岡 正人	(兼務)
所長補佐	佐藤 正弘	(兼務)
保健師副主任	鈴木久美子	(看護科兼務)
保健師	松浦 喜美	(看護科兼務)
保健師	伊藤真理子	(看護科兼務)
保健師	古関亜矢子	(看護科兼務・平成25年5月から)
看護師	高松志美子	(看護科兼務)
副主査	柴田 昌洋	
事務員	菊地 智子	
事務員	奥山沙耶香	
事務員	藤倉 美穂	(平成25年9月まで)
事務員	佐藤 久恵	(平成25年8月から26年2月まで)
事務員	樋渡まゆみ	(平成26年3月から)
事務補助	黒澤美恵子	(平成25年8月から11月まで)
事務補助	森田美希子	(平成25年8月から11月まで)

概 要

主な健診項目での対前年度比では、延べ受診者数で12,055名となり、昨年度と比較して211名、1.78%の増となりました。なお実質の受診者数は、8,285名です。請求額は161,388千円で2,756千円、1.68%減となりましたが、昨年度に引き続き161,000千円を突破しました。この実績は、院内関係部署各位のご理解ご協力により達成されたものであり、心より感謝申し上げます。

健診受診者への対応と二次検診予約窓口への対応や受診者への継続フォローといった本来の業務の他、外来部門での健康診断や予防接種の担当や、院内職員健康管理として衛生委員会の指示のもと感染データ管理や各種予防接種対応などといった部署外の業務も当センターが引き続き担っております。加えて国立がん研究センターから当院に「次世代多目的コホート研究」への協力要請があり、当センターが窓口となって今年度から研究協力を行う事となりました。これらから、当センターの業務の範囲や量は年々拡大・増加し続けております。

引き続き当院の基本理念「地域の人々に信頼される病院を目指します。」に基づく「地域医療・保健に貢献します。」の基本方針実現に努めるとともに、二次検診を通して保険診療部門へ貢献する事で、健全な病院経営に資するよう頑張っております。

平成25年度目標

1. 二次検診受診率の向上
2. 医療事故ゼロを目指す
3. 日本人間ドック学会「人間ドック機能評価Ver2.0」の申請準備

主な項目の過去5年間の受診者数と請求額

健診種別	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
社保一般健診・付加	2,465	2,671	2,980	3,125	3,156
日帰り人間ドック	939	1,018	1,000	1,109	1,076
宿泊人間ドック	185	182	259	275	267
脳ドック	128	158	161	181	192
市役所関係職員健診	1,900	1,933	1,946	1,919	1,841
事業所健診	759	675	803	930	949
子宮がん検診	1,889	2,080	2,009	2,029	2,169
乳がん検診	1,634	1,669	1,730	1,749	1,909
B型肝炎検査	462	473	491	527	496
合計(件数)	10,361	10,859	11,379	11,844	12,055
増減率(%)	1.65	4.81	4.79	3.77	1.78
請求額(千円)	135,925	146,627	153,480	164,144	161,388
増減率(%)	3.77	7.87	4.67	6.95	1.68

参考資料

受診種別	受診者(名)	請求額(円)
特定健康診査	112	770,557
特定健康指導	6	41,160
内蔵脂肪CT	53	159,000
肺CT	22	264,000
腫瘍マーカー	658	1,924,110
ピロリ抗体	111	111,000
乳腺エコー	24	48,000
HPV検査	85	255,000
インフルエンザ予防接種	37	111,000

平成25年度(2013年度)健康管理センター報告書

健診種別	受診者数(名)	請求金額(円)	検査料金(円)	消費税(円)
協会けんぽ一般健診	3,027	50,019,994	47,638,090	2,381,904
付加健診	129	2,783,347	2,650,807	132,540
子宮ガン検診	167	576,450	549,000	27,450
子宮ガン(オプショナル)	596	1,822,985	1,736,177	86,808
乳ガン(オプショナル)	534	2,267,336	2,159,368	107,968
肝炎ウィルス検査	241	476,954	454,242	22,712
日帰り人間ドック	1,076	34,646,966	32,997,112	1,649,854
宿泊人間ドック	267	16,549,664	15,761,585	788,079
脳ドック	192	6,223,411	5,927,059	296,352
市役所関係職員健診	1,841	16,313,105	15,536,291	776,814
事業所健診	949	14,725,395	14,024,186	701,209
婦人科検診	1,406	5,237,450	4,988,048	249,402
乳ガン視触診・マングラフィ	1,375	5,719,824	5,447,452	272,372
B型肝炎検査・接種	496	341,745	325,472	16,273
CT・腫瘍マーカーほかオプション	990	2,872,110	2,735,348	136,762
特定健康診査・特定保健指導	118	811,717	773,064	38,653
合計	13,404	161,388,453	153,703,301	7,685,152

< 文責 佐藤 超 >

事務局

平成25年度は、4月から眼科の手術が始まり、10月からは外科の診察の中で呼吸器外科の外来が始まりました。また、長い間休診のままになっていた耳鼻咽喉科を4月1日に標榜から外し、医師の確保ができたときに改めて標榜に加えることにしました。

収支状況は、手術の増加などによって入院単価が上がり医業収益は増えましたが、非常勤医師の報酬や材料費、経費などの費用がそれ以上に増えたため、増収減益となり2年連続の厳しい決算となりました。

東日本大震災の復興に対する措置として行われた国家公務員の給与削減に関連して実施された横手市職員の給与削減に伴い、病院事業職員についても医師も含めて平成25年7月から翌年3月までの給与の削減を行いました。9月には職員が生き生きと働ける職場づくりのために「働きやすい職場づくりアンケート」を実施したほか、年度末にかけて地方公営企業会計制度改正への対応や財務会計システムの更新、平成26年度診療報酬改定への対応など多くの課題に対処した年でした。

患者サービスの面では、10月から横手市で運行する市内循環バスが病院の構内に入るようになり、通院する患者さんの利便性が向上しました。また、2年ぶりとなる病院祭も開催し、地域の皆様に病院を広く紹介することができました。

今後も引き続き、地域の人々の信頼に応え、経営の健全化に努めてまいります。

<文責 佐藤正弘>

総務課

企画係

スタッフ	係長	高橋 功（兼総務課長、企画経営課主幹）
	主査	黒澤 雄悦（兼経営企画課企画経営係長）
	業務員	高橋早希子（5/1～8/31）
	嘱託事務員	阿部千鶴子（兼医療安全対策室）
	同	田村 公規（11/1～）

業務内容

- ・ 病院事業の基本計画の策定及び推進に関すること。
- ・ 病院の事務事業の改善及び目標管理に関すること。
- ・ 病院機能評価の取得・継続に関すること。
- ・ 病院事業の経営改善の調査に関すること。
- ・ 病院広告及び広報に関すること。
- ・ 病院ホームページに関すること。
- ・ 皆様の声（投書箱）の回収、回答等の処理。
- ・ 外来・入院患者さんアンケート調査、集計等処理。

- ・ 職員提案制度に関すること。
- ・ 臨床研修医制度に関すること。
- ・ 市立横手病院学術振興基金に関すること。
- ・ 医療安全対策及び院内感染対策における庶務に関すること。
- ・ 秋田県医療学術交流会事務局に関すること。

企画係は、組織上、横手市病院事業（病院部）の企画経営課を兼務しつつ、秋田県医療学術交流会事務局も担当しており、大森病院との調整等のため、院内対応への遅れがあり、いろいろと院内外へご迷惑をおかけした点があるのではないかと反省しております。

そのようななかではありましたが、「25年度病院目標」の策定を受けて、これに基づく院内各部署・部門別目標の策定及び総括、平成26年度から適用される「新公営企業法会計基準」に対応した財務会計システム導入のための院内調整、病院機能評価の更新や経営改善に向けた調査、検討を継続的に行いました。

業務内容の項目のうち、事務事業の改善については、診療医業に関わる部分は「業務改善委員会」が担当しており、企画係では、事務部門における経費節減について重点をおき、病院事業として大森病院との物品の共同購入等の向けた調査等も行いました。また、ポスター印刷機を購入したことに伴い、その利用及び使用料に関する要綱に基づく運用を行いました。

病院機能評価については、平成27年5月までの認証を受けており、その更新受審を行うことが病院の方針として決定され、平成26年度中での評価受審を受けることとなりました。

このため、院内手続き等を進め、2月18日には「病院機能評価準備委員会」を立ち上げて第1回委員会を開催し、その準備に入ったところです。

広報活動でも病院広報誌を4回（33～36号）発行し、市内全戸配布を行うとともに病院ホームページを随時更新し、最新の内容となるように努めてまいりました。

また、患者さん及びそのご家族様等からの「皆様の声」は65件いただいており、直ちに関係部署へ投書内容を知らせるとともに改善すべき点や謝罪すべき点等の対応を取り、その内容を院内掲示や投書いただいた方へ回答いたしております。

外来・入院患者さんアンケート調査については「患者サービス向上委員会」、臨床研修医制度に関しては「臨床研修管理委員会」、市立横手病院学術振興基金については「学術研究実績」の項に記載されておりますが、その事務について担当いたしました。また、学会発表については、その参加者だけでなく、広く院内の職員へも知っていただくように、B棟4階に掲示板を設置されており、25年度においては6件のポスター掲示が行われました。

職員提案制度の運用では、25年度において2件の提案があり、いずれも採用され、今後、組織活性化、業務改善に生かされることとされました。

医療安全対策においては事務1名が兼務し、庶務を担うとともに院内感染対策でも係として対外的な折衝事務等を行い、その活動や研修会等の支援を行いました。

秋田県医療学術交流会事務局としては、平成25年11月24日（日）秋田市 秋田県総合保健センターにおいて「第21回秋田県医療学術交流会学術大会・総会」を開催し、一般演題9題、会員交流演題3題の発表と特別講演として「もやしもんが語るカビの世界」と題して、農学博士 今野宏 氏の講演を行いました。

当院からは一般演題で「経鼻内視鏡検査における前処置所要時間と苦痛度の関連性」と題して、消化器センター 小田島千津子さんが発表を行いました。

<文責 高橋 功>

総務係

スタッフ 藤木正文、亀谷良文、三浦幸恵、後藤美佐子、佐藤ひろみ、長澤克彦、
三浦和也、高橋成美、藤田千紘、高橋道夫

業務内容

- ・ 人事・給与支払等管理業務
- ・ 旅費・経費等各種支払業務、会計処理、予算・決算処理、起債管理業務
- ・ 文書收受・発送・保管業務
- ・ 電話交換業務
- ・ 公用車・患者搬送車の運転、維持管理業務
- ・ 選挙事務（院内入院患者の不在者投票）
- ・ 互助会会計事務

医局秘書担当

スタッフ 谷口明美

業務内容

- ・ 医局関連庶務業務全般
- ・ 医師スケジュールの管理業務【学会・出張関係各手配、年休管理など】
- ・ 医局図書室、医師当直室、産泊室の管理業務
- ・ 医局費、旅行積立金収支報告処理業務
- ・ 医師給与に関する書類の作成業務
- ・ 医局行事のセッティング業務

事務当直

スタッフ 佐々木悟、照井利明、松井強士、井上雅幸

業務内容

- ・ 夜間の救急患者の受付、電話取次ぎ、早朝の診察券受付等業務

夜間警備

スタッフ 照井祐一、堀江 努、佐藤 賢、今氏尊保、金 征徳

業務内容

- ・ 夜間の来院者等の確認、院内巡回による戸締り・火気確認等業務

< 文責 亀谷良文 >

管財係

スタッフ

係長(薬品担当) 阿部光子

施設担当 伊藤建一、高橋正男、渡辺ひとみ

物品担当 菅原祐司、照井真澄、伊藤有希子

ボイラー室 柿崎更生、杉田健一、堀江敦司、山中慎太郎、千葉禎彦、佐藤幸夫

駐車場 珍田 健、黒沢秀利、谷口英明、向井直樹、久米友樹、中川 巖

薬品担当

業務内容

- ・ 管財係統括
- ・ 医療機器の購入に関すること
- ・ 医薬品・試薬・血液購入の経理、価格交渉、在庫管理
- ・ 酸素使用状況調査
- ・ 職員被服の見積・発注
- ・ 未払金入力処理、貯蔵品入力処理
- ・ 委託契約、賃借契約に関すること
- ・ 医薬品・診療材料関係使用状況調査
- ・ 棚卸資産調査、統計に関すること
- ・ 院内掲示に関すること
- ・ 行政財産使用許可業務
- ・ その他管財係に関する業務

施設担当

業務内容

- ・ 施設の営繕、保全に関すること
- ・ 建物、設備の保全に関すること
- ・ 防災に関すること酸素使用状況調査
- ・ 廃棄物に関すること
- ・ 医師住宅の施設管理に関すること
- ・ 危険物の管理保全に関すること
- ・ 駐車場に関すること
- ・ 用地の取得、処分に関すること
- ・ 工事請負契約、委託契約、賃借契約に関すること
- ・ 警備に関すること
- ・ 除排雪に関すること
- ・ 医療用ガスの保全に関すること
- ・ 院内の環境整備に関すること
- ・ エネルギー管理に関すること
- ・ 未払金入力処理
- ・ 開設許可事項変更届出事務に関すること
- ・ 消防・危険物等届出事務に関すること
- ・ 行政財産使用許可業務
- ・ その他施設に関する業務

物品担当

業務内容

- ・ 医療材料・消耗品の価格交渉、発注、払出業務
- ・ 石油製品の価格交渉、契約
- ・ 市有物件災害共済会事務
- ・ 未払金入力処理

- ・ 特定治療材料の調査に関すること
- ・ 医療材料等の使用状況調査・在庫管理に関すること
- ・ 委託契約、賃借契約に関すること
- ・ 備品購入、備品修理に関すること
- ・ 備品台帳の管理
- ・ その他用度に関する業務

ボイラー室

業務内容

- ・ ボイラー室の保守管理
- ・ 空調機械保守管理
- ・ 冷暖用ファンコイル保守管理
- ・ 蛍光灯交換及び管理
- ・ 冷房・暖房運転
- ・ 自家発電機の管理
- ・ 重油取り扱い及び管理
- ・ 医療ガス情報監視、点検及び酸素ポンベ交換
- ・ その他施設に関する業務

宿直時のトラブル及びナースステーションからの要請件数

警報関係	23件
施設関係	37件
蛍光灯関係	56件
ナース関係	59件

委託契約業務

件数	39件
----	-----

賃借契約業務

件数	32件
----	-----

医薬品見積状況

試薬	H25. 4 . 1	529品目
薬品	H26. 2 . 1	1,618品目

医療機器契約業務

契約件数	X線骨密度測定装置	他60件
契約総額	¥ 157,302,889. -	

薬品購入実績

(単位：円)

	24年度	25年度
内服	139,949,627	150,738,597
注射	426,216,578	433,192,747
外用	25,549,059	28,381,018
血液	20,643,739	23,636,564
試薬	66,850,940	67,972,231
合計	679,209,943	703,921,157

(消費税含まない)

医療消耗品（特材、一般）購入金額

（単位：円）

	H24			H25		
	医療消耗	特材	一般	医療消耗	特材	一般
4月	30,361,739	14,973,357	15,388,382	27,593,631	11,304,717	16,288,914
5月	22,313,707	8,807,261	13,506,446	30,878,201	12,678,224	18,199,977
6月	29,079,227	14,971,431	14,107,796	31,944,701	14,131,280	17,813,421
7月	29,555,638	14,501,154	15,054,484	38,209,551	19,353,958	18,855,593
8月	31,204,269	15,322,463	15,881,806	39,178,207	17,552,472	21,625,735
9月	27,981,524	10,355,973	17,625,551	31,095,881	11,919,434	19,176,447
上期	170,496,104	78,931,639	91,564,465	198,900,172	86,940,085	111,960,087
10月	30,575,244	12,019,939	18,555,305	35,817,515	15,148,108	20,669,407
11月	30,659,755	12,595,979	18,063,776	41,033,042	19,938,608	21,094,434
12月	33,110,157	13,557,451	19,552,706	36,304,002	14,196,692	22,107,310
1月	24,249,114	8,595,551	15,653,563	32,879,300	17,221,292	15,658,008
2月	22,646,890	9,471,394	13,175,496	30,429,574	13,362,464	17,067,110
3月	21,765,015	7,747,243	14,017,772	32,532,469	15,341,142	17,191,327
下期	163,006,175	63,987,557	99,018,618	208,995,902	95,208,306	113,787,596
合計	333,502,279	142,919,196	190,583,083	407,896,074	182,148,391	225,747,683

平成25年度 医療機器購入一覧

番号	品名	科課名
1	高輝度光源装置	消化器センター
2	内視鏡用炭酸ガス送気装置	消化器センター
3	内視鏡洗浄消毒装置	消化器センター
4	X線骨密度測定装置	放射線科撮影室
5	ナノマックス（ポータブルエコー）	1階内科外来
6	卓上型内視鏡洗浄消毒装置	泌尿器科外来
7	泌尿器科検診台	泌尿器科外来
8	セーフラベルシステム	手術室
9	写真撮影装置 MPS-7・FD	標本室
10	搬送用保育器 V-707	新生児室
11	保育器 インキュ i	新生児室
12	CADD Solis PCAポンプ	分娩室（LDR）
13	簡易陰圧装置	院内病室出入口
14	作業療法特別セット（ペグボードセット）	リハビリテーション科作業療法室
15	昇降式リハビリテーブル	リハビリテーション科作業療法室
16	嚥下造影対応チェア コンバー-VFX	リハビリテーション科作業療法室
17	内視鏡手術システム	手術室
18	ベッドサイドモニタ・送信機	病棟及び外来など
19	深部静脈血栓予防装置	手術室及び病棟
20	電解質分析装置	透析室

21	CRコンソール	第1撮影操作室
22	薬袋発行プリンター	薬剤科 調剤室内
23	グルコース/ヘモグロビン分析装置	臨床検査科
24	自動血球洗浄遠心機	検体検査室
25	自己血採血機	自己血採血室
26	院内病理診断Web結果閲覧システム	院内各端末病理検査室
27	生物学的モニタリングシステム	中央材料室
28	薬品キャビネット	4 C スタッフステーション
29	薬用保冷庫	4 C スタッフステーション
30	材料キャビネット	4 C スタッフステーション
31	薬用保冷庫	小児科外来
32	ベッド・ベッドサイドレール	3 C 病棟
33	マスク専用手動式自動販売機・ボックス台	2 A・3 A・3 B・3 C 病棟内 4 C 病棟内
34-	画像システムハードウェア更新	サーバー室
34-	ポップネットサーバーバージョンアップ	サーバー室
34-	マンモビューワシステム	外科外来・サーバー室
34-	画像取り込み装置	サーバー室
35	電子カルテ端末更新	各部署
36	咽喉頭式直達鏡・ホルダー・鉗子類	手術室
37	システム顕微鏡&デジタルカメラシステム	検査室
38	病院事業会計システム	総務課医事課
40	薬用保冷庫	内科外来
41	自動血圧計	内科外来
42	野菜切機	食養科
43	電子スパイロメーター	臨床検査科
44	紫外線照射機能付クリオスタット	臨床検査科
45	ヒストテック ピノ	臨床検査科
46	油圧上下式診察台キャスター付	外科外来
47	フリップアップフレームルーペ	手術室
48	ヘーベル付ブリッジ	泌尿器科外来
49	血液浄化装置	ME室
50	モジュラーモデルハンドピース	手術室
51	X線TV装置液晶モニター	透視室B
52	超音波装置バージョンアップ	超音波室
53	マイクロブレンダO2	手術室
54	送信機	ME室
55	ガスフライヤー	食養科
56	自動血圧計	内科外来
57	ノンコンタクトトノメーター	健康管理センター
58	自動身長計付き体組成計	健康管理センター

< 文責 阿部光子 >

医事課

概要

平成25年度患者数は、入院延患者数64,834人で昨年より431人減、外来延患者数161,189人とで昨年より1,386人減となった。

入院では呼吸器内科常勤医師の不在による患者数減と小児科の減少が大きく影響している。

外来では同じく呼吸器内科、小児科、さらに外科が減少した。

入院収益は昨年度と比較して3.0%増、外来は0.7%増で、入院単価が44,853円で昨年度と比較して1,202円増、外来単価が9,289円で昨年と比較して84円の増となり、患者数は減少したが単価増により収益増につながった。

DPC対象患者在院日数を12日とする医事課目標については、昨年度より短縮したが13.3日にとどまった。各部署との連携を図り、目標に向けて再度取り組む予定である。

また、査定減の取組について、外来目標0.14%に対して実績が0.191%であったため、今後も査定減に対する措置を続ける必要がある。さらに、来年度も費用抑制につながる原価計算について、分析のノウハウ等についての研修や各部署との連携を図り、実施していく予定である。

医事課組織

- ・ 医事係 入院事務担当 外来事務担当
- ・ 会計係
- ・ 医療相談室

平成25年4月1日現在のスタッフ

浮嶋 優子	柿崎 正行	石山 博幸	照井 圭子	百合川深里
石塚 紫	伊藤 雅子	伊藤 雅子	佐々木有希子	瀬田川春香
佐々木和貴子	照井希世子	藤田ゆかり	伊藤喜美子	青池 満雄
高橋真知子	高橋由紀子	村田 芳江	小椋美紀子	勝長 薫
後藤恵理子	藤原 明子			

医事課業務内容

窓口業務	受付窓口・会計窓口
医療費請求業務	入院・外来・公費負担請求
医療相談業務	医療相談窓口

< 文責 浮嶋優子 >

医療安全管理室

概要

医療安全管理室は、医療事故防止活動を通して「医療の質を保証すること・質の向上を目指すこと」を目的とし組織横断的に安全管理体制を構築する事を目的としている。

平成20年4月より、医療安全管理室に専従の医療安全管理担当者を配置しており、25年度から医療安全管理者が交替した。

医療安全管理者は、病院全体の医療安全に関する業務に従事し、医療安全に関する企画・立案および評価、委員会の円滑な運営の支援、また、職員への医療安全に関する教育研修、情報収集と分析、再発防止策や、発生予防等に務める。

構成員

医療安全管理室は、医療安全管理室長のもとに次にあげる者をもって構成する。

- | | |
|--------------------------|-------|
| 1) 医療安全管理室長 | 吉岡 浩 |
| 2) 医療安全管理室副室長(専従医療安全管理者) | 高本 和子 |
| 3) 医薬品安全管理者(兼任) | 石田 良樹 |
| 4) 医療機器安全管理者(兼任) | 川越 弦 |
| 5) 医療安全管理室事務(兼任) | 阿部千鶴子 |

業務

- 1、院内報告制度の整備ひやりハット報告書の検討集計・分析
- 2、医療安全の委員会に関する活動
医療安全管理委員会・リスクマネージャー委員会・感染対策委員会・救急運営委員会・輸血療法委員会・化学療法委員会etc.
- 3、医療安全の為の部署間の調整・対策等の提案 ひやりハット通信の作成・回覧
- 4、医療安全の為の指針やマニュアルの作成
 - 1) 医療安全に関する指針・規程の見直し
 - 2) 医療安全マニュアルの作成
- 5、医療安全に関する研修・教育
- 6、医療安全に関する院外からの情報収集と対策 医療安全情報の掲載
- 7、医療安全に関する院内評価業務
投薬確認の監査薬品保管に関する監査
救急カートの整備状況監査

平成25年度医療安全研修会

日付	内容	担当/講師	対象
4月2日	新採用者研修 医療安全対策(総論・各論)	医療安全管理室	新規採用職員
4月8日	基礎看護技術の研修 採血・注射・神経損傷	医療安全管理室 看護科	新人看護師 臨床研修医
5月16日	救急蘇生：AED使用手順 講義 と実技	救急運営委員会 医療機器安全管理	新規採用職員
5月20日 5月24日	輸血手技の基本	看護科教育委員会 医療安全管理室	新人看護師

5月22日	薬剤情報の見方	医薬品安全管理	看護師・薬剤師 新人看護師・臨床研修 医は必須
5月29日	除細動器について	医療機器安全管理	新人看護師・1年目臨 床研修医・これまで受 講していない看護師
6月11日	医療裁判の実際 医療事故等	(株)損保ジャパン	医療安全管理対策委員 会委員 診療科・各部署リスク マネジャー
6月21日	造影CT検査に関わるスタッフが 知っておきたい事 造影剤のリスクマネージメント について	外来看護師 第一三共(株)	臨床研修医・看護科
7月19日	人工呼吸器準備編「人工呼吸器 安全使用のための研修会」	医療機器安全管理	臨床研修医・新人看護 師・興味のある方
7月26日	これまでの輸血に関するインシ デント事例	輸血療法委員会委 員長	臨床研修医・看護師・ 臨床検査技師
8月23日	医療安全の施策の動向と院内安 全対策について	東京医療保健大学 大学院 准教授 望月聡一郎先生	全職員対象
9月4日 9月9日	医療安全研修会フォロー DVD研修会	医療安全管理室	8月23日に参加できな かった職員
10月16日	KYTの概要・リスクを予測する 洞察力を養う	医療安全管理室	新人看護師・2年目、 3年目看護師
11月6日	転倒転落対策セミナー 転倒・転落事故ゼロのお手伝い	(株)テクノスジャパ ン	病棟看護師・看護補助 者
12月18日	当院の化学療法について	医薬品安全管理	病棟看護師
1月24日	医療安全シンポジウム 各職場における医療安全への取 り組みについて	パネリスト 2A病棟・4C病 棟・診療放射線科・ 人工透析室・ 健康管理センター	全職員
2月4日 2月6日	MRIの安全管理 放射線被ばくの基礎知識	診療放射線科	医師・臨床研修医・ 看護師
2月14日 2月18日	医療安全シンポジウムフォロー DVD研修	医療安全管理室	1月24日に参加できな かった職員
3月18日	自己血輸血について	中通総合病院 看 護師長 輸血療法 認定看護師 上村克子先生	2A病棟・4C病棟・ 産婦人科外来・整形外 科外来

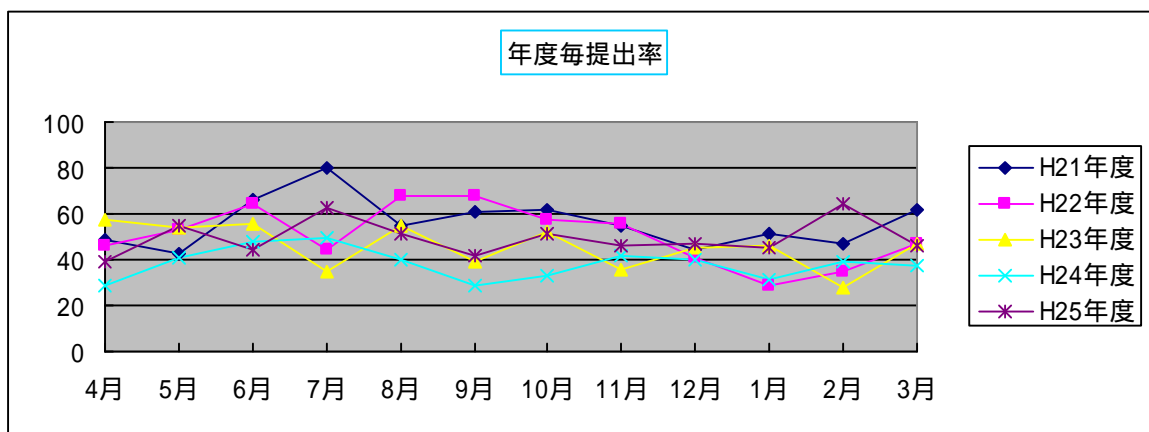
【主な内容】

- 1) 診療報酬上、医療安全管理体制の指針に沿った委員会の設置が必要なため、現行の「医療安全管理委員会」と「リスクマネジャー委員会」を「医療安全管理対策委員会」に変更し、役割機能を統合した。構成メンバーも医師・薬剤師・看護師・ME・事務部門等、すべての医療安全管理責任者(各部署長)へ改正し、より医療安全管理体制を実務的に強化した。
- 2) 「医療安全に係る安全管理の為に指針」の改定を行った。
- 3) 患者サポート体制により、各部門の担当者と共に週一回カンファレンスを開催し、患者相談の対応・報告が実施された。
- 4) 安全対策として「放射線科：タブレット端末の導入」及び「定期処方朝から内服開始」「時間毎、尿量チェック指示」についてシスム改善を行った。
- 5) 毎週医療安全カンファレンスを開催し、多くのインシデント報告の対策検討を行った。そして関係部署と連携し再発防止とマニュアル改定を行い、院内全体が医療安全へ取り組むことができた。

平成25年度ヒヤリハット集計

年度毎提出件数 月別

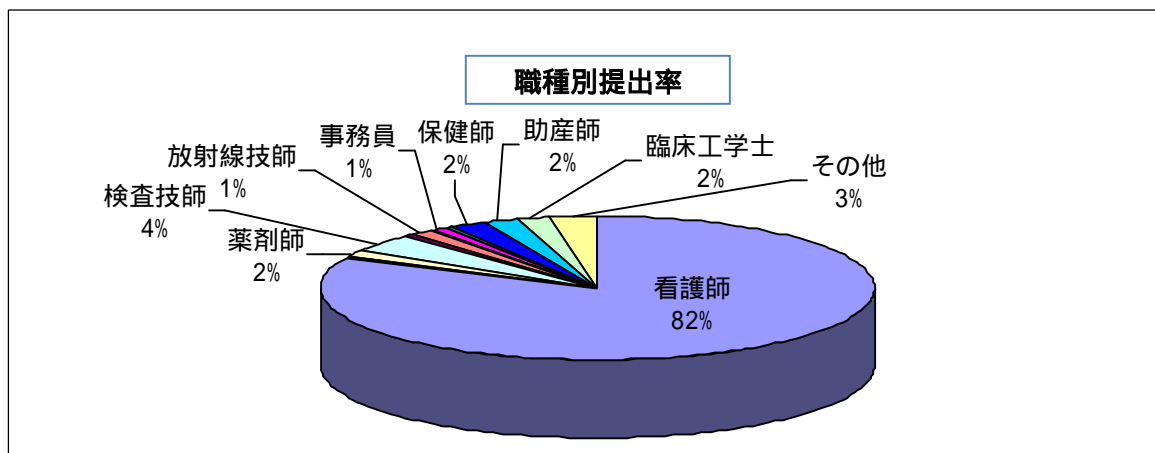
年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H21年度	49	43	66	80	55	61	62	55	44	51	47	62	675
H22年度	46	53	64	44	68	68	57	56	41	29	35	47	608
H23年度	57	54	56	35	55	39	52	36	45	46	28	47	550
H24年度	29	41	48	50	40	29	33	42	40	31	39	37	459
H25年度	39	55	44	63	51	42	51	46	47	45	64	46	593



職種別提出件数 月別

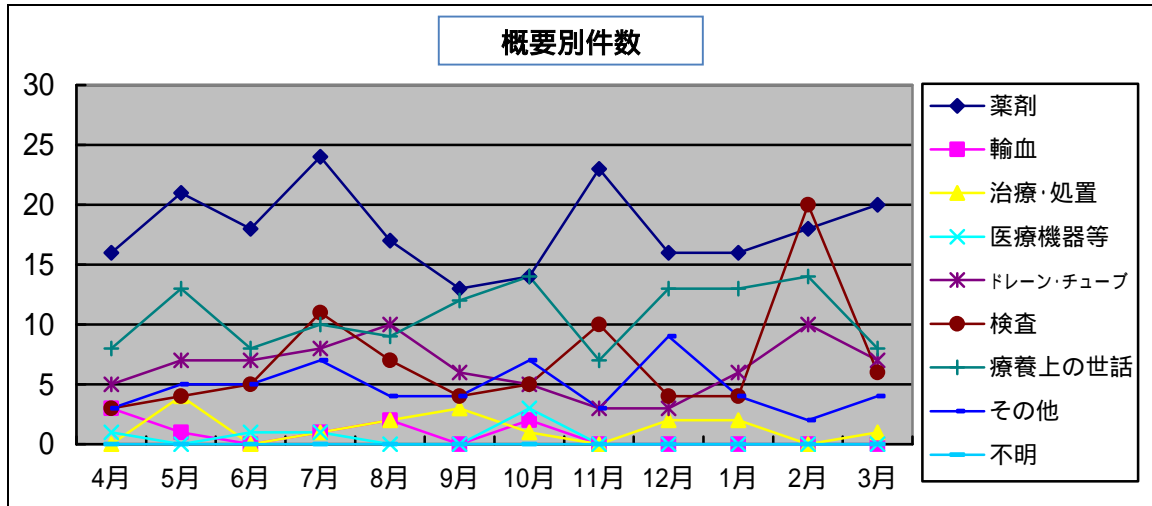
職種	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
医師	0	1	1	0	2	1	1	0	1	0	1	1	9
看護師	28	47	38	53	40	38	37	34	37	39	45	39	475
准看護師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
薬剤師	2	2	1	2	0	0	1	4	1	2	1	1	17
検査技師	2	0	0	3	1	0	1	3	1	1	6	1	19
助手	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
放射線技師	0	0	0	2	2	0	1	0	0	0	0	0	5

理学療法士	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	3
作業療法士	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
言語療法士	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
事務員	0	0	1	0	0	0	1	1	4	1	0	1	9
運転手	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ボイラー技師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
管理栄養士	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
栄養士	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
調理師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
保健師	1	2	1	1	1	0	1	0	0	0	1	0	8
助産師	0	1	0	2	3	0	1	1	1	1	2	1	13
M S W	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
臨床工学士	1	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	4
その他	4	2	1	0	1	3	5	3	2	1	4	1	27
合計	39	55	44	63	51	42	51	46	47	45	64	46	593



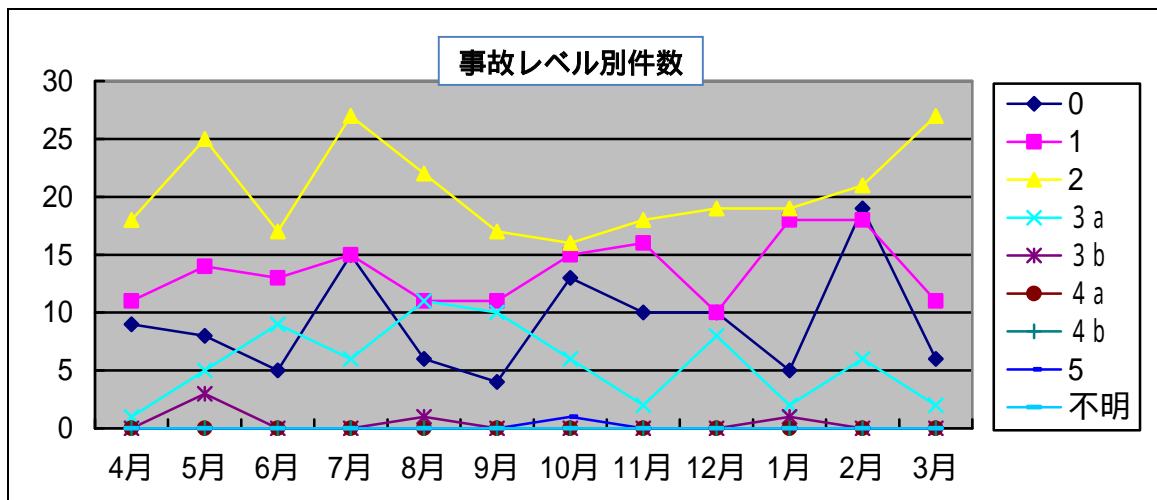
ヒヤリハット概要 月別

概要	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
薬剤	16	21	18	24	17	13	14	23	16	16	18	20	216
輸血	3	1	0	1	2	0	2	0	0	0	0	0	9
治療・処置	0	4	0	1	2	3	1	0	2	2	0	1	16
医療機器等	1	0	1	1	0	0	3	0	0	0	0	0	6
ドレーン・チューブ	5	7	7	8	10	6	5	3	3	6	10	7	77
検査	3	4	5	11	7	4	5	10	4	4	20	6	83
療養上の世話	8	13	8	10	9	12	14	7	13	13	14	8	129
その他	3	5	5	7	4	4	7	3	9	4	2	4	57
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	39	55	44	63	51	42	51	46	47	45	64	46	593



平成25年度レベル分類 月別

事故レベル	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0	9	8	5	15	6	4	13	10	10	5	19	6	110
1	11	14	13	15	11	11	15	16	10	18	18	11	163
2	18	25	17	27	22	17	16	18	19	19	21	27	246
3 a	1	5	9	6	11	10	6	2	8	2	6	2	68
3 b	0	3	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	5
4 a	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 b	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	39	55	44	63	51	42	51	46	47	45	64	46	593



< 文責 高本和子 >

医療情報管理室

平成25年度は適切な診療情報の管理とその分析および電子カルテ運用の適正な管理を行うこと、また契約方法および契約先の見直しを行いシステムの更新等に伴う導入コストの削減を行うことを目的とした。

< 電子カルテ >

電子カルテシステム関連として、日々のシステム更新に加え、

放射線画像システムのサーバーおよびマンモグラフィシステムの更新

病理診断結果参照システムの簡素化と更新

診療放射線部門及び医療安全部門からの要望によりタブレット端末の試験導入

平成23年度より5ヶ年計画で実施することとした、次期電子カルテシステムへのリプレ

イスを踏まえたWindows 7 端末の導入について、その3年目として70台の端末設定を実施

紹介患者が持ち込む他の医療機関からCDやDVDに記録された放射線画像について院内

の放射線画像システムへの取り込みシステムの導入の仮運用

手術室でのセーフラベルシステムと電子カルテシステムの接続

を実施した。

また、例年に引き続き、電子カルテソフトベンダーからのSEの定期訪問事業を実施し、各部署の要望等を取り入れたシステム更新を実施した。

< 平成25年度のスタッフ >

藤盛 修成 佐藤セツ子 照井 洋子 高橋 共子

浮嶋 優子 柿崎 正行 照井 圭子 木村 宏樹 佐藤 恵

伊藤 誉幸 千葉 崇仁 高橋 清

< 医療情報管理室の業務内容 >

- ・ 電子カルテシステムを主とした院内医療情報システムの更新及び保守
- ・ 院内情報システム機器の更新・修理・新規設置等の作業
- ・ 新規システム導入に関する企画・立案及び各部署への助言
- ・ 病診連携システム導入に関する調整
- ・ 院内職員に対するシステム関連のヘルプデスク作業
- ・ 診療情報に関する統計的資料の作成及び分析

< 文責 千葉崇仁 >

地域医療連携室

～ 地域医療連携業務 ～

平成24年度より、従来の業務に患者相談窓口や退院調整に関する業務も加え、新たな地域医療連携室となった。患者さんに退院後も適切な医療を提供できるよう院内各部門との連携を図りながら、関係医療機関と連絡調整するための窓口としての業務が拡大された。

地域医療連携業務としては、今年度は、診察2507件、検査822件、合計3329件のご紹介をいただいた。昨年度と比較し、診察の紹介件数は82件の増加、検査の紹介件数が89件の増加となり、紹介件数全体としては171件の増加となった。心臓超音波、ホルター心電図、頸動脈エコー等循環器系の検査が、検査のみで予約が可能となったことから、検査の紹介件数が増加となった。今後も予約方法の改善を行うなどして、紹介件数の増加につなげたい。

また、11月5日には地域医療連携セミナーを開催し、18施設の先生方のご参加をいただいた。外科伊勢憲人医師より「横手病院における胃癌、大腸癌に対する外科治療」、藤原理吉放射線科技師長より「福島第1原発事故時の放射線調査活動の紹介」、臨床検査科佐々木絹子さんより「細菌検査室からのICT活動」と題してセミナーが開催された。平成17年に始まったこの地域医療連携セミナーも9回目を迎え、年1回の貴重な情報交換の場として有意義なものとなっている。より多くの先生方にご参加いただけるようセミナーの内容を充実させ、地域医療連携を円滑に進める上でも今後も続けていきたい。

スタッフ

室長	藤盛 修成
医事課長	浮嶋 優子
医事課	高橋 美幸

業務内容

- ・ 医療機関からの紹介患者の受け入れ
- ・ 医療機関からの検査予約の受け入れ（電話・FAX）
- ・ 紹介患者の経過報告
- ・ 医師異動や外来担当変更時、変更内容について医療機関へ連絡
- ・ 紹介元医療機関と病院側との諸連絡の取次ぎ
- ・ 紹介患者実績や検査利用状況などの統計資料を月1回作成
- ・ 地域医療連携だより「かじか」発行
- ・ 医療機関訪問・・・7月下旬と12月下旬の年2回、50医療機関訪問
（丹羽院長、吉岡副院長、藤盛副院長、船岡副院長、江畑副院長）
- ・ 地域医療連携セミナー・・・11月5日（会場：横手セントラルホテル）
セミナー・・・院外18人、院内50人 計68人参加
懇親会・・・院外13人、院内38人 計51人参加

平成25年度 紹介内訳

(単位：件)

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
診 察	228	194	188	232	213	207	247	190	229	202	187	190	2,507
C T	18	26	24	30	27	24	31	29	19	17	18	25	288
M R I	34	31	33	44	48	36	36	28	29	34	20	28	401
M C V	1	0	0	1	2	5	3	4	4	1	2	0	23
骨塩定量	0	0	0	0	0	1	2	2	1	3	0	1	10
E E G	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
頸動脈エコー	12	4	1	3	2	3	4	0	0	0	0	0	29
ホルター心電図	12	4	1	3	2	5	4	0	0	0	0	1	32
U C G	12	4	2	3	2	5	4	0	2	0	1	2	37
計	318	263	249	316	296	286	332	253	284	257	228	247	3,329

<文責 高橋美幸>

医師事務支援室

概要

前年度の事業に加え新しい業務として、紹介患者診療情報について代行入力、施設入所者の診療録への代行入力、外来診療時における医師オーダーの代行入力として、新たに消化器内科・外科を加えた。また、退院サマリーの作成については、ポリペク・鼠径ヘルニア・白内障手術に加え泌尿器科の退院患者も対象とし業務を拡大した。

この他、前年度から引き続き行っている業務は継続し、各業務の実績の件数は増加している。来年度は更に医師の事務負担の軽減を目標に、業務の見直しと改善を行う予定である。

構成

室長	藤盛 修成			
室長補佐	浮嶋 優子			
医師事務作業補助者	伊藤 尚子	小川由美子	佐藤 裕香	今野 奏
	小松田はつみ	島田万里子	佐藤ゆかり	柿崎志穂子
	加藤 広美	長谷川澄子	三浦由紀子	菅原真由美
	高橋 美幸			

業務内容

○診断書等の文書作成補助

- ・診断書、入院証明書等の記載代行。紹介患者診療情報代行入力。書類に関する問い合わせ、内容の紹介。

○診療記録への代行入力

- ・電子カルテやオーダーリング等の代行入力。
外来診察時補助・各種オーダー入力・退院サマリー作成

○医療の質の向上に資する事務作業

- ・外来患者への検査説明
- ・外来患者への問診と入力
- ・病院月報の作成
- ・予定入院患者の入院準備、入院説明

○行政上の対応

- ・NCD代行入力
- ・救急医療情報入力
- ・JAS 麻酔台帳作成

< 文責 浮嶋優子 >

委員会活動

医療安全管理対策委員会

概要

院内における医療の安全管理体制の確立を図り、適切かつ安全な医療の提供に資することを目的としている。昨年までの「リスクマネージャー委員会」は、「医療安全管理委員会」と統合し委員会名を改めた。構成メンバーを医師・薬剤師・看護師・ME・事務部門等、各部署の医療安全管理責任者（各部署長）へ改正し、院内の医療事故防止を図るための実質的な委員会とした。ひやりはっと報告書の評価・分析を行い、具体的対策の検討・決定後各部署内に於ける安全対策の周知徹底を行う。

委員会の構成員

委員長	吉岡 浩			
副委員長	高本 和子			
委員	寺田 宏達	奥山 厚	渡邊 健太	伊藤 周一
	高橋 晋	宮嶋 和宏	佐藤セツ子	佐々木佳子
	木下 文子	高橋 礼子	藤井 洋子	下夕村優子
	木村真貴子	佐藤 昌悦	高橋千鶴子	川越 弦
	石田 良樹	藤原 理吉	小田嶋尚人	小宅 英樹
	佐藤恵美子	原田 優子	鈴木久美子	浮嶋 優子
	高橋 功			

委員会開催日

平成25年	4月9日	5月14日	6月11日	7月9日	8月12日
	9月10日	10月8日	11月12日	12月17日	
平成26年	1月14日	2月12日	3月12日	(合計 12回)	

主な協議事項

- 各月毎に インシデント事例紹介・検討 院内監査報告 ヒヤリハット集計報告 がされた。
- 4月 「持続吸引器の電源の入れ忘れ」
* 医療安全管理対策委員会規程・名簿改訂承認
 - 5月 「SBチューブの誤ったクランプ」
 - 6月 「白内障手術：眼内レンズの患者誤認」
 - 7月 「時間毎尿量チェック忘れ」
* 電子カルテシステム改善へ
 - 8月 「ポータブル撮影の患者誤認」
* タブレット端末の導入により患者確認・指示確認の実施
 - 9月 「未実施確認血液の誤った実施」
* 医療安全研修会（全職員対象）の報告
 - 10月 「ヨード禁の患者へ誤ってスワブステック（イソジン綿棒）を使用した事例」
* 「横手病院における医療安全に係る指針」一部改訂
 - 11月 「腰椎MRI・更衣時、患者誤認した事例」
 - 12月 「退院処方をして破棄してしまった事例」
 - 1月 「小児のインフルエンザ予防接種の際、過剰投与した事例」
 - 2月 「入院時、持参薬継続指示（一部）で誤った薬剤管理をした事例」
* 医療安全研修会（全職員対象）の報告
 - 3月 「検診時、受診者書類を紛失した事例」
* 作業手順の業務改善へ

< 文責 高本和子 >

医療事故対策委員会

概要

院内における医療の安全管理体制の確立を図り、適切かつ安全な医療の提供に資することを目的とする。

大きな医療事故が発生した場合、情報の共有と当面の対応を協議して、病院ならびに患者側・病院職員両者へのダメージコントロールを迅速に行い、社会的損失を最小限に抑えるよう対策を講じる。また、医療事故の分析および再発防止の検討について行い、医療訴訟の対応・紛争解決への対応を行う。

構成員

委員長	診療科	丹羽 誠	病院長
	診療科	吉岡 浩	医療安全管理室室長
	診療科	藤盛 修成	
	診療科		主治医
	看護科	木村カズ子	
	事務局	佐藤 正弘	
	医事課	浮嶋 優子	
	医療安全管理室	高本 和子	医療安全管理者

件数

報告7件：レベル3b以上の事故報告書（レベル3a 1件：自殺企図含む）

ポータブルトイレ使用時患者自身による転倒・骨折、グリセリン浣腸による直腸損傷など書面で報告が行われ委員会メンバーが承認確認をした。

対応

- 1、事故発生に対する検証と原因の分析を行った
- 2、受傷早期に担当科受診後処置をした。
- 3、医療事件事例の原因分析から各部署で再発防止に取り組んだ。
- 4、H25年1月発生の事例1件について継続審議中。

最後に

平成25年度は、日本医療機能評価機構へ1件の報告事例あり。

< 文責 高本和子 >

院内感染対策委員会

1. 概要

院内感染対策委員会の目的は、院内感染の積極的な防止、並びに病院から排出される医療廃棄物の適正処理に関して必要な事項を審議することを目的としている。市立横手病院 ICT が実践活動を行い、病院長の諮問機関である院内感染対策委員会へ提言・報告を行っている。

2. 構成員

委員長：丹羽 誠（医師）
副委員長：船岡 正人（医師）
委員：和泉千香子（医師） 佐藤 正弘（事務局）
伊藤 健一（事務局） 石田 良樹（薬剤師）
佐々木絹子（臨床検査技師） 木村カズ子（看護科） 佐藤セツ子（看護科）
佐藤 昌悦（看護科） 照井 洋子（看護科） 和賀美由紀（看護科）
高橋 正子（看護科） 高田真紀子（看護科） 小田島千津子（看護科）
高本 和子（医療安全管理室） 小川 伸（感染対策室）

3. 院内感染対策委員会の開催回数

- ・開催回数：月 1 回、年間12回の会議を開催した。
- ・委員参加率（平均）：95.4%

4. 全職員を対象とした院内感染対策研修会内容

開催日：2013年9月13日
講演：口腔ケア定着までの歩み～肺炎予防、早期退院を目指して～
講師：秋田組合総合病院 リハビリテーション科
言語聴覚士 主任 藤原 香織 先生

開催日：2013年11月22日
講演：カテーテル関連血流感染防止の基礎と最近の知見
講師：山形大学医学部付属病院 検査部部長 病院教授
感染制御部部長 森兼 啓太 先生

4. 感染対策に関連した国内外の動向

風疹が全国的に流行した。
鳥インフルエンザ（H7N9）が4類感染症から指定感染症に指定された。
中東諸国を中心に MERS(マーズ)コロナウイルスによる中東呼吸器症候群が発生した。
大阪の 250 床規模の病院で MDRP によるアルトブレイクがあった。
コンゴでエボラ出血熱の流行があった。

5. 感染対策に関連した市立横手病院の動向や改善点

2013年6月：消毒薬「0.1%ヘキサック水 W」導入
2013年10月：空気感染隔離ユニット「ミンティ」導入
2013年11月：消毒薬「0.025%スワブスティックベンザルコニウム」導入
2014年1月：環境除菌・洗浄剤「ルビルタ」導入
2014年1月：施設からの入院を対象とした、入院時の喀痰・尿培養検査提出推奨の承認
2014年1月：ドレッシング剤「テガターム CHG ドレッシング」導入

< 文責 小川 伸 >

栄養管理委員会

栄養管理委員会は、給食関係諸部との連絡を緊密にし、栄養管理業務の円滑な運営と給食の充実・改善・向上を図ることを目的としています。

- 協議事項**
- 栄養業務の運営に関する事項
 - 栄養業務の向上に関する事項
 - 各職域間の円滑な運営に関する事項
 - 施設・設備の改善に関する事項
 - その他栄養サービスに関する事項

委員会の構成員は以下に示したとおりであり、平成25年度の主な議題を示しました。

役職	氏名	役職	氏名
院長	丹羽 誠	薬剤科主任	小宅 英樹
食養科長	船岡 正人	食養科技師長	原田 優子
事務局長	佐藤 正弘	主任	川越 真美
医事課係長	柿崎 正行	主席調理技能士	天羽 勝義
総師長	木村カズ子	嘱託調理師	松井世津子
2 A病棟師長	木下 文子	嘱託調理師	佐藤 殉子
3 A病棟師長	高橋 礼子	嘱託調理師	高橋 麗
3 B病棟師長	藤井 洋子		
3 C病棟師長	下夕村優子		
4 C病棟師長	木村真貴子		

平成25年度委員会開催日および主な議題

平成25年 4月24日

- * 幼児食アンケートについて
- * 食中毒発生時におけるプロセスについて
- * 食種について

平成25年 7月24日

- * 産婦食の提供について（現在の取り組みについて紹介）

平成25年10月23日

- * 医師検食簿の所見欄の記載について
- * 「患者さんアンケート」の質問内容の検討
- * ヤクルト新商品についての説明

平成26年 1月22日

- * 緊急時病院給食協力支援契約書について
- * 胃術後食の見直しについて

< 文責 原田優子 >

NST委員会

目 的

個々の患者の栄養状態を評価し、最もふさわしい栄養管理を提言することで、個々の患者の治療、回復、退院及び社会復帰に寄与し、もって当院の医療の質の向上を目的とする。

構成員

Supervisor 丹羽 誠

Chairman 船岡 正人

Director

Core Staff 江畑公仁男 木村カズ子 安藤 宏子 高橋加美子 山寺 穂波
西屋 洋子 梅川 瑠衣 大山十亜良 佐藤 智佳 佐藤由美子
阿部 萌子 深沢 美里 原田 優子 川越 真美 小宅 英樹
佐々木美奈子 古関 佳人 百合川深里 三浦 幸恵
布袋屋沙樹(H25.8月まで) 武田フミエ(H25.9月から)

役 割

1. 適切な栄養評価
2. 栄養管理法の提言
3. 栄養管理に伴う合併症の予防・早期発見・治療
4. 患者の早期退院・早期社会復帰に努める
5. 栄養管理法に関するコンサルテーション
6. 栄養管理法の啓蒙

活動内容

1. 全入院患者に対して栄養評価を行い個人ファイルとして保存する。この中から問題症例を抽出し、個々の症例に最適な栄養療法を立案・提言する
2. 抽出した症例に対してNST Core Staffによる症例検討会及び回診を行い、栄養管理の判定・評価を継続的に行う
3. 検討会、栄養評価、回診の内容に関しては記録し、保存する
4. 前記各号に掲げた活動は主治医、NSTメンバーからのコンサルテーションにより開始されることがある。更に、このコンサルテーションは24時間体制で行うものとする
5. 栄養療法に関する情報の収集・提供、各種勉強会や研修会などの開催
6. その他、栄養療法に関する事柄

NST 栄養評価、回診（毎週月曜日15時～）

4月8日 15日 22日
5月27日
6月3日 10日 17日 24日
7月1日 8日 22日 29日
8月5日 12日 19日 26日
9月2日 9日 30日
10月7日 21日 28日
11月11日 18日 25日
12月2日 9日 16日
1月6日 20日 27日
2月3日 10日 17日 24日
3月3日 10日 17日 24日 31日

NST 症例検討会（毎月第2水曜日17時30分～18時30分）

4月10日 第1回
5月8日 第2回
6月12日 第3回
7月10日 第4回
8月14日 第5回
9月11日 第6回
12月11日 第7回
1月8日 第8回
2月12日 第9回
3月12日 第10回

NST 勉強会（第2水曜日17時30～18時30分）

平成25年7月10日 第1回勉強会

テーマ 「経管栄養の合併症と対策」

内容 下痢・便秘・誤嚥性肺炎などへの対策、消化器態栄養のメリット

講師 ネスレ日本株式会社

平成26年2月12日 第2回勉強会

テーマ 「亜鉛と味覚障害」

内容 亜鉛の働き、亜鉛の欠乏症状や原因、味覚障害の動向など

講師 株式会社クリニコ

< 文責 柴田昌洋 >

褥瘡対策委員会

本委員会は、院内の褥瘡対策を討議・検討し、その効率的な推進を図るため、平成14年度より設置された。院内における褥瘡予防体制確立のための活動や、褥瘡発生事例の対策に関する調査や審議を行っている。

【構成員氏名】

委員長	医師	伊勢 憲人		
副委員長	医師	武内 郷子		
褥瘡管理者	皮膚・排泄ケア認定看護師	佐藤美夏子		
委員	病棟師長	木下 文子		
	病棟看護師	高橋加美子	菅原奈緒子	大澤 恵美
		山石 陽子	横井 道子	高橋 華澄
		煙山由紀子	地主 愛	遠藤ちずる
		町本 典子		
	訪問看護師	佐藤 友紀		
	手術室看護師	岩村 久子		
	透析室看護師	小田嶋明子		
	薬剤師	渡邊 圭子		
	管理栄養士	川越 真美		
	臨床検査技師	工藤真希子		
	理学療法士	高橋 茂実		
	医事課	百合川深里		
	総務課	阿部 光子		
事務局	管材係	菅原 祐司		

【主な活動内容】

1) 褥瘡対策委員会開催

4/11、5/9、6/13、7/11、8/8、9/12、10/10、11/14、12/12、1/9、2/13、3/13

2) 褥瘡回診(1週間に1回)ならびに褥瘡ハイリスク患者カンファレンスの実施

3) 体圧分散寝具等の整備

4) 学習会の実施

- ・4/8: 新規採用者研修(対象: 卒後1年未満新規採用看護師)

「褥瘡対策の基本」 出席者数12名

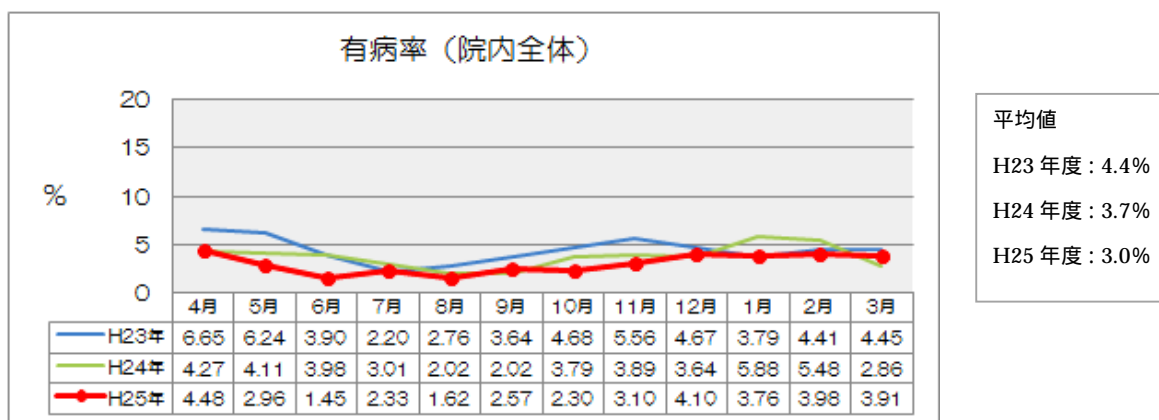
- ・10/23、10/28、11/7: 院内研修(対象: 病棟勤務の看護師と看護補助者、他興味ある方)

「体位変換とポジショニングについて」 出席者数121名(出席率84%)

【動 向】

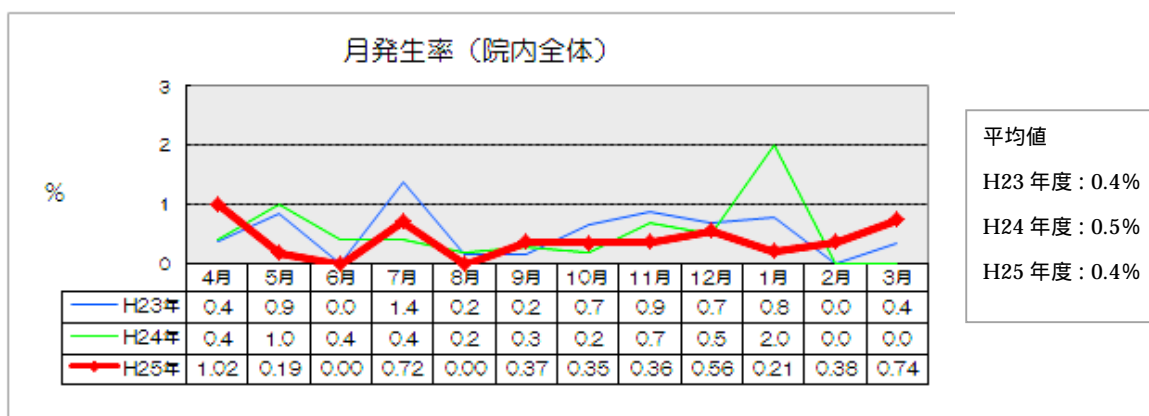
1) 褥瘡有病率の推移

褥瘡有病率 = 調査期間中に褥瘡を保有する患者数 ÷ 調査期間の入院患者数 × 100



2) 褥瘡新規発生率の推移

褥瘡新規発生率 = 調査期間中に褥瘡発生した患者数 ÷ 調査期間の入院患者数 × 100



平成25年度は、褥瘡発生率1.0%以下維持を目標に褥瘡対策の推進を図った。年間の平均値は1.0%以下となっているが、4月は1.0%を超えた。発生件数は前年度よりも減少しており、発生時の深達度も 度以下の浅い褥瘡のみであった。引き続き褥瘡発生予防に重点をおき、褥瘡対策の推進を図っていききたい。

< 文責 佐藤美夏子 >

緩和ケアチーム委員会

【設置目的及び経緯】

当院では平成8年からターミナルケア勉強会『虹の会』が有志により行われていたが、当院に
来られた患者・家族全ての方に当然のこととして高い水準の緩和ケアが提供できるようになるこ
とを目的として緩和ケア研究会が平成13年に設立された。さらに緩和ケアの保証について病院と
しての責任を明らかにするため平成14年10月に公的委員会として緩和ケア委員会が認められた。
その後名称を緩和ケアチーム委員会に変更し現在に至る。

【事業検討事項及び事業】

- 1) 症状緩和の方法論の勉強・実践・普及を行いスキルアップを目指す
- 2) 患者・家族のQOL向上のためのあらゆるアプローチ

上記のために 勉強会及びケースカンファレンス 緩和ケアチーム(PCT)回診 院内勉強会
緩和ケアマニュアルの整備等を行う。また、在宅支援などについて、コメディカルとも話し合う
などチームで調整をはかる。

【25年度構成員】

委員長：丹羽 誠

副委員長：高橋 共子

委員：滝澤 淳・石田 芳樹・柿崎 美幸・田中 由江・佐々木 薫・高橋麻理子
山田百合子・佐藤 秀子・高橋 康子・照井かおる・加賀谷優紀・高橋 歌澄
高橋 美里・原田 優子・鈴木 努・石山 博幸

事務局：亀谷 良文

【委員会開催】

毎月第3火曜日に開催

【特記事項】

緩和ケア回診：毎週月曜日・全病棟オピオイド使用患者及び依頼患者対象

勉強会の開催：11月19日 「治療・ケアのゴールを話し合う」 参加者63名

2月20日 「アブストラル舌下錠の使用法について」委員会内で勉強会

院外勉強会への参加

- ・厚労省指針に基づく緩和ケア研修会への参加
- ・6月15日「秋田がんささえ愛」の日、講演お手伝い・ボランティア
- ・3月6日 県南緩和ケア研修会への参加
- ・秋田県緩和ケア実施研修への参加(外旭川病院ホスピス・仙北組合総合病院)

緩和ケアマニュアルの見直し

11月6日 病院祭での緩和ケアに関する資料の掲示

緩和ケアチームの働きについて広報へ掲示

< 文責 高橋共子 >

救急センター運営委員会

救急センター運営委員会は、当病院における救急センター運営を討議、検討し、その効率的な推進を図る事を目標に、設置された。(平成14年12月)

本委員会は、救急部門の体制の整備、救急部門の適切な運営の検討を行う。また、当病院の救急部門の地域における役割の明確化、院内救急時の対応マニュアル、救急患者統計についても検討を行っている。

救急センター運営委員

委員長	江畑公仁男	
副委員長	藤盛 修成	
委員	小松 明	工藤真希子
	法花堂 学	渡邊 圭子
	佐藤 鋼子	川越 弦
	高本 和子	和賀美由紀
事務局	木村 宏樹	

本年度の活動状況

平成25年 4月10日	救急患者統計について検討
平成25年 5月16日	AED・BLS研修会(54名参加)
平成25年 5月17日	AED・BLS研修会・エマージェンシー訓練について検討
平成25年 6月12日	エマージェンシー訓練
平成25年10月 9日	エマージェンシー訓練・救急カートについて検討
平成25年10月24日	普通救命講習会(17名参加)
平成25年12月11日	救急カートについて検討
平成26年 1月29日	救急症例検討会(55名参加)
平成26年 2月13日	アルゴリズム・救急カートについて検討

<文責 木村宏樹>

手術室運営委員会

< 委員会概要 >

手術室業務報告

(各科月間手術件数・手術時間・麻酔時間・在室時間・手術室スタッフの時間外)

手術室で行っている業務改善報告

外科系医師・麻酔科医師・ME・手術室スタッフの連携を図る

< 構成メンバー >

委員長	寺田 宏達	手術室室長・麻酔科科長
委員	吉岡 浩	副院長・外科科長・ME室室長
	江畑公仁男	副院長・整形外科科長
	伊勢 憲人	外科科長
	畑澤 淳一	産婦人科科長
	千葉 修治	泌尿器科科長
	木村カズ子	総看護師長
	石橋由紀子	手術室主任
	川越 弦	ME室主査
事務局	佐藤 昌悦	手術室師長

< H25年度議題内容 >

- * 術中のイメージ操作は、放射線技師が行う。
- * 眼科のOp（白内障）が開始となった。
- * 中央材料室の業務員さんの教育を充実させ切り離しを考える
- * 眼科の手術件数(年間)を増やすことは可能か。
- * 今後麻酔医が1名体制になる為、並列2列が通常である。

眼科のOpも何事もなく始まり、無事年間88症例を消化する事出来た。
年間1156症例の手術を行う中で、これからも安全な医療の提供に努めていきたい。

< 文責 佐藤昌悦 >

糖尿病委員会

【委員会活動概要】

急増する糖尿病患者様に、糖尿病委員会は病院および地域へ啓蒙活動の推進役として取り組んでいる。

平成25年度は、糖尿病教室の定期開催、委員会メンバーの糖尿病に関する知識の底上げと地域連携に重点を置き、今年度も秋田県糖尿病療養指導士が誕生した。院外の研修会参加で専門的な糖尿病の知識習得。県南地域での糖尿病治療に関わる医師やスタッフと交流が持てた。

また、今回糖尿病習慣行事は第49回『秋田県の集い』として当院では2回目の開催でした。病院祭と同時開催、多くの一般市民に糖尿病への当院での取り組みをアピールしました

秋田県糖尿病協会支部長、日赤HP村田医師をむかえ開催した『秋田県の集い』は消化器センターで糖尿病に関する展示と試食、午後はウォーキング、奥山医師からのクイズとミニレクチャー、好評のうちに終了しました。

【構成メンバー】

委員長	奥山 厚			
副委員長	照井 洋子	和賀美由紀		
食養科	原田 優子	川越 真美		
薬剤科	佐々木洋子			
リハビリ科	小田嶋尚人			
健康管理センター	鈴木久美子			
看護科	高橋 正子	佐藤美紀子	小野 真美	長井美憂希
	正木 美香	草薨美保子	渡部 僚太	大黒 成美
総務課	高橋 功			

【活動報告】

委員会開催 6回 糖尿病教室開催 19回（6月～4月）
参加者 入院患者44名 外来83名 年間参加者127名
講義担当者：小田嶋医師 管理栄養士 薬剤師 保健師 理学療法士

かまぐららの会：糖尿病患者会

日本糖尿病協会秋田県支部理事会出席（照井）

糖尿病週間行事：秋田県糖尿病協会『49回秋田県のつどい』

10月13日（日）各コーナーで展示、血糖測定、糖尿病療養指導相談、試食。

午後は史跡や名所を訪ねながらウォーキング

奥山医師を講師に糖尿病に関するクイズ、ミニレクチャー。

午前中は病院祭と同時開催であった。

入場者は病院祭同時開催で400名 ウォーキング参加者は45名

委員会スタッフ・ボランティアスタッフ20名が会場運営。

平鹿HP、高橋医院（十文字）糖尿病療法士4名

研修会運営

糖尿病看護ネットワーク世話人会出席（照井）

糖尿病・看護・療養指導を考える試行錯誤の会参加要請（年3回）

< 文責 照井洋子 >

輸血療法委員会

輸血療法委員会設置の目的

当院における輸血関連業務の安全性の確保および適正使用のための輸血療法委員会が設置されている。

平成25年度 委員

委員長	畑澤 淳一	診療科（輸血業務責任医師）
	吉岡 浩	副院長・診療科
	船岡 正人	副院長・診療科
	寺田 宏達	診療科
事務局	小宅 英樹	薬剤科
	佐藤恵美子	臨床検査科
	佐々木美奈子	臨床検査科
	木下 文子	看護科（病棟師長）
	石橋由紀子	看護科（手術室看護師）
	阿部 光子	総務課
	百合川美里	医事課
	高本 和子	医療安全委員会

第1回（4月23日）

製剤使用状況について、廃棄報告、輸血前後の感染症の検査について、平成24年度収益報告、その他 研修会予定 ひやりはっと報告

第2回（6月17日）

使用状況報告、廃棄報告、その他 自己血採血室の使用について 輸血バッグの破損報告 委員会開催日について

第3回（8月19日）

使用状況報告、輸血管理者会議報告、同意書の有効期限について、院内製剤作成について、その他：事例報告

第4回（10月21日）

使用状況報告、廃棄報告、その他 輸血同意書有効期限について 自己フィブリン糊作成について 輸血前後感染症検査について FFP容量変更メッセージについて 血液製剤 経過観察表の運用

第5回（12月16日）

血液製剤使用状況について、製剤廃棄、その他 輸血前後の感染症について 輸血によるHIV感染報道について

第6回（平成26年3月17日）

使用状況報告、廃棄報告、輸血後感染症検査報告、その他 輸血同意書の有効期限について
 輸血前後感染症検査の入力について FFP容量変更メッセージについて 緊急時における異
 型輸血について 自己血貯血の運用 当院の学会認定・自己血輸血責任医師について

平成25年度 血液製剤使用状況

2012年4月～2013年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
赤血球製剤単位数(M)	155	152	158	128	188	164	132	166	152	142	148	189	1874	156.17
赤血球製剤バッグ数	71	70	65	56	87	70	58	85	78	66	72	99	877	73.08
(自己血単位数)	20	16	36	22	20	26	18	16	16	16	18	10	234	19.50
(自己血バッグ数)	10	8	18	11	10	13	9	8	8	8	9	5	117	9.75
新鮮凍結血漿単位数(F)	18	28	21	12	70	0	10	76	10	24	44	50	363	30.25
新鮮凍結血漿バッグ数	9	14	6	6	35	0	5	38	5	12	22	25	177	14.75
血小板製剤単位数	60	50	100	40	40	30	0	50	20	20	55	40	505	42.08
血小板製剤バッグ数	6	5	10	4	4	3	0	5	2	2	4	3	48	4.00
アルブミン製剤														
使用単位数(A)	279.2	265.8	251.7	40	194.2	163.3	145	300.8	394.2	137.5	203.3	290.8	2665.8	222.15
(5% 250ml)本数	15	11	2	0	17	16	2	9	13	1	0	9	95	7.92
(5% 250ml)単位	62.5	45.8	8.3	0	70.8	66.7	8.3	37.5	54.2	4.2	0	37.5	395.8	32.98
(20% 50ml)本数	65	66	73	12	37	29	41	79	102	40	61	76	681	56.75
(20% 50ml)単位	216.7	220	243.3	40	123.3	96.7	136.7	263.3	340	133.3	203.3	253.3	2269.9	189.16
A/M比(2.0未満)	1.8	1.75	1.59	0.31	1.03	1	1.1	1.81	2.59	0.97	1.37	1.54	16.86	1.41
F/M比(0.25未満)	0.12	0.18	0.13	0.09	0.37	0	0.08	0.46	0.07	0.17	0.3	0.26	2.23	0.19
交差試験本数(C)	75	91	68	57	96	69	62	89	87	75	70	109	948	79.00
輸血実施本数(T)	72	70	65	56	87	70	58	85	78	66	70	101	878	73.17
C/T比	1.04	1.3	1.05	1.02	1.1	0.99	1.07	1.05	1.12	1.14	1	1.08	12.96	1.08

輸血前後感染症検査実施状況

	H24						H25					
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
輸血人数	32	32	30	24	29	27	19	26	28	22	26	33
輸血前未実施	2	3	4	1	2	0	1	1	0	1	2	2
新規前感染症	19	16	9	12	14	16	16	24	17	13	16	18
後感染症	5	2	8	4	12	6	4	3	5	7	6	4
前検査施行率	93.8	90.6	86.7	95.8	93.1	100.0	94.7	96.2	100.0	95.5	92.3	93.9

診療科別 製剤使用内訳

RCC製剤	単位	自己血	単位	FFP製剤	単位	PC製剤	単位	アルブミン製剤	単位
外科	428	内科	0	内科	40	内科	420	外科	1,559.49
内科	948	外科	0	外科	301	外科	65	内科	1,017.13
整形	124	整形	120	整形	20	整形	20	整形	41.64
泌尿器	90	泌尿器	12	泌尿器	2	泌尿器	0	婦人科	17.5
婦人科	50	婦人科	102	婦人科	0	婦人科	0	呼吸器	10
合計	1,212	合計	234	合計	363	合計	505	泌尿器	10
								合計	2,655.76

平成23 - 25年度別 使用製剤比較 (単位)

	R C C	F F P	P C	自己血	アルブミン
H23年度(2011.4~2012.3)	1,829	364	805	296	4,458
H24年度(2012.4~2013.3)	1,640	363	505	234	2,666
H25年度(2013.4~2014.3)	1,557	270	995	262	2,294

製剤廃棄量

2013	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
廃棄単位総数	8	12	10	8	10	20	2	4	2	10	8	2	96
廃棄バッグ総数	4	6	5	4	5	10	1	2	1	5	4	1	48
R C C 廃棄単位数	6	12	4	8	10	18	2	4	0	10	8	2	84
R C C 廃棄バッグ数	3	6	2	4	5	9	1	2	0	5	4	1	42
F F P 廃棄単位数	2	0	4	0	0	0	0	0	2	0	0	0	8
F F P 廃棄バッグ数	1	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4
P C 単位数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
P C バッグ数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自己血廃棄単位数	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	4
自己血廃棄バッグ数	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2

自己FFP

年度別 製剤廃棄量 比較

		総単位	R C C	F F P	P C	自己血	廃棄率	廃棄金額
H25年度	(2013.4~2014.3)	96	84	8	0	2	3.2%	¥755,686
H24年度	(2012.4~2013.3)	86	48	12	10	16	2.7%	¥567,015
H23年度	(2011.4~2012.3)	147	82	51	10	4	4.5%	¥1,511,372
H22年度	(2010.4~2011.3)	176	105	49	10	12	4.8%	¥1,248,464

< 文責 小宅英樹 >

臨床検査適正化委員会

概要

当院において臨床検査を適正かつ円滑に遂行するための検討を行なうことを目的とし、平成12年度に設けられた委員会である。年数回開催するものとし、検討事項は以下の通りである。

1. 精度管理に関すること
2. 検査項目に関すること
3. 検査の実施状況に関すること
4. 外部委託に関すること
5. 研究検査に関すること
6. その他臨床検査全般の運用に関する事項

構成員

委員長	丹羽 誠	(医院長)
委員	船岡 正人	(副医院長)
	藤盛 修成	(副医院長)
	畑澤 淳一	(検査科科长)
	伊勢 憲人	(外科科長)
	浮嶋 優子	(医事課長)
	木村カズ子	(総看護師長)
	佐藤恵美子	(検査科技師長)
	長瀬 智子	(内部精度管理責任者)

委員会開催日及び検討事項

平成26年3月5日(水)

1. 平成25年度日臨技・医師会コントロールサーベイ結果報告
2. 平成26年度外部委託契約について現行通り継続で決定
3. その他事案

委員の交代について

平成26年度より、医事課担当照井圭子係長に変更となる。

HbA1検査中止について(平成26年4月より)

現在健診宿泊ドッグ項目に含まれるがHbA1cを安定して測定できるようになり、臨床的意義が薄れ、2007年に保険点数を削除されている。内科細葉先生に確認のうえ、健診会議において中止の了承済である。検査中止で決定。

テオフェリン血中濃度外注化について(平成26年4月より)

年間実績の減少によりコスト的に問題があり、検査指示をされる先生方の了承のうえ、外注とすることに決定。

外注の場合、基準値に変更なし。結果報告に2～4日必要。

テオフェリン年間件数

H22年度	71件
H23年度	30件
H24年度	40件

ヘパプラスチンテストについて

- ・現在使用中検査薬の発売中止に伴い、他メーカーの検討予定
- ・新生児検査でのマウスピペッティングの危険性の問題から、畑澤・小松先生の了承を得て試験管採血以外の当検査の中止を決定。(平成26年4月より)

< 文責 長瀬智子 >

化学療法委員会

1. 概要

本院の化学療法を実施する体制等の設備を図るとともに、抗がん剤の適正使用に関する教育及び啓発を行い、もって化学療法の安全な施行の推進を目的とする。

2. 構成員

委員長	医局	奥山 厚					
副委員長	医局	畑澤 淳一					
	薬剤師	小宅 英樹					
委員	医局	伊勢 憲人	千葉 修治				
	医療安全管理室	高本 和子					
	看護科	佐々木佳子	高橋 正子	高橋 共子	柿崎 美幸		
	臨床検査科	長瀬 智子					
	薬剤科	谷川 裕子					
	医事課	百合川深里					

3. 委員会開催日

化学療法委員会：平成25年4月18日、7月18日、12月25日

化学療法審議会：平成25年10月23日、平成26年1月30日

4. 主な活動内容

1. 化学療法の適切かつ安全な施行に関すること
2. 抗がん剤の適正使用に関する教育及び啓発に関すること
3. 関係各診療科及び関係診療施設等との連携調整に関すること
4. 化学療法に関する情報の収集・提供、各種勉強会や研修会などの開催
5. 化学療法審議会の管理・調整
6. その他、化学療法に関する事柄

5. 今年度承認されたプロトコール

〔卵巣がん〕カルボプラチン+ゲムシタピン併用療法

〔リンパ腫〕リツキサン単独療法

〔卵巣がん(胚細胞腫瘍)〕VeIP (VLB+ IFO+ CDDP) 療法

〔大腸がん〕mFOLFOX+ Pmab療法

<文責 百合川深里>

倫理委員会

概要

当院における臨床倫理に関する課題について検討し、臨床研究の実施について倫理的妥当性を審議する。外部委員1名を含んでいる。

構成員氏名

	役 職	氏 名
委員 長	院 長	丹 羽 誠
副委員 長	副 院 長	藤 盛 修 成
	総看護師長	木 村 カズ子
	リハビリテーション科技師長	小田嶋 尚 人
	薬剤科主任	渡 邊 圭 子
	事 務 局 長	佐 藤 正 弘
	外部委員・見識を有する者	三 橋 由美子

活動記録

第1回委員会（平成25年8月6日）

倫理審査申請 1

課題名 次世代多目的コホート研究への協力

倫理審査申請 2

課題名 手術不能又は再発乳癌を対象としたベバシズマブ+パクリタキセル治療による末梢神経障害に対する -トコフェロール(ビタミンE) 予防投与の有効性に関する臨床評価

倫理審査申請 3

課題名 J-BRAND Registry (Japan-Based clinical Research Network for Diabetes Registry)

・上記3件の申請は、倫理規範に沿ったものとして承認された。

第2回委員会（平成26年1月16日）

倫理審査申請 4

課題名 バリウム製剤への香料の選択付加に関する実験的研究

- ・上記1件の申請は、倫理規範に沿ったものとして承認された。
- ・当院は、救急救命士の実習施設となっており、救急救命士が実習を行っている旨を掲示し周知することについて報告された。

<文責 佐藤正弘>

図書委員会

[目的]

図書室は病院の理念及び方針に基づき、運営・診療・教育及び研究活動に必要な環境を整備し、その運用によって医療の維持、向上を図ることを目的としている。

[スタッフ]

委員長	泉 純一（診療科）平成23年4月～
副委員長	佐藤 正弘（総務課）平成25年4月～
書記	三浦 幸恵（総務課）平成25年4月～
委員	木村カズ子（看護科）平成25年4月～
委員	谷口 明美（総務課）平成14年9月～
委員	島田万里子（医師事務支援室）平成19年4月～
委員	阿部千鶴子（総務課）平成20年1月～

[図書室概要]

面積・・・48.05㎡ 座席数・・・6席

設備・機器・・・コピー&Fax機（1台）・コンピューター（2台・1台インターネットに接続・1台院内LANに接続）・プリンター 1台
・カラーインクジェットプリンター 1台

書架・・・移動式書架

閲覧時間・24時間閲覧可能

所蔵資料・単行書（約1,070冊）・製本雑誌（約2,300冊）
・和雑誌（66誌）・洋雑誌（21誌）・学会誌（3誌）

配架・・・単行書（NLMC分類順）
・和雑誌（あいうえお順）・洋雑誌（アルファベット順）
・患者図書（大分類・中分類・小分類順）

サービス・文献データベース 医学中央雑誌Web版
メディカルオンライン
・相互貸借依頼先；秋田大学附属図書館医学部分館・上尾中央総合病院図書室
国立国会図書館・日本医師会（個人申込み）
・個人医学図書の購入・支払い・製本と取次ぎ

[活動]

- ・委員会開催日；5/28・10/28・12/11・3/18の4回
- ・図書購入予算の確定と管理
年度始めに各科に予算配分をし、各科受入れ毎に収支簿を作成。
- ・購入図書の受入れと配架作業；毎月の受入れ図書のリスト作成と所定位置への配架。
院内LANで月1回新着図書の情報提供。
- ・製本作業・蔵書点検作業
- ・文献複写の取次ぎ

[統 計]

(文献複写依頼数)

- 秋田大学附属図書館医学部分館 2件
- 国立国会図書館 1件
- 日本医師会図書館 23件

(医中誌Web)

- アクセス回数 3,067回
- 検索回数 628回
- ログイン回数 208回

(メディカルオンラインジャーナル)

ログイン回数1,800回

患者図書サービス

[目 的]

入院患者さん及び付添いの方々の不安やストレスを少しでも癒していただき、闘病生活の支えや回復への意欲につながることを目的としている。

[概 要]

所蔵図書(約1,855冊)、備品・・・ブックトラック、固定書架(図書室内)

[活 動]

各病棟デイルームに蔵書一覧ファイルを設置し、Faxでの貸出しサービスを行っている。今は主として娯楽書主体の貸出しサービスである。ただ医療現場でのインフォームドコンセントの重要性が増す中、自ら病気や治療について情報を得て学べる一般向けの医学情報誌を提供することを視野におき、患者さんの要望に応えていきたい。

[統 計]

<患者図書貸出し数> (平成25年4月～平成26年3月)

病棟	貸出数	利用人数	月平均貸出数	月平均利用者数
2 A病棟	18冊	6人	1.50冊	0.50人
3 A病棟	58冊	19人	4.83冊	1.58人
3 B病棟	124冊	24人	10.33冊	2.00人
3 C病棟	75冊	35人	6.25冊	2.92人
4 C病棟	166冊	50人	13.83冊	4.17人
宿泊ドック	25冊	7人	2.08冊	0.58人
合計	466冊	141人		
月平均	38.83冊	11.75人		

<文責 谷口明美>

臨床研修管理委員会

概要

医師法第16条の2第1項に規定する臨床研修を当院と協力病院及び協力施設で実施するために設置された委員会である。

当院の研修プログラムは内科系重視の内科コース、外科系重視の外科・整形外科コースがあり、それぞれ募集定員は2名となっている。

研修プログラムの中の『精神科研修』では、横手興生病院・市立角館総合病院に、『地域保健・医療研修』では、横手保健所・市立大森病院・秋田県赤十字血液センターに協力をいただいている。

また、本荘第一病院・秋田大学医学部附属病院・市立角館総合病院・由利組合総合病院の研修プログラムの協力型臨床研修病院となっている。

構成員氏名

委員長	船岡 正人（研修実施責任者・内科コースプログラム責任者）
副委員長	藤盛 修成、伊勢 憲人（外科・整形外科コースプログラム責任者）
委員	江畑公仁男、小松 明、畑澤 淳一、塩屋 斉、根本 敏史、 和泉千香子、奥山 厚、滝澤 淳、武内 郷子、富岡 立、 泉 純一、寺田 宏達、千葉 修治、佐藤 正弘、 小松 真吾（横手保健所長） 杉田多喜男（横手興生病院長） 西成 忍（西成医院長、横手市医師会長） 小野 剛（市立大森病院長） 佐々木道基（市立角館総合病院精神科長） 面川 進（秋田県赤十字血液センター）
オブザーバー	丹羽 誠
事務局	高橋 功、黒澤 雄悦

委員会開催年月日及び案件

管理委員会

平成26年3月4日

- 案件 平成24年度採用研修医の修了認定について
- 平成26・27年度研修プログラムについて
- 平成26年度研修日程について

評価・プログラム委員会

平成25年8月5日

- 案件 平成27年度プログラムについて
- 研修医確保について
- 2年次研修医の研修評価について

平成25年12月5日

- 案件 2年次研修医の研修進捗状況について

平成27年度プログラムについて
研修医の教育指導体制について

平成26年2月6日

案件 平成24年度採用初期研修医の研修修了認定について

平成26年2月26日

案件 2年次研修医の研修評価について

平成26年度臨床研修日程について

平成27年度臨床研修プログラムについて

研修医会議（指導医と研修医との意見交換等）

平成25年 4月4日、5月2日、6月6日、7月4日、8月1日、9月5日、
10月3日、11月7日、12月5日、

平成26年 1月9日、2月6日、3月13日

平成26年度 臨床研修医

当院プログラムによる研修医（1年次） 伊藤 周一、高橋 晋、宮嶋 和宏
（2年次） 渡邊 健太

秋田大学医学部附属病院からの研修医

（2年次） 戸沢 智樹、松澤 尚徳、三浦 孝也

本荘第一病院からの研修医（2年次） 加藤 信之 福島 達郎、盛合 正浩、
草野孝一郎

マッチング日程

平成25年6月20日 参加登録開始
8月8日 参加登録締切
9月12日 希望順位登録受付開始
9月26日 希望順位登録中間公表前締切
9月27日 中間公表
10月10日 希望順位登録最終締切
10月24日 組み合わせ結果発表

平成26年度採用臨床研修医

内科コース 定員2名 佐々木 諒、佐藤 優真
外科・整形外科コース 定員2名 小野 怜子

病院説明会参加状況

平成25年4月27日 青森県臨床研修病院合同説明会 （弘前市 青森県主催）
平成25年7月7日 東北ブロック臨床研修病院合同説明会 （仙台市 東北厚生局主催）
平成25年7月14日 民間主催の合同説明会 （東京都 県協議会企画）
平成25年8月2日 専門研修説明会 （秋田市 県協議会主催）
平成26年2月10日 秋田県臨床研修病院合同説明会及び意見交換会
（秋田市 県協議会主催）
平成26年3月2日 民間主催の合同説明会 （福岡市 県協議会企画）

<文責 黒澤雄悦>

臨床研修プログラム

市立横手病院臨床研修病院群基本研修プログラム内科コース

研修プログラムの特色

1年次で必修科目（内科、救急部門）と選択必修科目（産婦人科、精神科、小児科）と選択科を研修。2年次に必修科目（地域医療）と選択科を研修する。選択科を12ヵ月設定しているため、必修科目や選択必修科目を再度重点的に研修したい場合や、他の科目（外科系、整形外科、泌尿器科、放射線科、麻酔科）、地域保健を研修したい場合に対応できる。

臨床研修の目標の概要

1. 一般目標 医師としての人格を養い、将来どのような分野に進むにせよ、医学、医療の社会的ニーズを認識しつつ、日常診療で頻りに遭遇する病気や病態に適切に対応できるよう、幅広い基本的な臨床能力（態度、技能、知識）を身につける。
2. 行動目標 卒後臨床研修目標に対する考え方：すべての科の医師にとってコアとなる臨床能力（clinical competence）を養い育てることを目標とする。

プログラム責任者

市立横手病院 副院長（消化器内科科長） 船岡 正人

研修医の指導体制 マンツーマン方式による。

協力型臨床研修病院

市立角館総合病院（精神科）

- ・研修実施責任者 佐々木道基
- ・指導医 佐々木道基、岩城 忍、北條 康之

横手興生病院（精神科）

- ・研修実施責任者 杉田多喜男
- ・指導医 杉田 俊生、杉山 智成、佐藤 英次、金山 浩信、安倍俊一郎

臨床研修協力施設

横手保健所（地域保健）

- ・研修実施責任者 小椋 真吾
- ・指導医 小椋 真吾

市立大森病院（地域医療）

- ・研修実施責任者 小野 剛
- ・指導医 小野 剛、三浦 勉、大場 雅史、福岡 岳美、中西 真一、
澤邊 淳、粕谷 孝光

秋田県赤十字血液センター（地域保健）

- ・研修実施責任者 面川 進
- ・指導医 面川 進

研修開始時期：2013年4月1日

研修スケジュール

	1 年 次	2 年 次
4 月	内科（市立横手病院）	地域医療（市立大森病院）
5 月		
6 月		
7 月		
8 月		
9 月		
10 月	救急部門（市立横手病院）	選択科（市立横手病院・横手保健所・赤十字血液センター）
11 月	産婦人科（市立横手病院）	
12 月	精神科（市立角館総合病院・横手興生病院）	
1 月	小児科（市立横手病院）	
2 月		
3 月	選択科（市立横手病院・横手保健所）	

救急部門については、診療時間帯及び日当直（2年間で40日以上）を含め3ヵ月の研修とする。

市立横手病院臨床研修病院群基本研修プログラム外科・整形外科コース

研修プログラムの特色

1年次で必修科目（内科、救急部門）と選択必修科目（外科系、小児科）を研修。2年次に必修科目（地域医療）と選択必修科目（産婦人科、精神科、麻酔科）を研修。2年次に選択科を8ヵ月設定しているため、必修科目や選択必修科目を再度重点的に研修したい場合や、他の科目（整形外科、泌尿器科、放射線科）地域保健を研修したい場合に対応できる。

臨床研修の目標の概要

- 1．一般目標 医師としての人格を養い、将来どのような分野に進むにせよ、医学、医療の社会的ニーズを認識しつつ、日常診療で頻繁に遭遇する病気や病態に適切に対応できるよう、幅広い基本的な臨床能力（態度、技能、知識）を身につける。
- 2．行動目標 卒後臨床研修目標に対する考え方：すべての科の医師にとってコアとなる臨床能力（clinical competence）を養い育てることを目標とする。

プログラム責任者

市立横手病院 外科科長 伊勢 憲人

研修医の指導体制 マンツーマン方式による。

協力型臨床研修病院

市立角館総合病院（精神科）

- ・研修実施責任者 佐々木道基
 - ・指導医 佐々木道基、岩城 忍、北條 康之
- 横手興生病院（精神科）
- ・研修実施責任者 杉田多喜男
 - ・指導医 杉田 俊生、杉山 智成、佐藤 英次、金山 浩信、安倍俊一郎

臨床研修協力施設

横手保健所（地域保健）

- ・研修実施責任者 小椋 真吾
- ・指導医 小椋 真吾

市立大森病院（地域医療）

- ・研修実施責任者 小野 剛
- ・指導医 小野 剛、三浦 勉、大場 雅史、福岡 岳美、中西 真一、
澤邊 淳、粕谷 孝光

秋田県赤十字血液センター（地域保健）

- ・研修実施責任者 面川 進
- ・指導医 面川 進

研修開始時期：2013年4月1日

研修スケジュール

	1年次	2年次
4月	外科系（市立横手病院）	地域医療（市立大森病院）
5月		産婦人科（市立横手病院）
6月		精神科（市立角館総合病院・横手興生病院）
7月	救急部門（市立横手病院）	麻酔科（市立横手病院）
8月	内科（市立横手病院）	選択科（市立横手病院・横手保健所・赤十字血液センター）
9月		
10月		
11月		
12月		
1月		
2月	小児科（市立横手病院）	
3月		

救急部門については、診療時間帯及び日当直（2年間で40日以上）を含め3ヵ月の研修とする。

<文責 黒澤雄悦>

治験委員会

構成員氏名

委員長 吉岡 浩
委員 船岡 正人 佐藤 政弘 石田 良樹
外部委員 三橋由美子
事務局 渡邊 圭子

本委員会は当院で実施される臨床試験について、その目的および手順ならびに倫理の面から当該臨床試験を実施することの妥当性を検討するために設置されている。新GCP基準における条件を満たすために外部委員1名を加えている。

委員会開催日及び検討事項

平成25年度は検討する案件がなかったため開催しておりません。

<文責 渡邊圭子>

診療材料検討委員会

本委員会は診療材料に関する適正な購入・管理・業務の円滑な運営を図ることを目的として設置されました。診療材料の新規採用についての検討のみならず、院内で使用されている診療材料の合理化・効率化に向けた取り組みや、診療材料の統一化に向けた取り組みについても協議を行います。

新規に診療材料を使用する場合は必ずこの委員会で承認を受けることになっており、原則としてそれ以外の診療材料は使用することはできません。また、承認を受けていない材料を特定の患者に使用する場合には「診療材料限定使用申請書」を提出させ、委員長より使用の可否を判断することとしています。

構成員氏名

委員長	医師	江畑公仁男		
	医師	根本 敏史		
	医師	畑澤 淳一		
	看護科総師長	木村カズ子		
	2 A病棟主任	照井 洋子	3 A病棟主任	和賀美由紀
	3 B病棟主任	高橋 正子	3 C病棟主任	高橋 共子
	4 C病棟主任	高田真紀子		
	手術室主任	石橋由紀子	透析室主任	高橋 佳子
	外来主任	小田嶋恵美子	ME室主任	川越 弦
事務局	総務課長補佐	阿部 光子	管財係	菅原 祐司

委員会開催年月日及び主な検討事項

- H25年6月25日 インスリン専用シリンジ見直しの検討、小児、ベビー用のエクステンションチューブの統一について、他。
- H25年7月8日 セフィオフロー輸液セットの供給について、曝露予防のニトリルグローブ試算及び採用検討、他。
- H25年10月24日 フォーレのトレイ化について検討、抑制帯のディスポ化について。

診療材料限定使用申請書

- H25年7月18日 MPI Tピース、H25年9月17日 エンドGIAユニバーサルステイプラー
- H25年10月8日 十二指腸生検鉗子 FB-45Q-1、H25年10月17日 エンドパスXCELトロッカーカスタムキット、H25年10月25日 環境除菌・洗浄剤ルビスタ、
- H25年11月13日 オドレスシート、H25年11月29日 エアアシスト

<文責 菅原祐司>

病床運営委員会

概要

市立横手病院の病床運営・管理に関して問題点・対策を協議・検討し、全病院的な効率確保を目的に平成 14 年 10 月病床運営委員会が発足。

構成員氏名

委員長 丹羽 誠
副委員長 吉岡 浩・藤盛 修成
委員 和泉千香子
木村カズ子・佐藤セツ子・高橋千鶴子・佐々木佳子
木下 文子・高橋 礼子・藤井 洋子・下夕村優子
木村真貴子
事務局 佐藤 正弘・浮嶋 優子・石山 博幸

H25 年度は 2 回開催。

検討事項及び決定事項

病床の効率的な活用について

- ・ 空床を減らす為の対応を検討。
- ・ 時間外入院患者の受け入れ病床について。
- ・ 満床時のベッド確保について。

眼科入院患者の担当病棟について。

今後、眼科では「白内障」手術を行う予定。

当該患者については、3 B 病棟で対応予定。

その他、問題点の検討。

< 文責 石山博幸 >

医療情報管理委員会

電子カルテシステム稼働5年目を迎え、関連する医療情報システムの円滑かつ安全な運用や院内情報システムの総合的運用およびシステムのリプレイスについて協議。

構成員

委員長 藤盛 修成

副委員長 小松 明

委員 木村カズ子 佐藤セツ子 藤原 理吉 佐藤恵美子

佐藤 正弘 浮嶋 優子 柿崎 正行 千葉 崇仁

活動報告

平成25年4月18日(木)

H25年度予算について

医療情報の院外持出ルールについて

平成25年7月1日(水)

H25年度予算の執行状況について

医療情報の院外持出しルールについて(確認)

<文責 千葉崇仁>

電子カルテ委員会

(目的)

この規程は、電子カルテ及び診療情報の適切な管理について討議・検討し、診療の質の向上を図ることを目的とする。

(業務)

1. 委員会は次の各号における事項について審議する。
 - ・電子カルテ内の情報の真正性、見読性、保存性の確認に関すること。
 - ・オーダリングシステムの内容の検討に関すること。
 - ・紙カルテ、フィルム、検査データの保存に関すること。
 - ・その他カルテについての重要事項に関すること。
2. 委員会は前項の審議結果を速やかに院長へ報告するものとする。

構成員氏名

委員長	藤盛 修成			
副委員長	和泉千香子			
委員	伊勢 憲人	佐藤セツ子	小田嶋千津子	石橋由紀子
	高橋千津子	高橋 佳子	照井 洋子	和賀美由紀
	高橋 正子	高橋 共子	高田真紀子	松川かおり
	小宅 英樹	高本 和子	藤原 理吉	小田嶋尚人
	原田 優子	佐藤恵美子	鈴木久美子	浮嶋 優子
	照井 圭子	木村 宏樹	千葉 崇仁	佐藤 恵

活動報告(検討内容)

平成25年7月2日

- ・入院予約の食事変更について
- ・時間毎尿量チェック指示について 他

平成26年1月8日

- ・カルテオーダ入力画面の患者情報コメント欄使用について
- ・自己血採血の予約について
- ・一日血糖の検査オーダについて
- ・インフルエンザ予防接種のカルテ入力について 他

<文責 木村宏樹>

D P C 委員会

DPC 委員会では、適切なコーディング、在院日数分析を中心に検討を行い、分析の結果を医師、看護科、医事課と共有し、来年度の機能評価係数アップに向けての対策を行った。

今後も、他院とのベンチマークや更に詳細なデータ分析を行い、医療の質向上、医療の標準化に繋がるよう委員会で検討していきたい。

構成員

委員長 畑澤 淳一

副委員長 藤盛 修成

江畑公仁男

委員 丹羽 誠 塩屋 斉 佐藤セツ子 藤井 洋子

小宅 英樹 郡山 邦夫 浮嶋 優子 佐藤恵美子

照井 圭子 木村 宏樹 千葉 崇仁 佐藤 恵

活動報告（検討内容）

平成25年12月11日

- ・在院日数分析について
- ・DPC コーディングガイドについて

平成26年 3月27日

- ・平成26年度医療機関別係数について
- ・部位不明・詳細不明コードについて

< 文責 木村宏樹 >

クリニカルパス委員会

概要

院内におけるクリニカルパス作成及び普及を推進・支援し、診療の質及び患者サービスの向上に寄与することを目的とする。

構成員

委員長	藤盛 修成				
委員	和泉千香子	畑澤 淳一	伊勢 憲人	江畑久仁男	小松 明
	塩屋 斉	奥山 厚	千葉 修治	下夕村優子	佐々木史子
	柿崎 拓磨	森本 和子	塚本 梢	藤沢 親子	矢野多智子
	町本 典子	郡山 邦夫	小宅 英樹	高橋 洋	原田 優子
	照井 圭子				

平成25年度退院患者パス適用率

診療科	パス適用件数(件)	退院患者数(人)	パス適用率(%)
内科	0	67	0%
外科	481	873	55.1%
整形外科	0	446	0%
産婦人科	339	446	76.0%
小児科	2	385	0.5%
泌尿器科	95	234	40.6%
眼科	88	88	100.0%
消化器内科	601	1,697	35.4%
循環器内科	16	271	5.9%
麻酔科(ペインクリニック)	0	30	0.0%
合計	1,622	4,537	35.8%

平成25年度新規作成パス

- ブロンコ(入院・外科) (外科)
- ラパロ単径ヘルニア (外科)
- 婦人科TC療法(当日入院)1回目 (婦人科)
- 婦人科TC療法(当日入院)2回目以降 (婦人科)
- 子宮鏡検査 (婦人科)
- 白内障 (眼科)
- 心臓カテーテル検査(右足用) (循環器内科)

< 文責 照井圭子 >

業務改善委員会

構成員

委員長	藤盛 修成			
委員	伊勢 憲人	石田 良樹	藤原 理吉	小田嶋尚人
	木村カズ子	佐藤セツ子	高本 和子	佐藤恵美子
	原田 優子	佐々木佳子	佐藤 昌悦	佐藤 正弘
	浮嶋 優子	柿崎 正行		

概要

病院目標にもある「健全で戦略的な病院経営」について、「各職場における徹底した経費の見直し 収益に対する費用を考えた業務の実行」の観点から、業務改善について協議を行った。

手始めに各部所より、取組中の事例、取組可能な事案について調査票を提出してもらい、その中から、1) 物品・契約等経費関連 2) 人件費等関連 3) 患者確保・収益確保関連の項目について、それぞれワーキンググループを結成して、詳細に分析・対応策等について協議を行った。

【各ワーキンググループ検討結果】

1) 物品・契約等経費関連検討WG

木村カズ子・原田優子・佐藤昌悦・阿部光子・菅原祐司・柿崎正行

- ・節電・省エネ・物品の適正管理・契約の見直し等の継続運用とガイドラインの作成。
- ・手術に係る原価計算検討チームを立ち上げる。
- ・物品等適正在庫確認ラウンドの実施

2) 人件費等検討WG

藤盛修成・伊勢憲人・小宅英樹・佐藤恵美子・高本和子・佐藤正弘・浮嶋優子・藤木正文

- ・時間外労働時間減のため、入院患者の定期処方について医師事務作業補助者の代行入力との協力と定期処方の定義・運用について見直しを行った。
- ・注射処方については、締切時間の厳守、「点滴終了」のコメント入力の実施を強調した。

3) 患者確保・収益確保検討WG

藤原理吉・石田良樹・佐藤セツ子・佐々木佳子・小田嶋尚人・照井圭子・高橋功

- ・当院の強みを出す方針、目標設定が第一に必要なため、消化器センターを中心にすべき。これを職員の共通認識とする。
- ・そのための医師確保、患者受入れのための診療体制の構築、協力体制について重要ととらえ、検討する。

以上、協議検討結果について、平成25年12月26日開催の業務連絡委員会に報告した。

< 文責 照井圭子 >

地域交流推進委員会

当委員会は平成21年度より、地域住民の健康に関する意識向上と良質な医療を地域住民に提供し、当院に対する理解向上を目的とした地域交流委員会を設置されました。

所期の目的の達成のため、「市立横手病院出前健康講座」を行うこととしており、対象は地域の公民館、いきいきサロン等で、主催者より講演依頼があった場合、当院の職員が地域に出向き、健康や病気の治療・予防に関する内容の講演を行うものとしております。

講座も5年目となり、講演内容の充実に努め、23年度からは診療放射線科、24年度には臨床検査科からの講座を新たに加え、27講座を準備して地域住民の方たちに理解しやすい内容となるように努めております。以下、25年度の実施状況は下記のとおりとなっております。

委員会名簿

委員長 吉岡 浩（医局）
 委員 船岡 正人（医局） 木村カズ子（看護科） 石田 良樹（薬剤科）
 原田 優子（食養科） 小田嶋尚人（リハビリテーション科）
 藤原 理吉（診療放射線科） 佐藤恵美子（臨床検査科）
 柴田 昌洋（健康管理センター） 佐藤 正弘（事務局） 高橋 功（総務課）

委員会開催状況

25.4.24（水）

- 案件 ・24年度出前健康講座実施状況について
 ・25年度出前健康講座メニューについて
 ・25年度上半期の分担について

25.9.18（水）

- 案件 ・25年度上半期の実施状況について
 ・25年度下半期の分担について

講演実施状況

月日	地区・事業所名	場 所	講座名	講 師	参加者
4/8（月）	持 田	持田会館	生活習慣病予防と食生活	管理栄養士 原田 優子	25名
5/1（水）	化 石	化石会館	インフルエンザ等の感染対策	認定看護師 小川 伸	16名
5/27（月）	野 脇	野脇会館	痰ってなーに - その正体と働きについて -	臨床検査技師 佐々木絹子	12名
6/11（火）	上猪岡	上猪岡構造 改善センター	放射線被ばくや放射線検査について	放射線技師 藤原 理吉	22名
6/17（月）	増田 戸波	戸波会館	誤嚥ってなあに	言語聴覚士 古関 佳人	17名
6/19（水）	大雄 田村	新町コミュニ ティセンター	正しい傷の手当について	認定看護師 佐藤美夏子	29名
6/27（木）	山内地区	山内 ふれあい館	小児への薬の使い方	薬剤師 渡邊 圭子	12名
7/11（木）	雄物川 薄井	館合公民館	正しい薬の使い方	薬剤師 小宅 英樹	15名

7/16(火)	増田 四ツ谷	四ツ谷会館	誤嚥ってなあに	作業療法士 高橋 洋	17名
7/18(木)	大雄 上田村	上田村会館	正しい薬の使い方	薬剤師 石田 良樹	26名
7/25(木)	雄物川 大沢	大沢公民館	正しい薬の使い方	薬剤師 石田 良樹	57名
8/1(木)	八 丁	松林会館	放射線被ばくや放射線検査について	放射線技師 郡山 邦夫	17名
9/3(火)	上 境	ふるさと会館	糖尿病のはなし	臨床検査技師 小丹まゆみ	25名
9/17(火)	立館石	立館石会館	脳卒中のリハビリテーション	理学療法士 高橋 貞広	20名
9/19(木)	荒町・川目	荒町会館	生活習慣病予防と食生活	管理栄養士 原田 優子	18名
10/8(火)	雄物川 東里	東里公民館	冬の感染対策	認定看護師 小川 伸	18名
10/25(金)	横手地区	Y2ぶらざ	正しい薬の使い方	薬剤師 石田 良樹	15名
11/1(金)	朝倉碓	碓町内会館	骨髄バンクについて	臨床検査技師 工藤真希子	20名
11/20(金)	鶴巻町	鶴巻町内会館	放射線の健康への影響と放射線検査について	放射線技師 法花堂 学	9名
11/25(月)	根田川	根田川集落センター	正しい薬の使い方	薬剤師 石田 良樹	16名
12/11(水)	寺 村	寺村会館	身体にあった量の食事を摂っていますか？	管理栄養士 川越 真美	26名
12/18(水)	中 村	中村会館	尿検査について	臨床検査技師 長瀬 智子	10名
1/10(金)	中杉沢	中杉沢会館	放射線の健康への影響と放射線検査について	放射線技師 藤原 理吉	9名
1/21(火)	杉 沢	杉沢町内会館	正しい傷の手当てについて	認定看護師 佐藤美夏子	15名
1/31(金)	東成瀬村	東成瀬村防災センター	がんであきらめない	医局 丹羽 誠	25名
2/5(水)	横手地区	横手中央公民館	冬の感染対策	認定看護師 小川 伸	19名
2/20(木)	寺 内	寺内集落センター	むねやけありませんか ~ 逆流性食道炎について ~	医局 荒田 英	17名
2/25(火)	雄物川 大沢	大沢公民館	身体にあった量の食事を摂っていますか？	管理栄養士 川越 真美	51名
3/6(木)	大雄 耳取	耳取集落会館	脳卒中にならないために	医局 塩屋 斉	20名
3/12(水)	田 町	田町会館	生活習慣病予防と運動	リハビリテーション科 小田嶋尚人	9名
3/19(水)	朝倉関根	関根町内会館	そなたに採血するなが！	臨床検査技師 佐藤恵美子	20名

28ヶ所(いきいきサロン24ヶ所、公民館4ヶ所)延べ627名(24年度 19ヶ所 379名)の地域住民の方々に講演を行いました。

前年度より大幅に開催回数、参加者が増加し、特に公民館が1ヶ所から4ヶ所へ、いきいきサロンも6ヶ所、増加しました。地域的な広がりでは、横手地区だけでなく大雄・増田・山内・雄物川地区のいきいきサロン等での開催及び東成瀬村でも開催されました。

今後への改善点としては、事業所での利用が2年続けて出来なかったため、健康管理センターを通じての広報に努めることと、速やかな対応で年間を通じての平均的な実施を図ること、更なる充実に向け、講演メニューの検討を行うことが挙げられており、次年度への課題としております。

<文責 高橋 功>

病院機能評価準備委員会

【概要】

平成7年、当院は全国でも先駆けて病院機能評価のトライアルを受審。平成14年5月に正式な認定を目指し委員会を組織し、平成16年3月にver.4.0を受審。平成17年2月、改善すべき事項の指摘を受け再受審し、この5月にver.4.0認定。

平成22年の認定期限までに更新審査を受けることを決定し、平成20年12月よりver.6.0認定更新に向けて準備を開始した。平成22年3月ver.6.0受審。

平成22年5月に中間的な結果報告を受け、評価2以下の項目についての業務改善に向けプロジェクトチームを立ち上げ改定し、補充的な審査を受審。8月にver.6.0認定。

平成27年3月に更新審査を受けることを決定し、平成25年2月より3rdG：Ver1.0の認定更新に向けて準備を開始した。

医療の質の維持・改善を図ることを目的とし、更なる病院の発展を目指し取り組んでいる。

【構成員】

委員長	診療科（副院長）	吉岡 浩
副委員長	診療科（副院長）	藤盛 修成
委員	看護科（総看護師長）	木村カズ子
	看護科（副総看護師長）	佐藤セツ子
	医療安全管理室（副室長）	高本 和子
	感染対策室（主任）	小川 伸
	事務局（事務局長）	佐藤 正弘
	医事課（課長）	浮嶋 優子
	総務課（課長）	高橋 功
オブザーバー	健康管理センター（副主任）	鈴木久美子
書記	総務課企画係	阿部千鶴子

【活動】

- ・今年度の委員会開催 1回
- ・サーベイヤーによる研修会（東京）参加

更に質のよい医療を提供する、進歩し続けるために更新審査受審が決定された。時代の変化と共に、私達が求められている医療が成されているか確認するためにも職員一同一丸となり、3rdG：Ver1.0認定に向けて取り組んでいきたい。

<文責 阿部千鶴子>

薬事委員会

概要

薬事委員会は院内の薬剤に関する適正な管理、薬剤業務の改善向上、安全性の確保並びに薬事業務の効率的な運営を図ることを目的とする。検討事項は下記の項目とする。

院内の薬品管理に関する事項の審議（新規採用医薬品・限定採用医薬品の審議、採用後の使用状況の確認、医薬品の適正使用、その他）

医療安全や経営面の観点から定期的に採用医薬品を見直す（同種同効品目の比較検討、削減）委員からの提案された事項についての審議

副作用事例の収集・報告・伝達・対策

構成員

	委員	氏名
委員長	副院長	藤盛 修成
	副院長	吉岡 浩
	副院長	船岡 正人
	副院長	江畑公仁男
	診療部長	畑澤 淳一
	診療部長	小松 明
	循環器科科長	根本 敏史
	循環器科科長	和泉千香子
	消化器科科長	奥山 厚
	泌尿器科科長	千葉 修治
	外科科長	伊勢 憲人
	産婦人科科長	滝澤 淳
	内科科長	塩屋 斉
	消化器科科長	武内 郷子
	放射線科科長	泉 純一
	麻酔科科長	寺田 宏達
	整形外科科長	富岡 立
	整形外科科長	菊池 一馬
	薬剤科長	石田 良樹
	4 C 病棟主任	高田真紀子
	医事課主査	照井 圭子
	総務課長補佐	阿部 光子
オブザーバー	院長	丹羽 誠

委員会開催日及び検討事項

	開催日	検討事項
第1回	H25年5月15日	正規採用申請品・院外採用申請品・限定採用医薬品について薬事委員会規約改定(1年以上使用実績のない薬の扱い)
第2回	H25年7月17日	正規採用申請品・院外採用申請品・限定採用医薬品についてカルデナリン錠の採用規格統一の検討 過活動膀胱治療薬の見直し 眼科白内障手術クリパス内の抗生剤の見直し

		ファンギゾンシロップ欠品の対応について 1年以上使用実績のない医薬品の中止について(10品目) ジェネリック薬品採用検討(2品目採用) (ノルバスク錠2.5mg、ノルバスク錠5mg)
第3回	H25年10月2日	正規採用申請品・院外採用申請品・限定採用医薬品について 2ポート生食注の導入検討(製品切替) アマリール錠の規格追加について(0.5mg錠の検討) ジェネリック薬品採用検討(1品目採用) (ロキソニン錠)
第4回	H25年11月20日	正規採用申請品・院外採用申請品・限定採用医薬品について 販売中止品への対応の検討(ビホナゾールクリーム、ドプスCap100) ジェネリック薬品採用検討(2品目採用) (アリミデックス錠、カソデックス錠)
第5回	H26年1月15日	正規採用申請品・院外採用申請品・限定採用医薬品について 販売中止品への対応の検討(アミノトリパ1700mL・1800mL) ゼスタッククリームの中止について 後発品変更連絡書類の廃止について ジェネリック薬品採用検討(5品目採用) (アレグラ錠、セレジスト錠、エフピー-D0錠、サアミオン錠、セロクラール錠)
第6回	H26年3月19日	正規採用申請品・院外採用申請品・限定採用医薬品について DPP-4阻害薬の見直し ジェネリック薬品採用検討(6品目採用) (セルベックスC、アルダクトン錠、レニベース錠(2.5)(5)、メバロチン錠(5)(10))

平成25年度採用品目の動向

新規採用医薬品	6品目
院外採用医薬品	18品目
限定採用医薬品	100品目(延べ数)
使用中止医薬品	52品目
ジェネリック医薬品の採用	内服薬 17品目 注射薬 2品目 外用薬 1品目

まとめ

今年度は薬事委員会規約の一部改定が行なわれ、1年以上使用実績のない医薬品は中止するという項目が新設されました。効果が期待される新薬が次々と発売される中で、必要性の低下している薬剤を適切に抽出して見直し、病院規模に見合った適正な採用品目数を維持しながら全体的な管理を行っていくために一つの指針となると思われます。

ジェネリック薬品については、以前は安価という経済的メリットだけが注目されていましたが、今年度採用した「2ポート生食注」のように、使用する医療者側の利便性や医療安全を考慮した注射薬も数多く発売されるようになりました。また、先発品の製剤設計を見直して錠剤を小型化したり、原薬の苦味をマスキングする技術によって先発品よりも味が良く飲みやすい製品もありますので、患者様の利便性の面からも、先発品より優れている後発品については積極的に評価していきたいと思っております。その一方で、先発品の方が優れている製品の場合は、経済的なメリットとは別に先発品の採用を継続するという判断も必要と思われます。今後もメリット・デメリットを多面的に考慮しながら製品の採用に対応していきたいと思っております。

<文責 佐々木洋子>

衛生委員会

概要

病院事業職員の健康保持及び増進を図るため、また安全衛生管理を推進するために、平成13年度から設置されている。

構成員

委員長	船岡正人
副委員長	藤原理吉（診療放射線科）
委員	丹羽 誠（院長：産業医）塩屋 斉（診療科）佐藤正弘（事務局） 木村カズ子（看護科）鈴木久美子（健康管理センター） 小川 伸（感染対策室）
委員（労働組合推薦）	H25.4.1～H25.10.31 末次エリカ 高橋大樹（看護科） 佐藤裕基（放射線科） 高橋 洋 鈴木 務（リハビリテーション科） H25.11.1～ 末次エリカ 高橋共子 丹 久美 谷口順子（看護科） 高橋 洋（リハビリテーション科）
書記	三浦幸恵（総務課）

委員会開催日時及び検討事項等

【開催日時】 毎月最終木曜17:00～17:30

【検討事項等】

- 4/25 放射線被ばく線量報告。職員採用時の健康診断の見直しについて。
- 5/30 放射線被ばく線量報告。抗体価の疾患別報告等。職員検診二次検診最終受診状況報告。メンタルヘルスチェックの実施について。
- 6/27 放射線被ばく線量報告。職員流行性疾患抗体価採血実施について。新規採用者健康診断書内容について。新規採用者入職後の健康診断実施時期について。メンタルヘルスチェックの実施について。
- 7/25 放射線被ばく線量報告。新規採用者健康診断内容について。平成25年病院職員検診実施について。メンタルヘルスチェックの最終報告。
- 8/28 放射線被ばく線量報告。早朝職員検診について。禁煙外来終了について。メンタルヘルス対策研修会開催について。
- 9/25 放射線被ばく線量報告。早朝職員検診実施状況について。メンタルヘルス対策研修会開催について。
- 10/31 放射線被ばく線量報告。作業環境測定結果について。早朝職員検診終了報告。メンタルヘルス対策研修会開催について。
- 11/28 結核発生に伴う経過と職員健康管理に関する報告。流行性疾患抗体価一斉検査結果。職場におけるメンタルヘルスセミナー受講報告。メンタルヘルス研修会開催報告。メンタルヘルスチェック結果報告。
- 12/26 放射線被ばく線量報告。全国を対象とした風疹報告の推移について。当院の小児ウイルス4疾患抗体価結果。流行性疾患予防接種実施について。職員検診について。メンタルヘルス研修会（2回目）開催日程報告。腰痛対策研修開催検討事案について。
- 1/30 放射線被ばく線量報告。結核発生に伴う接触者調査と職員健康管理に関する報告。メンタルヘルス研修会について。
- 2/27 放射線被ばく線量報告。職員検診の二次検診について。職員全員対象の腰痛対策研修会の開催について。メンタルヘルス研修会について。
- 3/27 放射線被ばく線量報告。職員検診の二次検診について。職員全員対象の腰痛対策研修会の開催について。

<文責 三浦幸恵>

患者サービス向上委員会

目的：選ばれる病院になるために職員一人一人が接遇マナーを身につけることができる。

目標：接遇意識を高めることができる

患者の満足を得るために全職員の対応サービスの向上が図れる

構成員：委員長 木村カズ子

委員 丹羽 誠 江畑久仁男 佐藤セツ子 細谷 謙 柿崎正行
佐藤 正弘 高橋 功

委員会開催日

第1回 平成25年9月10日

平成25年度入院患者アンケート調査結果について

平成25年度接遇研修会について

第2回 平成25年12月4日

平成25年度接遇研修会の報告・研修会アンケート結果について

(10/22 11/12 11/20 時間内実施も含め5回に分けて実施 参加率81.3%)

平成25年度外来アンケート調査について(12月16日～12月20日まで実施)

患者満足度アンケート調査

アンケート結果は院内10箇所の外来待合ホール・病棟ディールームにファイルにし掲示

・入院アンケート調査実施

実施期間 平成25年6月1日～平成25年6月30日(1カ月間)

・外来アンケート調査実施

実施期間 平成25年12月16日～平成25年12月20日(5日間)

接遇研修(全職員対象)

日時：1回目 10月22日 17:30～18:15 参加者 90名

2回目 11月12日 16:30～17:15 参加者121名

3回目 11月12日 17:30～18:15 参加者 34名

4回目 11月12日 16:30～18:15 参加者 68名

5回目 11月12日 17:30～18:15 参加者 34名

参加者 347名(参加率81.3%)

場所 4階会議室1

講師 木村カズ子(患者サービス向上委員会 接遇トレーナー)

テーマ：「クレーム対応の心得」基礎編 何故クレームは起こるのか

身だしなみ 接遇の5原則

事例紹介

<まとめ>

今年度の接遇研修はできるだけ参加できるように工夫し、「クレーム対応の心得」「身だしなみ」「事例」をあげてわかりやすい研修会としました。クレームに対する際の大切なポイントとして苦情とクレームの違い、クレーム対応の心得などDVDを通して具体的事例から基本を再認識することができました。毎年実施している患者満足度調査の結果では沢山のご意見・ご要望をいただきました。貴重なご意見を活かし、地域の皆様が安心して利用できる病院、利用しやすい病院を目指していきたいと思っております。

<文責 佐藤セツ子>

病院教育委員会

当委員会は、院内の職員研修について病院全体で体系的、効果的に実施することを検討するとともに、学术交流を奨励し、推進するために設置された委員会である。

委員会構成

委員長	丹羽 誠
副委員長	藤盛 修成
委員	木村カズ子
	郡山 邦夫
	佐藤 正弘
	高橋 功
書記	三浦 幸恵

なお、平成25年度において委員会は開催されませんでした。職員研修（全職員対象）については、下記のとおり開催されました。

5月16日	AED・BLS研修会	救急センター運営委員会
6月11日	医療安全セミナー	医療安全管理室
17日	医療ガス保安講習会	医療ガス安全管理委員会
8月23日	医療安全対策合同研修会	医療安全管理室（大森病院と合同）
	（9/4・9/9 に未参加者を対象にDVDによるフォローアップ研修）	
9月13日	口腔ケア（感染対策）研修会	感染対策室
10月22日	接遇研修会	患者サービス向上委員会
	（同様のものを11/11・11/20、延べ5回開催）	
11月22日	院内感染対策研修会	感染対策室
25日	メンタルヘルス研修会	衛生委員会
1月24日	医療安全シンポジウム	医療安全管理室
	（2/14・2/18 に未参加者を対象にDVDによるフォローアップ研修）	
29日	救急症例検討会	救急センター運営委員会（消防本部と共催）
2月19日	メンタルヘルス研修会	衛生委員会
3月6日	退院調整に関する研修会	退院調整委員会

<文責 高橋 功>

広報委員会

【概要】

広報委員会は、病院広報誌・病院ホームページを通して、当院の医療情報や活動状況を地域の住民及び医療機関などに広く情報提供することを目的とした活動を行っています。

病院広報誌は、年4回の発行を目標に、患者さん、地域の皆様、秋田県内の各病院、地域医療連携関連の施設などに向けて、当院の活動紹介や医療情報の提供、病気の予防策などを掲載しています。

病院ホームページは、平成22年度にリニューアルし、当院に関する様々な情報を地域の皆様に提供しています。

【構成員】

委員長	診療科	船岡 正人
副委員長	総務課	高橋 功
委員	感染対策室	小川 伸
	診療放射線科	細谷 謙
	医事課	柿崎 正行
	医事課	石山 博幸
	地域医療連携室	高橋 美幸
	総務課	黒澤 雄悦
	総務課	阿部千鶴子

【委員会開催日及び検討事項】

平成25年6月11日	平成25年度広報の年間発行予定について 広報誌33号発行日について 広報誌33号の内容について ホームページについて
平成25年6月26日	広報誌34号発行日について 広報誌34号の内容について ホームページについて
平成25年8月27日	広報誌35号発行について 広報誌35号の内容について ホームページについて

【病院広報誌の発行】

平成25年6月	第33号発行
平成25年8月	第34号発行
平成25年10月	第35号発行
平成26年1月	第36号発行

【その他】

（広報誌）

平成22年度	横手市内の市民向け回覧板による回覧を開始
平成23年度	横手市内全戸配布開始（フルカラー印刷）

（ホームページ）

平成21年度	横手・大森の両病院のホームページをリニューアル
平成23年度	トップページフラッシュ動画化（四季により変化）
平成25年度	臨床研修関連のメールフォーム作成・ホームページ改修

< 文責 黒澤雄悦 >

個人情報保護委員会

【目的】

患者様の個人情報の確実な保護を目的とし、院内の各種情報システムのセキュリティ強化及び各種情報の開示等について、その手法及び各種規程等について検討するとともに、全職員に対して個人情報保護に関する周知を図る。

【構成員】

委員長 佐藤 正弘
委員 丹羽 誠 木村カズ子 高橋 功 浮嶋 優子 柿崎 正行
千葉 崇仁

【業務】

電子カルテシステムの稼動に伴い、各種医療情報システムのセキュリティ強化の検討
「個人情報保護規程」等各種規程・要領等の改正
全職員対象の個人情報保護に関する研修会の開催

【委員会開催状況】

平成25年度については、委員会を一度も開催しなかったものの、新入職員研修会、看護科の随時採用者に係るシステム研修の際に個人情報保護に関する研修を実施した。

また、平成23年度に導入した電子カルテ端末制御管理システムについては、USBメモリ等の外部メモリ・ストレージの使用について、許可されたもの以外は使用不可とし、さらにコピーのログを保存することとしたのに加え、システム上から棚卸を継続実施することにより、USBメモリ等の所在について確認を行なった。

< 文責 千葉崇仁 >

診療記録開示審査委員会

概 要

「横手市個人情報保護条例」の制定を受けて策定された「市立横手病院における診療情報提供実施要領」及び「診療記録開示事務処理要領」に基づき、院内に設置された。本人もしくは家族からの開示請求手続きによって開催される。

構成員氏名

	役 職	氏 名
委員 長	副 院 長	吉 岡 浩
副委員長	院 長	丹 羽 誠
	副 院 長	船 岡 正 人
	副 院 長	藤 盛 修 成
	副 院 長	江 畑 公仁男
	総看護師長	木 村 カズ子
	事 務 局 長	佐 藤 正 弘
	医 事 課 長	浮 嶋 優 子

活動記録

平成25年度は、18件の開示請求があり、文書回覧による決裁により開示を行ったが、委員会の開催実績はなかった。

< 文責 佐藤正弘 >

年報編集委員会

【目的】

市立横手病院の年報を編集することを目的とする

【構成員】

委員長	診療科	小松 明
	リハビリテーション科	山谷 加奈
	診療放射線科	細谷 謙
	薬剤科	渡邊 圭子
	看護科	佐々木史子
	看護科	高橋 優子
	臨床検査科	小丹まゆみ
	食養科	天羽 勝義
	総務課	黒澤 雄悦
	医事課	柿崎 正行

【委員会開催】

平成25年 7月22日

前年度の反省及び今年度の方向性

今年度年報の原稿依頼

平成25年 8月23日

提出済み原稿の校正

未提出原稿の督促と期日

平成25年10月

提出済み原稿の校正と回覧

未提出原稿の督促と期日

平成25年12月

提出済み原稿の最終校正

< 文責 佐藤 恵 >

医療ガス安全管理委員会

構成員

委員長 江畑公仁男（副院長：整形外科）（監督責任者）
副委員長 吉岡 浩（副院長：外科）
委員 寺田 宏達（医師：麻酔科） 照井 洋子（看護科） 和賀美由紀（看護科）
高田真紀子（看護科） 高橋 共子（看護科） 高橋 正子（看護科）
石橋由紀子（看護科） 柏谷 肇（ME） 佐々木洋子（薬剤科）
柿崎 更正（ボイラー技士） 阿部 光子（総務課：事務局）
伊藤 建一（総務課：実施責任者）

委員会開催日

平成26年 3月31日（月）

委員会での協議、活動報告

- 1．平成25年度の医療ガス供給設備保守点検の結果報告及び不良箇所改善事項協議。
- 2．平成25年度のヒヤリハット報告（0件）
- 3．平成25年度の医療ガス供給設備修繕工事の施工報告。
- 4．平成26年度の事業計画として保安講習会の開催、医療ガス供給設備の整備工事の施工、保守点検の実施時期を確認。
- 5．酸素ガス取扱い上の周知文書を配布。各部署への周知を図る。

医療ガスは目に見えないものであり、なお且つ高圧ガスであることから取扱いを間違うと重大な事故につながる恐れがあります。

当委員会では、医療ガスの取扱い上の周知を図り、安全な使用のため知識の習得にも力を入れていきたいと思っております。

< 文責 伊藤建一 >

医療廃棄物管理委員会

構成員

委員長 丹羽 誠（院長・外科）管理責任者
副委員長 佐藤 正弘
委員 佐々木美奈子・石田 良樹・照井 洋子・和賀美由紀・高橋 正子
高橋 共子・高田真紀子・高橋 佳子・石橋由紀子・小田嶋恵美子
小川 伸・藤原 理吉・高本 和子・伊藤 建一

開催日

平成25年 5月28日

委員会の業務

医療廃棄物処理状況の把握
医療廃棄物処理計画の作成
医療廃棄物処理マニュアルの作成
医療廃棄物処理マニュアル及び知識の普及啓発に努める

委員会協議・活動など

- ・ 医療廃棄物の適正処理がされているか、各部署の巡回点検を実施。
- ・ 在宅医療関連の医療廃棄物の廃棄について、当院での受け取り等の対応を検討。また院外処方のため調剤薬局への周知方法も協議。
- ・ 平成24年度の医療廃棄物処理費用が平成23年度に比べて約100万円増加したことから、要因を分析することとし、分別の徹底により費用の削減に努めるよう周知を図る。

当委員会では、院内感染防止の観点からも院内感染対策委員会との連携を強化し、医療廃棄物の適正処理と処理費用の削減に一層努めていきたいと考えております。

< 文責 伊藤建一 >

防災対策委員会

委員構成

自衛消防隊長 丹羽 誠
自衛消防副隊長 吉岡 浩、船岡 正人、藤盛 修成
防火管理者 佐藤 正弘
委員 木村カズ子、佐藤セツ子、佐々木佳子、木下 文子、高橋 礼子、
藤井 洋子、下夕村優子、木村真貴子、高本 和子、川越 弦、
藤原 理吉、佐藤恵美子、原田 優子、小田嶋尚人、末次エリカ、
石田 良樹、柴田 昌洋、浮嶋 優子、高橋 功、阿部 光子、
藤木 正文、伊藤 建一

開催日

第1回 平成25年6月18日
第2回 平成25年10月17日

第1回委員会

平成25年7月3日（水）に実施する防災訓練について協議

【概要】4C病棟から火災が発生した想定で避難訓練を実施する。職員を患者役として非常用ストレッチャーを使用して階段からの避難訓練のほか、指揮、通報連絡、初期消火、防護安全、非常持出訓練などを実施し、災害対策本部へ避難状況等について報告を行う。また病棟では別の防火区画へ横移動による避難訓練を実施する。消火器を使用したことのない職員を対象に消火訓練を実施し、消火器の使用方法を習得する。

手術部門の避難訓練実施について協議

毎回午後には防災訓練を実施しているが、手術が行われる時間帯であるため参加出来ない状況であることから、手術部門単独で平成25年7月5日（金）の午前に避難訓練を実施することで内容を協議。

第2回委員会

平成25年10月30日（水）に実施する防災訓練について協議

【概要】秋田県内陸部を震源とする震度6弱の地震が発生し、停電、断水となった想定で、東日本大震災での反省を生かした対応訓練を実施する。被害状況確認、ライフラインチェック、災害対策本部の機能、医薬品・食料・燃料などの備蓄確認などを実施し、災害対策本部への報告、指示命令に基づく行動などについて訓練を実施する。

火災予防について協議

10月11日に福岡市の医院で10人が死亡する病院発生したことを受けて、あらためて防火体制、避難経路等の確認について各部署へ周囲を図る。

今年度は火災想定による避難訓練と地震対応訓練を実施しました。今後は防火体制を再確認し、あらゆる場面・災害を想定した訓練を積み重ね、安全確保に努めていきたいと思っております。

<文責 伊藤建一>

省エネ推進委員会

構成員

委員長 丹羽 誠（院長・外科）
副委員長 佐藤 正弘
委員 木村カズ子 照井 洋子 小田嶋恵美子 藤原 理吉 柿崎 更生
伊藤 建一

開催日

平成25年6月6日

委員会の業務

エネルギー使用状況の把握と改善策の検討に関すること
省エネルギー対策の決定と実施に関すること
省エネルギーのための設備の改善に関すること
省エネルギーのための啓蒙活動に関すること
その他省エネルギーに関すること

委員会協議・活動など

- ・ H22年度から行った節電対策についてまとめ報告した。
- ・ 照明のLED化を進めるなど、今後の省エネ対策について協議。
- ・ 全職員が節電の徹底を行うよう具体的な取り組みを提示して周知を図る。
- ・ 省エネ法による当院の管理標準の作成を進める。

当委員会では、院内の快適な療養環境を維持しながらエネルギーの使用を効率的に行うことによって省エネルギーを推進し、経費節減と経営改善に資することを目的に活動をしております。現場の業務が多忙なこともあり、こまめな節電がまだまだ徹底されていないようです。節電に対する職員の意識をいかに上げていくか、また設備等の改善による節電をどこまで行っていくのか課題は尽きません。

< 文責 伊藤建一 >

看護科の委員会

教育委員会

【委員会目的】

専門職業人として、個々の支質や能力を伸ばし、主体的に学習し成長してゆくために継続的に支援することを目的とする。

【構成メンバー】

委員長	木村真貴子					
副委員長	石橋由紀子					
企画委員	木村カズ子	佐藤セツ子	佐々木佳子	高橋 佳子		
運営委員	池田 弘恵	末次エリカ	室澤 洋子	高橋まゆみ	地主	愛
	佐藤 秀子	小田嶋ゆう子	佐藤恵美子	小松ルリ子		

【平成25年度委員会目標】

1. 新人教育プログラムの実践を行う
2. 中堅層の教育、育成の見直しをする

【活動内容】

- 4月 新人教育
4月4, 5日 4月8～12日
看護科新規採用職員研修
- 5月 新人研修
5月20日、24日
「輸血投与について」
- 6月 新人研修 糖尿病教室参加
6月22日
心電図研修会（日本光電）
出席者 27名（看護師 新人12名、消防士10名、看護師 5名）
新人フォローアップ 3か月研修
副主任研修 「看護を語る会」 対象5名
師長、主任、新人、教育委員にむけて3分程度のスピーチを行う
- 7月 新人評価
各部署でプリセプター、プリセプティー、各師長、総師長を交えて反省
新人技術チェック表 夜勤前に吸引、点滴、採血の3項目について行う
- 7～8月 手術室見学及び挿管、抜管介助5名
うち手術室勤務者1名は術前術後の病棟看護研修
- 9月 9月25日
「エンゼルケアについて」

- 10月 10月1日
 2年目研修 ケーススタディ発表 師長、主任会で発表
 「脳梗塞後遺症を持つ患者の食事動作確立に向けた関わり」 3 A 佐藤加奈子
 「PTBDを挿入したまま退院となった患者家族へのパンフレットを活用した退院指導」 3 C 高橋 愛美
 「術前訪問での患者との関わり」 手術室 岡本由佳子
 「術前訪問についての検討～一人の患者に視点をあてて～」 手術室 大友 絢香
- 10月24日
 新人フォローアップ 6か月研修
 副主任研修 「看護を語る会」 対象5名
 師長、主任、新人、教育委員にむけて3分程度のスピーチを行う
- 10月30日
 「フィジカルアセスメントについて」(伝達講習)
- 11月 11月1日
 2年目研修 ケーススタディ発表 師長、主任会で発表
 「知的障害のある患者様との非言語的コミュニケーションを活用しての関わり」 2 A 山寺 穂波
 「退院に向けた家族支援 ～健康上の問題を抱えた家族に対して～」 2 A 大黒 成美
 「患者の特性に合った離床センサーの選択」 3 B 本間みどり
 「透析患者の体重コントロール改善に向けて」 透析室 渡部 僚太
 産休中にて提出のみ
 「THAを受けた患者の退院までの看護援助を振り返って」 4 C 布袋屋沙樹
- 3月 新人評価 プリセプター、プリセプティ、各師長が反省

【平成25度の反省】

昨年は新卒新人の独り立ちに時間を要したことから、今年度は新人教育プログラムの整備に力をいれた。教育委員が中心となって現場の意見をすいあげ、どのように進めていけばよいのかを検討してきた。実際にプログラムを使用するのは次年度からであるが現場の声は反映されてきたと思う。今後は昨年度からの課題である中堅看護師のレベルアップにも力を入れていきたい。

<文責 木村真貴子>

看護研究委員会

【構成メンバー】

委員長 高橋 礼子
副委員長 小田島恵美子 高田真紀子
委員 森本 和子 稲川 雅美 高橋 美里 高橋亜由美 鈴木真紀子
佐藤 鋼子 小田島ひとみ

【H25年度委員会目標】

- ・研修会や学会への参加を通して研究委員のレベルアップを図る
- ・固定チームナーシングにおけるコアチームでの取り組みの一つを研究とし、支援する。

【行事】（委員会は毎月1回実施）

- *8月21日 看護研究セミナー参加
セミナー 看護研究を始めるためのABC
セミナー 質的研究においてリッチなデータを得るための入門講座
- *10月3・4日 日本看護協会 成人看護 学術集会（秋田市）参加
- *10月17・18日 全国自治体病院研究発表会参加 3B 高橋まきこ発表
- *11月24日 秋田県医療学術交流大会
消化器センター・健康管理センター 小田島千津子発表
- *12月11日 秋田県看護協会地区支部研究発表会参加 3A 塚本梢発表
- *3月10日 H25年度看護研究発表会

H25年度研究発表 H26年3月10日（月） 参加人数：80名

一群 座長 小田嶋千津子主任

演題1 「人工透析室における固定チームナーシングを導入して」
～看護方式の変更がスタッフの心理にどう影響したか～ 人工透析室 小田嶋明子

演題2 「災害時マニュアル作成に伴った当病棟産科の現状と今後の課題」
2A病棟 田中 由江
3C病棟 高橋 愛美

演題3 「ウォーキングカンファレンス導入後の有効性評価」

講評 薬剤科科長 石田良樹

二群 座長 高橋共子主任

演題4 「在宅移行スクリーニング票を使用した退院支援の取り組み」 3A病棟 小松 智美

演題5 「腹腔鏡下胃切除の現状と今後の課題」
～回復術と腹腔鏡下胃切除術の術後経過と食事量の検討～ 3B病棟 本間みどり

演題6 「腹腔鏡下胃切除の現状と今後の課題」
～腹腔鏡下胃切除患者の食の傾向と今後の取り組み～ 3B病棟 武藤 夏子

演題7 「退院困難事例より検討した入院時情報シートの作成」 4C病棟 高橋はるみ
講評 リハビリテーション科技師長 小田嶋尚人

【総括】

今年度は看護体制を固定チームナーシングとして2年目、コアチームの取り組みに重点を置いて目標を掲げ、各部署から1チームが看護研究に取り組むこととなった。コアチームで目指す目標と看護研究のテーマがなかなか合わず、研究班も研究委員も困惑することの多い一年だった。

今年度は秋田県で大きな学会やセミナーが開催され、多くの委員メンバーが参加することが出来た。レベルの高い研究発表を見る良い機会となった。

現在、論文作成にあたり外部講師による専門的且つ継続する指導がない状態で看護研究に取り組んでいる。院内の認定看護師の協力を頂きながら取り組んでいるが、今後の展望として 研究委員の教育研修を促進し、研究班を支える能力を高めることが必須と考えている。

研究的視点を持って日々の看護業務をすることが 即ち看護の質向上へ繋がると考える。

来年度は研究委員がそれぞれの部署に於いて積極的に指導ができる事を目標としたいと考えている。

<文責 高橋礼子>

看護記録・計画・固定チーム委員会

【委員会目的】

- 1．カルテ開示に向け、看護記録の質の向上を図る。
- 2．看護計画に基づいた看護ケアを提供するため評価・修正し、看護の質の向上を図る。
- 3．患者参加型の看護計画を立案し実践していく。

【H25年度 活動計画】

- 1．体温表の記録ルール作成
- 2．申し送り基準
- 3．チームワークシートの運用

【活動内容】

- 1．随時、各項目についての詳細なルールを決めた。また、観察項目のドレーンなど、当院に該当しない不必要な名称を削除し、選択項目の整理を行った。
- 2．申し送り基準を作成し、必要な4項目に限定し申し送り時間短縮を図った。
- 3．チームワークシートの各部署での運用状況を確認した。
今後は、更に情報収集しながらマニュアル作成に取り組んでいく予定。

【小集団活動報告会】 H26年 2月17日 17:30～19:00

- | | |
|----------------------------|------------|
| ○退院支援における取り組み | 2 A病棟 |
| ○清潔援助の充実に向けた現状把握と今後の課題 | 3 A病棟 Bチーム |
| ○個別性のある看護計画のための記録監査 | 3 B病棟 Bチーム |
| ○退院指導を通しての家族の関わり | 3 C病棟 Bチーム |
| ○受け持ち看護師を中心としたカンファレンスの定着化 | 4 C病棟 Bチーム |
| ○術前・術後訪問のさらなる定着に向けて | 手術室 |
| ○透析導入患者への病棟訪問 | 人工透析室 |
| ○内科外来通院患者に継続した看護を提供するための試み | 内科外来内科チーム |

< 文責 藤井洋子 >

師長会

- 目的**
1. 看護科における諸問題を協議し、看護科運営の円滑をはかる
 2. 病院運営に関する諸問題について看護科の意見を反映する

- 内容**
1. 看護科の諸問題を協議し決議する
 2. 予算、決算、人事、各委員会に関すること
 3. 病院経営への提案及び答弁
 4. リーダー教育
 5. 部署会議・委員会からの報告
 6. 医療安全からの報告

構成 10名（総看護師長1名 副総看護師長1名 看護師長8名）

会議 月1回

【平成25年度目標】

目標管理をしっかりおこない、人材育成に力をいれる

計画

1. 副主任：「私の看護観」発表（新人、師長、主任、副主任に向けて）
2. 現任教育：研修後の伝達講習（パワーポイントを作成し、発表）

結果

上記の計画をすべて行い、良い成果がアンケート結果にも出ている。

自ら発表原稿をつくり発表するということは、機会がなければなかなか経験できる事でないため、自信につながったと思われる。来年度も引き続き行う予定である。

【全体の動き】

- ・ 7月～清拭タオル一部デスポ化
- ・ 12月～勤務時間短縮 職員38時間45分・ 嘱託職員34時間45分

【年間行事】

- ・ 12月19日 師長研修会
- ・ 2月17日 小集団活動発表会
- ・ 3月10日 看護研究発表会

【まとめ】

1年間を通して、師長会にかかる時間が短縮されてきている。

内容をさらに充実しながらも、短時間で会議が終わるように努力していきたい

<文責 佐藤セツ子>

師長主任会

- 業務** 看護科の諸問題を取り入れ意見交換の場としている。
- 目的** 看護科における諸問題を討議し、看護科運営の円滑を図る。
- 内容** 1. 業務手順に関すること
2. 看護科の諸問題を討議し、決議する
- 構成** 22名（総看護師長1名 副総看護師長1名 看護師長9名 看護主任11名）
- 会議** 月初め1回

【内容】

- 4月 新体制での取り組み
- 5月 各科、各委員会よりの報告
- 6月 看護科ポケットマニュアルについて
- 7月 秋田県看護協会総会の報告（総師長 木村カズ子）
平成24年度針刺し切創、皮膚粘膜汚染報告（感染認定看護師 小川伸）
- 8月 病院祭について：日程10/13に決定
糖尿病行事も一緒におこなう予定
延長コードのショート事件
- 9月 働きやすい職場づくり検討会について
11/17 看護フォーラムについて
- 10月 看護師2年目 ケーススタディ発表 4名
- 12月 ふれあい基金について
中途採用看護師 2名について
- H25・2月 インフルエンザについて（感染認定看護師 小川伸）

【まとめ】

師長、主任が一同に会して話合うことは、1ヶ月に1回ではあるが、活発な意見交換ができ、とても内容の濃いものになっている。

医療安全・感染管理・褥瘡対策などの問題点や状況報告、または、委員会内の問題や目標の進行など、この会で検討しながら良質な医療・看護を提供できるようにしていきたい。

<文責 佐藤セツ子>

主任会

【目的】 看護業務に関する諸問題を検討し、看護業務の円滑を図る。

【内容】 1. 業務改善に関する事。
2. 看護手順に関する事。
3. 師長会への提案及び答申。

【構成】 看護科主任

小田嶋恵美子 照井 洋子 石橋由紀子 小田島千津子 高橋 佳子 高橋 正子
高田真紀子 佐藤美夏子 小川 伸 高橋 共子 和賀美由紀

【会議】 月1回（原則的に第2月曜日）

【平成25年度主任会目標】

1. 目標

新人教育においてプリセプティ・プリセプターが共に育つ環境作りをサポートする。

2. 行動計画

チェックリストを確認する。

プリセプティ・プリセプター・主任の信頼関係を構築する。

チェックリストで得られた情報から問題点を把握し、主任として支援できる項目については介入を行う。

院内研修、OJT、OFF-JTが連動できているか確認する。

主任会で情報を共有する。

自身の指導役割と指導能力向上に努める。

【目標の反省】

- 1) 主任会の会議時間を利用し他部署との情報共有はできたが、サポートする時間が十分にとれなかった。
- 2) 師長・主任会等で現状の問題点や今後の教育についてディスカッションする時間を設けることはできないか。

<文責 石橋由紀子>

看護補助者会

構成 45名（看護補助者28名 業務員17名） 平成26年3月末

24年度からの急性期看護補助者体制加算50:1と夜間急性期補助者体制加算100:1も軌道にのり、看護補助者の力がなくてはスムーズに1日が終わらないほど、看護師の勤務軽減につながってきている。

年間計画されている研修会にも積極的に参加しており、研修目的である「チームの一員として質の高い看護サービスの担い手としての役割行動を養う」ために、日々研鑽している。自分たちもチームの一員である自覚をもち、さまざまな意見を看護補助者間でまとめ提案もしてくれるようになった。

入職、退職と出入りが多く、また、年齢にも幅がでて、大変な1年であったが、健康管理にも注意し、長期に病休になる人もなく大変よかった。

年間目標

ここにゆとりをもつ

多職種とのコミュニケーションをとり、協力しあう

25年度の反省

各部署とも比較的コミュニケーションを取ることができ、問題発生時もスムーズに解決できた

多忙なところに新たな業務が増えて大変だった

看護師ともこまめに連絡をすることで業務がスムーズにできた

来年度も看護補助者としてのレベル向上を目標に研鑽していく予定である

25年度研修実績

	開催月	内 容	担 当
1	4/16,18 7/10	標準予防策について	感染管理認定看護師 小川 伸
2	8/23 9/4,9/9	医療安全の施策と動向 D V D	東京医療保健大学大学院准教授 望月聡一郎先生
3	9/13	口腔ケアの取り組み	秋田組合総合病院 認定言語聴覚士 藤原香織先生
4	10/23.28 11.7	体位変換とポジショニング	皮膚・排泄ケア認定看護師 佐藤美夏子
5	10/22. 11/12.20	接遇研修 クレーム対応	総看護師長 木村カズ子
6	11/6	転倒転落対策セミナー	株式会社テクノスジャパン
7	11/22	カテーテル関連血流感染防止の基礎と 最近の知見	山形大学医学部附属病院検査部長 森兼啓太先生
8	1/24 2/14.18	医療安全シンポジウム D V D	座長 診療科 寺田宏達 パネリスト 5名
9	1/30	インフルエンザとノロウイルス	感染認定看護師 小川 伸

<文責 佐藤セツ子>

學術研究業績

医局勉強会

平成25年4月～平成26年3月

平成25年4月	絞扼性イレウス・・・・・・・・・・・・・・・・船岡 正人（消化器内科）
平成25年4月	胃がんについて・・・・・・・・・・・・・・・・奥山 厚（消化器内科）
平成25年5月	スタチン製剤について・・・・・・・・・・・・・・・・小宅 英樹（薬 剤 科）
平成25年5月	胃癌に対する脾摘を伴わない腹腔鏡下胃全摘術・・・伊勢 憲人（外 科）
平成25年6月	新しい経口抗凝固薬について・・・・・・・・・・・・・・・・和泉千香子（循環器内科）
平成25年6月	肥満と胃腸の病気・・・・・・・・・・・・・・・・藤盛 修成（消化器内科）
平成25年7月	薬物相互作用について・・・・・・・・・・・・・・・・佐々木洋子（薬 剤 科）
平成25年7月	M R I 脊髄異常信号病院・当院症例中心に・・・・・・・・泉 純一（放射線科）
平成25年9月	低身長について・・・・・・・・・・・・・・・・小松 明（小 児 科）
平成25年10月	血液透析について・・・・・・・・・・・・・・・・千葉 修治（泌尿器科）
平成25年10月	がん疼痛管理における非オピオイド性鎮痛薬の位置づけ ・・・・・・・・石田 良樹（薬 剤 科）
平成25年11月	高K血症・・・・・・・・・・・・・・・・高木 遥子（循環器内科）
平成25年11月	新型出生前検査について・・・・・・・・・・・・・・・・畑澤 淳一（産 婦 人 科）
平成25年12月	1．レミフェンタニルにより生じた除脈に対して イソプロテレノールが有用であった一例 2．帯状疱疹関連痛の病態と治療・・・・・・・・本郷 修平（麻 酔 科）
平成25年12月	低侵襲脊椎手術・・・・・・・・・・・・・・・・菊池 一馬（整形外科）
平成26年1月	手術部位感染対策について・・・・・・・・・・・・・・・・吉岡麻依子（外 科）
平成26年1月	原因不明消化管出血・・・・・・・・・・・・・・・・荒田 英（消化器内科）
平成26年2月	頭痛の達人養成塾・・・・・・・・・・・・・・・・塩屋 齊（脳神経内科）
平成26年3月	救急センターでのC P Rについて・・・・・・・・江畑公仁男（整形外科）
平成26年3月	慢性C型肝炎治療・・・・・・・・・・・・・・・・武内 郷子（消化器内科）

平成25年 学術発表

	月 日	学 会 名	開催地	演 題	発 表 者	
1	H25.11.2	日本臨床麻酔学会 第33回大会	金沢市	内視鏡用送水装置を使用して灌流を行ったため心不全に近い状態となった子宮鏡下筋腫切除術の1症例	医 局	寺田 宏達
2	H25.5.24 ~26	日本超音波医学会 第86回学術集会	大阪市	くも状エコーの造影USにおける問題点	医 局	中島 裕子
3	H25.11.16	第41回 日本頭痛学会総会	盛岡市	頭痛・神経痛で発症し頭蓋底転移から診断された前立腺癌の一例	医 局	塩屋 斉
4	H25.7.17 ~19	第68回 日本消化器外科学会総会	仙台市	腹腔鏡下幽門側胃切除における 11pリンパ節郭清の手技	医 局	伊勢 憲人
	H25.11.28 ~30	第26回 日本内視鏡外科学会	福岡市	Adachi VI型の総肝動脈走行異常症例に腹腔鏡下 8a,12aリンパ節郭清		
5	H25.4.11 ~14	第72回 日本医学放射線学会総会	横浜市	急性膵炎診療ガイドライン2010重症度判定基準による当院急性膵炎症例の検討	医 局	泉 純一
6	H25.5.23	第86回 日本整形外科学会学術総会	広島市	四肢外傷・四肢疾患に対する超音波ガイド下伝達麻酔の有用性	医 局	富岡 立
7	H25.3.10	第43回 日本超音波医学会東北地方会	仙台市	USで術前診断ができた黄色肉芽腫性胆嚢炎(XGC)の一例	医 局	吉岡麻依子
8	H25.11.1	日本臨床麻酔学会 第33回大会	金沢市	レミフェンタニルにより生じた徐脈に対するイソプロテレノールの効果	医 局	本郷 修平
9	H25.5.24 ~26	日本超音波医学会 第86回学術集会	大阪市	B-modeで描出困難な肝転移症例の検討	医 局	渡邊 健太
10	H25.7.12	第195回 日本消化器病学会東北支部例会	弘前市	G-CSF産生肝内胆管扁平上皮癌の1例	医 局	三浦 孝也
11	H25.11.21	第75回 日本臨床研修外科学会総会	名古屋	若年発症した虫垂細胞カルチノイドの1例	医 局	宮嶋 和宏
12	H25.6.29	第10回 日本褥瘡学会東北地方会	秋田市	右後腸骨稜部から仙骨部に褥瘡を保有する1症例にV.A.C.ATS®治療システムを使用した経験	看護科	遠藤ちづる 佐藤美夏子 渡邊 圭子 武内 郷子
13	H25.10.17 ~18	第52回 全国自治体病院学会	京都市	腸間膜動脈閉塞症患者の栄養管理への援助	看護科	加賀谷優紀 佐々木まき子
14	H25.9.21	第29回 日本診療放射線技師学術大会	松江市	秋田県の医療施設におけるCT被ばくの実態調査	診療放射線科	法花堂 学
15	H25.1	(公社)秋田県理学療法士会 秋田理学療法		当院における胃癌患者の術後経過へ影響を与える因子の検討	リハビリテーション科	石川 順基
16	H25.5.25	日本手術看護学会 第34回 東北地区学会	仙台市	術前・術後訪問定着に向けて - 術前術後訪問用紙の改善 -	手術室	小西千穂子 小田嶋ひとみ 岩村 久子 石橋由紀子
17	H25.5.26	日本超音波医学会 第86回学術集会	大阪市	胆管炎に伴う門脈血栓の2例:造影超音波所見を中心に	臨床検査科	小丹まゆみ
18	H25.3.1	第28回 日本環境感染学会	横浜市	尿道留置カテーテルの留置期間短縮の取り組み	感染対策室	小川 伸
	H25.5.24	第2回 日本感染管理ネットワーク学術集会	高槻市	針刺し・切創防止の取り組み		
19	H25.10.17 ~18	第52回 全国自治体病院学会	京都市	在宅における褥瘡ケア	訪問看護センター	佐藤 友紀
20	H25.8.30	第54回 日本人間ドック学会学術大会	浜松市	経鼻内視鏡検査における前処置所要時間と苦痛度の関連性	健康管理センター	鈴木久美子 松浦 喜美

職員等互助会

職員等互助会

概 要

職員等互助会は、当院に勤務する職員及び嘱託職員並びにパート職員（会員）の相互共済を図り、福利増進に寄与することを目的としている。職員歓送迎会、盆踊り大会参加、研修旅行、大忘年会など各種行事の主催・運営、祝い金・見舞金・弔慰金の給付、院内同好会活動への補助を行っている。今後もこれらの福利厚生事業などを通じ、会員の親睦と交流を深め、所期の目的を達成するため活動をしていく予定である。

役員氏名

会長	藤盛 修成
副会長	郡山 邦夫
幹事	高橋 功、平塚多喜雄、原田 優子、小田嶋恵美子、 丹 厚子、後藤美佐子
監事	木村カズ子、浮嶋 優子
事務	藤木 正文

25年度に実施した主な病院行事等

○平成25年4月19日 職員歓迎会 横手セントラルホテル 参加者121名

実行委員長 小松 明

実行委員 郡山 邦夫、古関 佳人、大山 丹子、大嶋 聡子、二坂由紀子
佐藤 悦子、室澤 陽子、本間みどり、佐藤 郁美、松川かおり
佐藤 有紀、小田嶋明子、亀谷 良文、高橋真知子、松浦 善美

○平成25年8月15日 市民盆踊り大会 横手市役所前 おまつり広場 参加者70名

実行委員長 泉 純一

実行委員 法花堂 学、加賀 直之、北小路由紀、石田 拓耶、幕沢 美紀
伊藤 望、菅原なつき、大沼千沙都、武藤 夏子、小松孝太郎
草薨美保子、谷藤 文子、大友 絢香、柿崎 更生、伊藤有希子
伊藤 尚子

○平成25年9月7日、14、18、28日、10月18、23、27日

研修旅行 仙台、気仙沼・大島、東京、熱海・箱根 参加者71名

実行委員長 塩屋 斉

実行委員 細谷 謙、高橋 貞広、高橋 紀子、柴田 一美、石川 勝美
吉永 桃子、小松 智美、鈴木 早希、菊谷 有香、今野谷沙織
小田嶋恵美子、岡本由佳子、菅原 祐司、千葉 禎彦、佐藤 裕香

○平成25年12月20日 大忘年会 横手セントラル 参加者209名

実行委員長 和泉千香子

実行委員 柿崎 千尋、後藤沙央里、小柳 聡子、柴田 一美、原田 優子
佐藤 悦子、高根 芙実、佐々木沙也佳、藤原佑美子、林 かおり
生出 春美、大友 絢香、三浦 幸恵、山中慎太郎、佐々木和貴子

平成25年12月23日 白衣のクリスマスコンサート 一般100名、職員40名

実行委員長 渡邊 健太

実行委員 佐藤 裕基、高橋 貞広、北小路由紀、佐々木絹子、藤原 由香
佐々木美智子、伊藤 開、高橋早希子、小川千夏子、江畑 祐佳
菅原 珠美、中村勇美子、黒澤 雄悦、小椋美紀子、勝長 薫

平成26年3月14日 送別会 松與会館 参加者162名

実行委員長 寺田 宏達

実行委員 村上 千恵、石川 順基、小宅 英樹、佐藤恵美子、藤原 由香
佐藤 智美、西屋 洋子、泉川真美絵、山田 沙織、鈴木真紀子
鈴木亜季子、嶋田麻由子、高橋 功、阿部千鶴子、石塚 紫

サークル補助等 4件

慶弔給付 結婚祝金 16件、弔慰金 14件、退職報償金 16件、入院見舞金 0件

< 文責 亀谷良文 >

同好会活動

野 球 部

平成25年度 野球部活動報告

今年度の野球部の活動は、新入部員も加入して公式戦である県南病院対抗野球大会に向けて練習を重ねてきましたが雨の為、中止となってしまいました。例年に無い大雨で練習も予定していた日数をこなすことができず、物足りない活動となってしまいました。来年は天気に恵まれればよいと思っています。

今年度の野球部において収穫としては横手市3病院（横手、平鹿、興生病院）との交流が持てたことです。中々練習試合も組めない中で、3チームと合同での練習、試合ができたことは部員一人一人が現在より一段上のレベルを目指す糧になりました。今後も交流を通じて多くの試合を行いたいと思います。来年は大会で優勝目指して頑張っていきたいと思います。

主な活動内容

日付	内容	場所
6月1日	練習	大鳥公園
6月15日	交流試合	大鳥公園
11月29日	横手病院野球部 忘年会	松の蔵

< 文責 加賀直之 >

バレーボール部

【活動】

平成25年 5月20日	さかえ館で練習
平成25年 6月 3日	さかえ館で練習
平成25年 6月10日	さかえ館で練習
平成25年 6月17日	さかえ館で練習
平成25年 6月24日	さかえ館で練習
平成25年 7月 1日	さかえ館で練習
平成25年 7月 8日	さかえ館で練習
平成25年 7月22日	さかえ館で練習
平成25年 7月29日	さかえ館で練習
平成25年 8月 5日	さかえ館で練習
平成25年 8月19日	さかえ館で練習
平成25年 8月26日	さかえ館で練習
平成25年 9月 2日	さかえ館で大森病院と練習試合
平成25年 9月 4日	大森体育館で大森病院と練習試合
平成25年 9月 7日	第34回秋田県病院対抗バレーボール大会出場 (会場：県営トレーニングセンター)

【第34回秋田県病院対抗バレーボール大会出場メンバー】

1. 小田嶋尚人	リハビリテーション科	2. 古関 佳人	リハビリテーション科
3. 石川 順基	リハビリテーション科	4. 加賀 直之	リハビリテーション科
5. 佐藤 睦子	看護科	6. 高橋まゆみ	看護科
7. 高橋 朋子	看護科	8. 池田 律子	看護科
9. 青池 満雄	医事課(主将)	10. 石塚 紫	医事課
11. 小松田はつみ	医事課		

【第34回秋田県病院対抗バレーボール大会結果】

<予選リーグ>

- 1 試合目 本荘第一病院と対戦し、セットカウント0-2で敗北。
 - 2 試合目 成人病医療センターと対戦し、セットカウント2-1で勝利。
- 1勝1敗で予選リーグ敗退。

<文責 阿部千鶴子>

編集後記

毎年、異常気象と言われ続けていると、正常の気象を忘れてしまう。それほど集中豪雨、ドカ雪がもたらす被害の報道が続く。地球温暖化の影響らしいのだが、根本的な対策もないまま異常気象はさらに異常さの度合いを増していきらしい。

少子高齢化が進む現代、秋田県では更にその程度がひどいが、我々が高齢になった時、世の中はどう変貌しているだろう？ 日々の診療にかまけて熟考することができないているが、そろそろ老後を見越しての身の振り方、暮らし方も思い描く時期になって来ているかもしれない。

<文責 小松 明>